

令和元年度  
鶴岡市男女共同参画に関する市民意識調査  
報告書

令和2年6月

鶴岡市

# 目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査内容	1
3	調査実施の概要	1
4	報告書の見方	2
5	回答者の属性	3
II	調査結果の要約	9
III	調査結果と分析	15
1	男女共同参画社会について	15
2	生活のバランス等について	30
3	就業環境・職場環境について	32
4	女性活躍推進について	37
5	学校教育について	40
6	ドメスティック・バイオレンスについて	41
7	LGBT 等性的少数者について	44
8	行政による取組について	47
IV	参考資料	
	【資料 1】 調査票「鶴岡市男女共同参画に関する市民意識調査」	
	【資料 2】 単純集計結果	
	【資料 3】 集計表(性別・年齢別)	
	【資料 4】 自由記述一覧	

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

本市では、鶴岡市男女共同参画計画において「男女とも いのち輝かせ いつも元気に暮らせるまち 鶴岡」を目指す姿として掲げ、各種施策に取り組んでいる。第2次男女共同参画計画の策定及び男女共同参画に資する施策の検討のため、本テーマに関する市民の意識や生活実態等の把握を目的として調査を実施した。

## 2 調査実施の概要

- (1) 調査期間：令和元年11月14日～11月30日
- (2) 調査方法：郵送法（配布・回収）
- (3) 調査対象者：鶴岡市在住の満18歳以上の男女 2,000人
- (4) サンプルング方法：住民基本台帳からの2段無作為抽出法（層化抽出法・比例配分法）
- (5) 調査配票数・回収数・有効回収率  
配票数：2,000票（住所不明による返送4票）  
回収数：有効648票（無効36票）  
有効回収率：32.5%（648票／1996票）
- (6) 調査主体：鶴岡市 企画部 政策企画課  
実施機関：東北公益文科大学（地域共創・人材育成研究所）

## 3 調査内容

### (1) 男女共同参画社会について

言葉や法律の周知度[質問1]、男女の地位の平等感[質問2]、役割分担等についての意見[質問3]

### (2) 生活のバランス等について

生活の中での優先度[質問4]、配偶者との役割分担[質問5]

### (3) 就業環境・職場環境について

勤務先の制度の状況、取得・利用状況[質問6]、育児休業を取得しなかった(しない)理由[質問7]、男性の育児休業・休暇等の取得について[質問8]、男性が育休を「とらない方がよい」とした理由[質問9]、仕事と仕事以外の生活との調和に必要なこと[質問10]

### (4) 女性活躍推進について

女性就労に必要な支援[質問11]、女性活躍推進に必要な情報[質問12]、女性の意見や考え方の反映[質問13]、女性の意見や考えが反映されていない理由[質問14]

### (5) 学校教育について

男女平等教育に必要な取組[質問15]

#### (6) DV (ドメスティック・バイオレンス) について

パートナーとのDV経験[質問16]、DVについての相談相手[質問17]、相談しなかった理由[質問18]、デートDV等の防止策[質問19]

#### (7) LGBT 等性的少数者について

言葉の周知度[質問20]、セクシュアル・マイノリティの受け入れ[質問21]、セクシュアル・マイノリティへの支援策[質問22]

#### (8) 行政による取組について

鶴岡市としての取組[質問23]

### 4 報告書の見方

- (1) 回答者総数あるいは分類別の回答者数を「N」(Number of Cases の略) と表記している。
- (2) わからない・無回答について「DK/NA」(Don't Know/No Answer の略) と表記している。
- (3) パーセンテージは、回答者総数(該当者のみ対象とした質問の場合は該当者数)全体に占める質問の選択者の割合を算出している。原則として小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならないことがある。
- (4) 1つの質問について「1つ」だけ回答を求めた結果を「単数回答」、当てはまるもの「全て」の回答を求めた結果を「複数回答」と表示している。
- (5) クロス集計(性別、年齢別など)の場合、無回答を除いて集計しているため、回答数の合計が単純集計の回答数(全体)と合致しないことがある。また、クロス集計結果における項目間の関係(独立性)を検定するためにカイ二乗検定を用いた。本調査では5%を有意水準として、「○%水準で有意」等と表記している。
- (6) 本文中の二重括弧『…』は2つの選択肢を合計したり、選択肢等の語句を簡略化したりすることを示している(例:「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」の合計を『女性優遇』と表示)。
- (7) 全国と比較するために内閣府男女共同参画局による調査を参照して、〈全国調査〉と略記している。概要は以下のとおりである。

全国調査「男女共同参画社会に関する世論調査」	
調査時期	平成28年8月～9月
調査対象者	全国20歳以上の日本国籍を有する者5,000人
調査方法	調査員による個別面接聴取法
抽出方法	層化2段無作為抽出法
有効回収数(回収率)	3,059人(61.2%)

- (8) 集計結果については、鶴岡市の年齢構成比に合わせウェイトバック集計を行っている。

## 5 回答者の属性

回答者（サンプル）の年齢構成は実際の鶴岡市全体の年齢構成とは異なることから、サンプルを実際の年齢構成に合わせるために、サンプルに重みづけをして集計を行った（ウェイトバック集計）。

表0 回答者および鶴岡市全体の年齢構成

		回答者数	割合（％）	鶴岡市全体 構成比（％）
合 計		648	100.0%	100.0%
18・19歳		8	1.2%	2.1%
20 歳 代		31	4.8%	8.7%
30 歳 代		66	10.2%	11.4%
40 歳 代		87	13.4%	14.4%
50 歳 代		120	18.5%	14.7%
60 歳 代		163	25.2%	18.6%
70 歳 以上		173	26.7%	30.0%
男 性	合 計	275	42.4%	47.2%
	18・19歳	6	0.9%	1.2%
	20 歳 代	14	2.2%	4.5%
	30 歳 代	29	4.5%	5.8%
	40 歳 代	39	6.0%	7.4%
	50 歳 代	39	6.0%	7.3%
	60 歳 代	64	9.9%	9.2%
70 歳 以上	84	13.0%	11.8%	
女 性	合 計	371	57.3%	52.8%
	18・19歳	2	0.3%	1.0%
	20 歳 代	16	2.5%	4.1%
	30 歳 代	37	5.7%	5.6%
	40 歳 代	48	7.4%	7.0%
	50 歳 代	80	12.3%	7.5%
	60 歳 代	99	15.3%	9.3%
70 歳 以上	89	13.7%	18.3%	
そ の 他	合 計	2	0.3%	
	18・19歳	0	0.0%	
	20 歳 代	1	0.2%	
	30 歳 代	0	0.0%	
	40 歳 代	0	0.0%	
	50 歳 代	1	0.2%	
	60 歳 代	0	0.0%	
70 歳 以上	0	0.0%		

※鶴岡市全体の年齢構成は、令和元年9月30日現在の人口

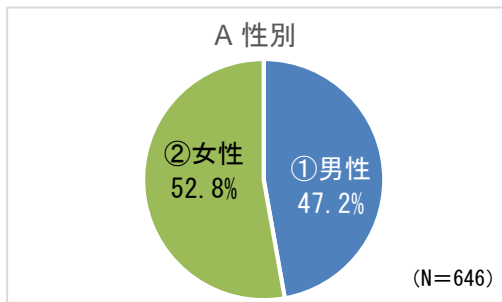
※ウェイトバック集計の際は、鶴岡市全体の人口構成に比率を合わせるため、性別と年齢の無回答者及び性別「その他」の回答者は対象外としている。(N=646)

※補正後のサンプル数は四捨五入して整数表記しており、合計と差異が生じる場合がある。

### (1) 性別

回答者の性別は、男性47.2% 女性52.8%である[図A]。

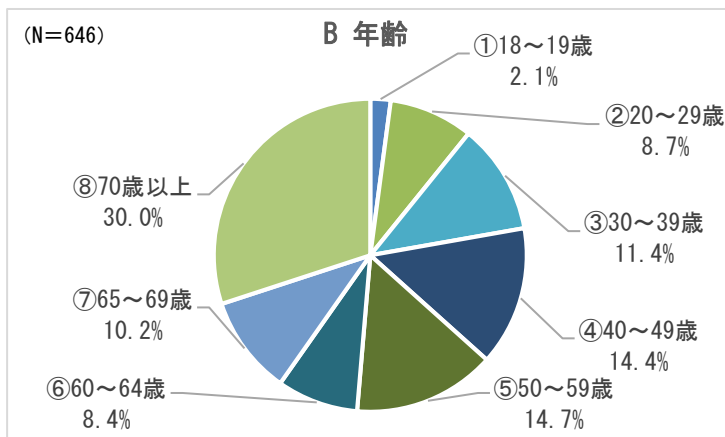
※ウェイトバック集計による補正をかけているため、表0の回答者の割合とは一致しない。



図A 回答者の性別

### (2) 年齢

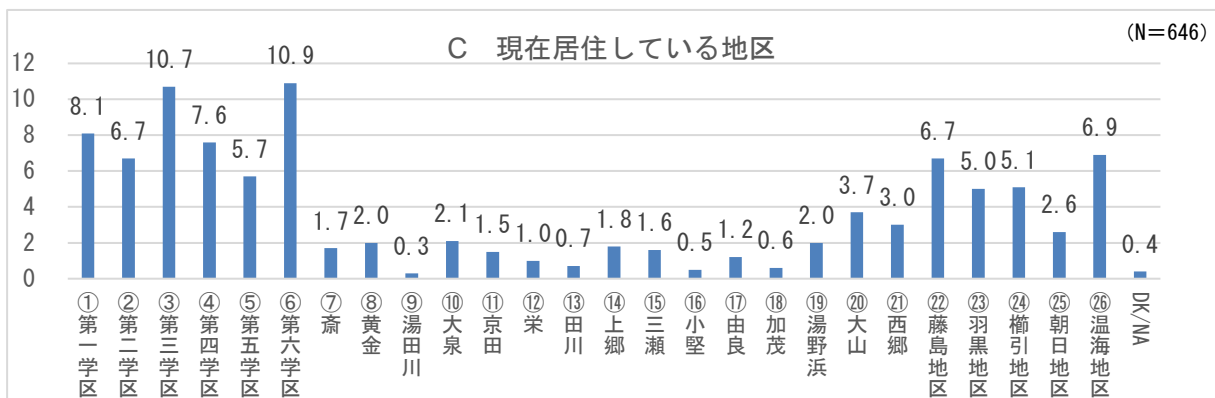
回答者の年齢構成は実際の鶴岡市全体の年齢構成とは差があるため(表0)、ウェイトバック集計による補正を行い、図Bの年齢構成となっている。



図B 回答者の年齢

### (3) 現在の居住地区

回答者の現在の居住地域は、図Cのとおりである。



図C 現在居住している地区

#### (4) 職業

職業は、図 D のとおりである。このうち、自営業、会社経営者・役員、正規雇用者、非正規雇用者（パート、アルバイト、派遣等）に職業分野をたずねたところ(N=360)、図 D-1 のとおりとなった。なお、その他(18.9%)の記述欄には、「医療・福祉関係者(介護、保育等)」との記述が一定数あった(4.6%)。男女別に見ると、女性より男性のほうが正規雇用者の割合が多く、非正規雇用者の割合は女性のほうが多いという結果であった[図 D-2、図 D-3]。

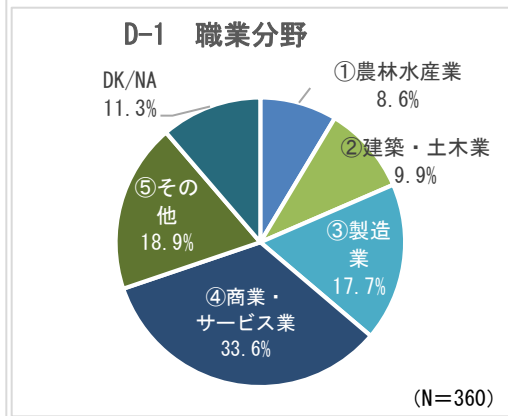
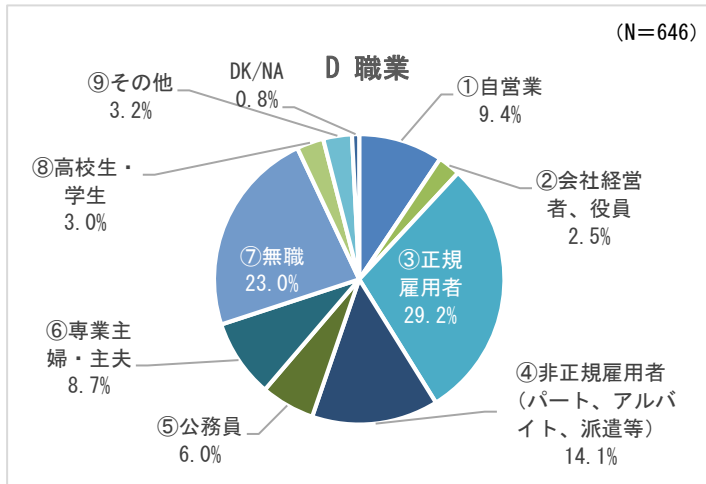


図 D 回答者の職業

図 D-1 職業分野

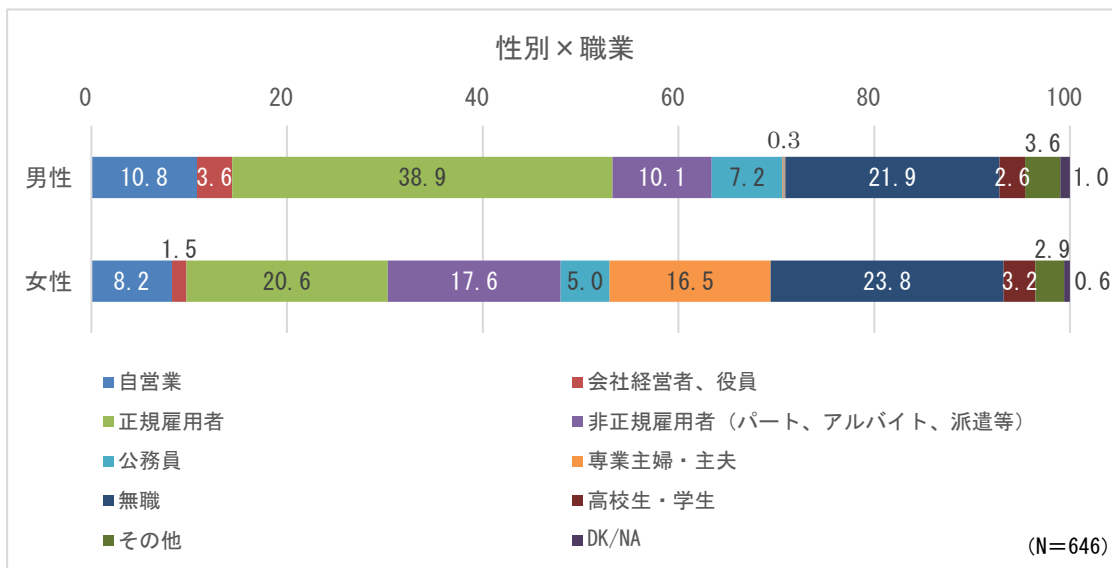


図 D-2 回答者の職業〈性別〉カイニ乗検定 1%水準で有意

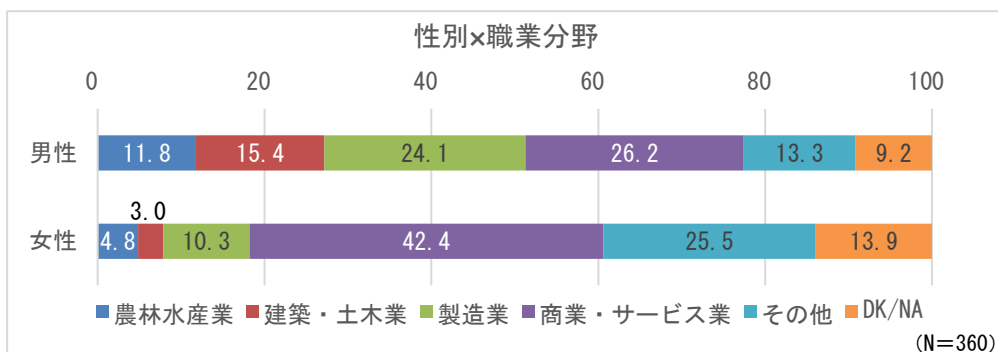


図 D-3 職業分野〈性別〉カイニ乗検定 1%水準で有意

(5) 婚姻関係の有無

婚姻関係は、図 E のとおりである。このうち、既婚(配偶者あり)との回答者(N=415)に対して共働き(内職を含む)かどうかをたずねたところ、共働き 54.8%、共働きでない 34.2%、無回答・不明 11.0%であった[図 E-1]。

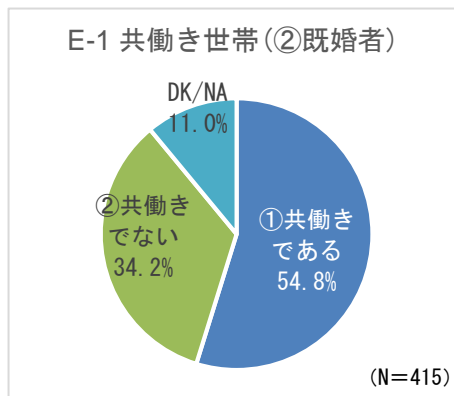
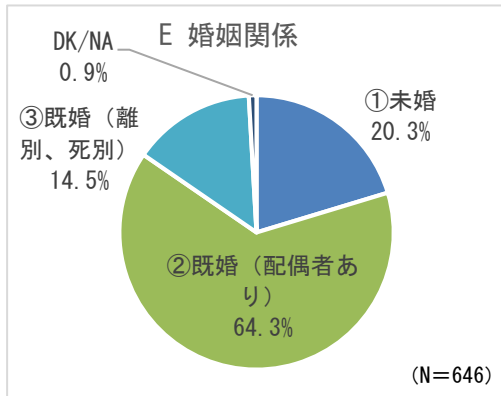


図 E 回答者の婚姻関係

図 E-1 共働き世帯(②既婚者)

(6) 子どもの有無

子どもの有無は、図 F のとおりである。このうち、子どもがいると回答した人(N=459)に対して就学段階と人数をたずねたところ、表 F-1 のとおりであった。

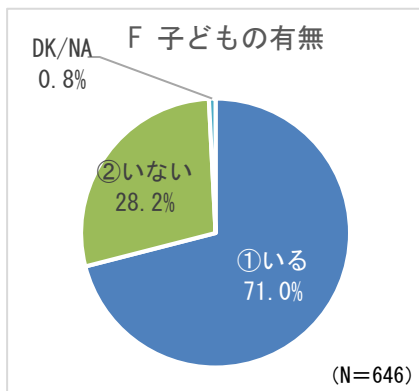


図 F 子どもの有無

	①小学校入 学前	②小学生	③中学生	④高校生	⑤大学生、大学 院生、短大生、 専門学校生	⑥社会人	⑦その他	人数別 合計
1人	7.8	10.0	6.3	8.1	5.2	13.8	1.9	53.1
2人	3.8	4.1	1.0	2.2	0.3	33.0	1.7	46.1
3人	0.1	0.3	0.0	0.1	0.0	17.7	0.1	18.3
4人以上	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.7

表 F-1 子どもの就学段階と人数：複数回答 N=459



(8) 要介護者の同居の有無

介護を必要とする方との同居の有無は、図 G のとおりである。

(8) 世帯構成

世帯の構成は、図 H のとおりである。このうち、その他の ( ) 内の自由記述には「4 世代」の記述(1.4%)があった。

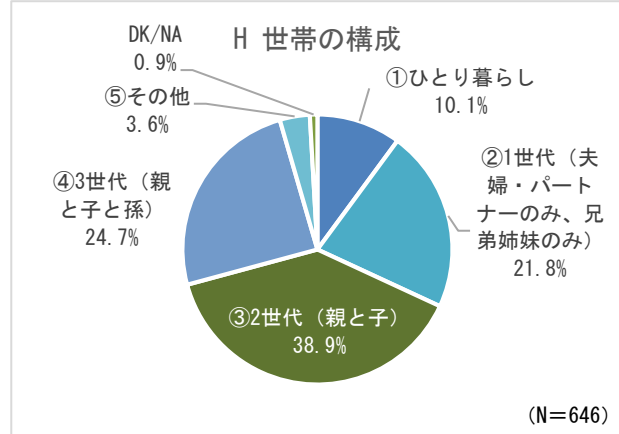
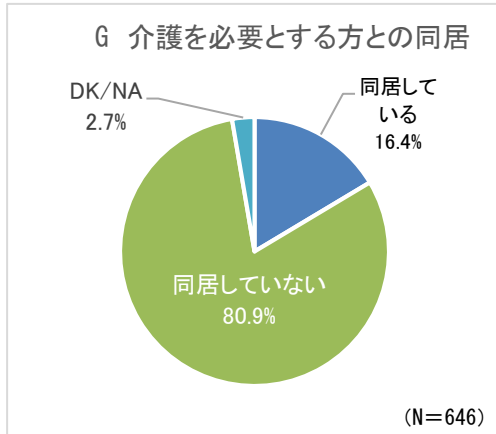


図 G 介護を必要とする方との同居の有無

図 H 世帯の構成

(9) 出身地

出身地は図 I のとおりである。男女別で見ると、鶴岡市出身者の割合は男性が女性を約 10 ポイント上回っている[図 I-1]。

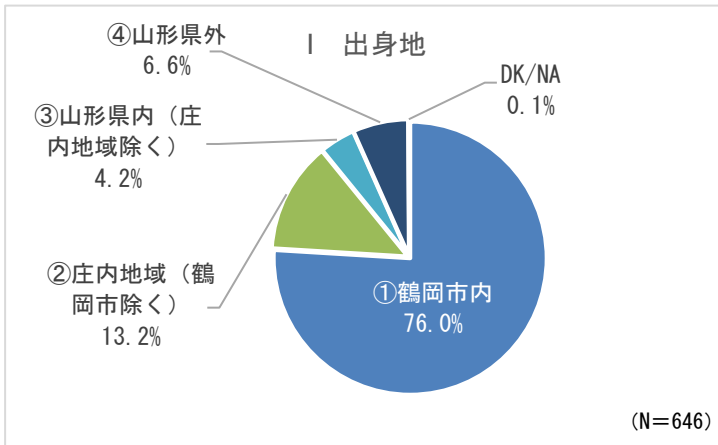


図 I 出身地

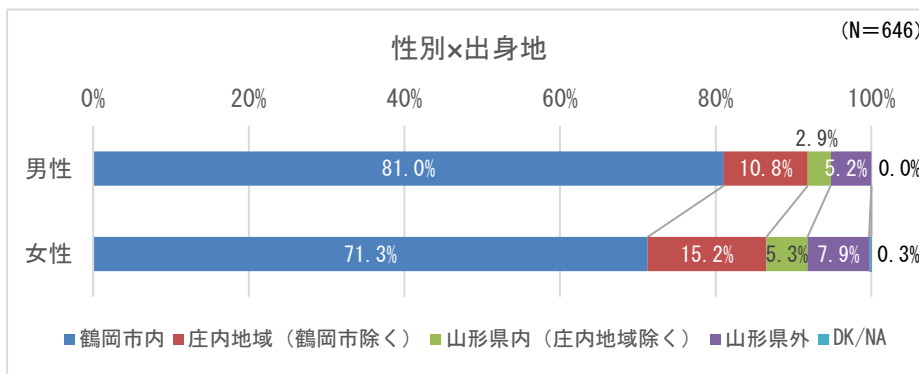


図 I-1 出身地(性別) カイニ乗検定 1%水準で有意

### (10) 市外での居住経験

市外での居住経験は、図 J のとおりである。

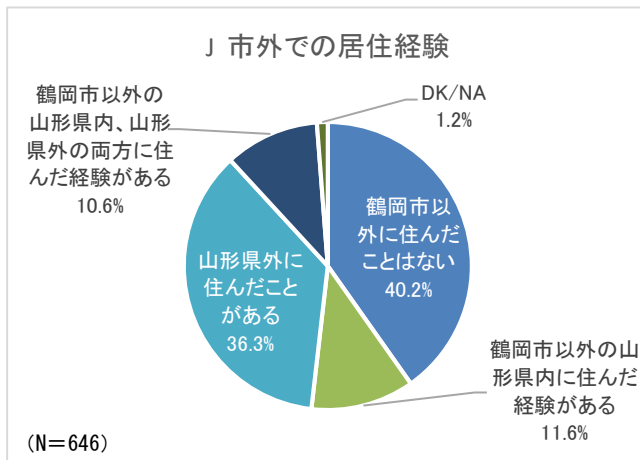


図 J 市外での居住経験

## II 調査結果の要約

東北公益文科大学（調査実施機関）による調査結果の要約について、以下のとおりとなった。

### 1 男女共同参画社会について

#### (1) 言葉や法律の周知度

7項目の言葉や法律について「言葉も意味も知っている」という回答は、DV(ドメスティック・バイオレンス)が8割強であり、つづいて育児・介護休業法7割、雇用機会均等法6割5分となった。「言葉も意味もまったく知らない」という回答は、イクボスが最多で5割強となった。

#### (2) 男女の地位の平等感

8分野のなかで「平等」という回答割合が最も高かったのは、学校教育の場であり6割5分弱となった。法律や制度の上、社会活動の場が3割5分強でこれに続く。他方、『男性優遇』（どちらかといえば男性が優遇されている+男性が優遇されている）と回答した人は、政治の場、社会通念・慣習・しきたりなどで7割に達している。

〈全国調査〉と比較すると、平等感は、社会活動の場、家庭生活、社会通念・慣習・しきたりなどにおいて全国を大きく下回り、この3分野に課題があることがうかがえる。

男女別に見ると、総じて、「平等」という回答割合は男性が女性より高く、『男性優遇』の回答割合は女性が男性より高いという違いがあり、男女で平等感にギャップが存在している。とくに、家庭生活における平等感の男女差は20ポイント近く、最大のギャップとなっている。

年齢別にみると、総じて若年層ほど平等感が高い傾向にあり、とくにここでも家庭生活に関して、若年層(18歳～39歳)と中年層(40歳～64歳)・高年層(65歳以上)とのあいだに20ポイント近い有意差が見られた。

#### (3) 役割分担等についての意見

14項目のなかで『肯定的回答』（「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の合計）の割合が最多で9割強となったのは、⑧妻が勤めていれば、それに見合って、夫（パートナー）も家事を分担すべきだ、つづいて8割5分強の⑥男性も家事・育児を行うことは、当然である、約7割の⑦できれば女性も一生働き続けた方がよい、という順であった。他方、『否定的回答』（「あてはまらない」+「どちらかといえばあてはまらない」の合計）の割合が最多で8割5分となったのは⑨女性は結婚したら、家事・育児に専念すべきである、つづいて7割弱の①男性は外で働き、女性は家庭を守るべき、⑩経済的に自立していればあえて結婚する必要はない、という順であった。また、『肯定的回答』と『否定的回答』がほぼ半々で拮抗したのは、⑫男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしくしつけたほうがよい、であった。

男女・年齢別に見ると、⑥および⑧の家事・育児分担に関する意見については、男性より女性

のほうが『肯定的回答』の割合が高く、⑥は男女とも若い年代ほど『肯定的回答』が多かった。また、性・年齢別で顕著な差がみられたのは、⑫男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうがよい、であり『肯定的回答』は男性6割に対して女性は4割にとどまり、若い人ほど少ない傾向となった。同様に、若年層ほど『肯定的回答』が少なくなったのは、以下の項目である。すなわち、①で男性は外で働き女性は家庭を守るべき、②子どもが3歳くらいまでは母親は仕事を持たず育児に専念すべきだ、④公的に（国や地域や社会など）重要な決定をする仕事は女性より男性に適している、⑤家事や育児には男性より女性が適している、⑨女性は結婚したら家事・育児に専念すべきである、⑭地域活動には積極的に参加していきたい、の項目である。

〈全国調査〉と比較可能な①男性は外で働き、女性は家庭を守るべき、という項目では、本調査における『否定的回答』が〈全国調査〉の『反対』を10ポイント近く上回った。

#### 〔小括〕

- ・ **男女の地位の平等感**は、「学校教育の場」や「社会活動の場」では比較的高くなっているが、『男性優遇』と感じている人は、とくに「政治の場」、「社会通念・しきたり」において多くなっており、しかも男女差があることに配慮して、平等感を高めていく取組が必要である。
- ・ **男性の家事・育児の分担**に肯定的な意見の割合が高く、固定的な性別役割分担に否定的な人の割合も高く、若年層ほどその傾向が強い。しかし、現実の男性の家事・育児の時間は短く（6歳未満の子どもを持つ夫の家事・育児関連時間は1日当たり83分、総務省「社会生活基本調査」2016年）、上でみられたような意識が実際の行動に結びつくような働きかけや取組が必要である。

## 2 生活のバランス等について

### （1）生活の中での優先度

「仕事と家庭生活をともに優先したい」という回答が最多で2割強、次に「家庭生活と個人の生活をともに優先したい」が多かった。男女別で見ると、前者はやや男性の回答割合が高く、後者は女性の回答割合が高かった。

### （2）配偶者との役割分担（既婚者）

仕事における理想は「夫婦が共に担う」4割5分強で最多である一方、現状は「夫婦が共に担い夫が中心になる」が4割で最多であり、家事・育児・介護における理想も「夫婦が共に担う」が5割強と最多で、現状は「夫婦が共に担い妻が中心になる」が4割5分強であった。地域活動については、理想も現状も「夫婦が共に担う」が最多となった。

#### 〔小括〕

- ・ 仕事、家事・育児・介護、地域活動のいずれも、理想を「夫婦が共に担う」とする意識は一定程

度浸透しているものの、現状では仕事は夫が中心になり、家事・育児・介護は妻が中心になるという「性別役割分担」が根強く、その変革が求められる。

### 3 就業環境・職場環境について

#### (1) 勤務先の制度の状況、取得・利用状況（就業している人）

「制度あり」という回答は、有給の時間休が6割5分、育児休業が6割弱、介護休業が4割と上位となった。制度を「取得した」という回答は有給の時間休が5割、定時退勤日・ノー残業デーが4割弱で多数となったが、育児休業の取得の有無では「取得する機会があったが取得しなかった」が「取得した」をわずかに上回った。介護休業・休暇等は、機会があれば利用したいとする回答が多かった。

年齢別に見ると、若年層ほど育児休業を「取得した」、「機会があれば取得したい」という回答が多いという結果となった。

#### (2) 育児休業を利用しなかった(しない)理由

「家族や保育所など育児の担い手がいたから」という回答が3割で最多であり、「自分にしかできない仕事・担当している仕事があったから」、「取得しづらい職場の雰囲気だから」が続いた。

#### (3) 男性の育児休業・休暇等の取得について

「どちらかといえばとった方がよい」3割5分が最多の回答であり、『肯定的回答』（「とったほうがよい」と「どちらかといえばとった方がよい」の合計）は6割5分となった。

男女別では、『肯定的回答』の男性が7割で女性の6割を上回り、年齢別では、若い世代ほど『肯定的回答』の割合が高くなった。

#### (4) 男性が育休を「とらない方がよい」とする理由

とらない方がよいとした理由では、「男性より女性がとるべきである」や「経済的に苦しくなる」、「職場の理解が得られない」が上位となった。

#### (5) 仕事と仕事以外の生活との調和に必要なこと

必要だと思うことについては、「職場での育児休暇(休業)等が取得しやすい雰囲気づくり」、「職場の働き方の見直し」、「病気になっても働き続けられる制度・職場環境の整備」が上位となった。

#### 〔小括〕

- ・男性の育児休業取得に肯定的な回答は6割5分となり、意識の面では浸透してきたといえる。
- ・他方、とらない方がよいと考える理由の最多は「男性より女性がとるべきである」であり、男性が育児休業をとるメリット（本人、パートナー、子どものそれぞれにとって）を積極的に伝

え、取得経験者の存在の見える化（ロールモデル）を図ることが必要である。

## 4 女性活躍推進について

### （１）女性就労に必要な支援

必要な支援については、「保育・介護のための施設やサービス」が7割弱で最多となり、「男女ともに取得しやすい育児・介護休業制度の啓発・促進」、「パートタイム・派遣労働などの雇用の安定や労働条件の整備」、「賃金の引上げ」とする回答が多かった。

### （２）女性活躍推進に必要な情報

必要な情報については、「保育所や幼稚園、放課後児童クラブに関する情報」が6割で最多となり、「介護・家事の支援サービスに関する情報」、「仕事と育児・介護との両立支援制度に関する情報」、「就職・再就職のための職業訓練に関する情報」が上位となった。

### （３）女性の意見や考え方の反映

町内会等や職場、PTA などでは「ある程度反映されている」が多数となり、政治については「あまり反映されていない」が最多となった。

男女別に見ると、『反映されている』（十分反映されている＋ある程度反映されている）という回答割合は男性の方が女性より高くなっている。

### （４）女性の意見や考えが反映されていない理由

反映されていない理由では、「女性議員が少ない」5割強となり、「自治会長や組合団体、地域組織リーダーに女性がいない」、「企業などの管理職に女性が少ない」が上位となった。

## 〔小括〕

- ・施設・サービスのニーズが上位に挙がっているが、男性の育児・介護参加の増加（育児・介護休業の取得の増加も含めて）により、そのニーズを減らしていく方策も有効ではないか。このことも含めて、労働条件整備、賃金の引上げ（とくに男女格差の是正、パートの均等待遇）等の企業への働きかけが必要である。
- ・女性の意見が反映されていない現状を変えるには、女性リーダーを増やす必要があることが示唆された。

## 5 学校教育について

### （１）男女平等教育に必要な取組

「性別にとらわれず本人の個性や能力を生かす教育の充実」が7割強で最多となり、「日常の学校生活の中で平等意識を養う」、「男女の違いを認め豊かな人間関係づくりに関する性の教育の充

実」、「男女ともに生活と仕事のバランスを考えられるような教育」が上位となった。

#### 〔小括〕

- ・本調査結果を教育委員会、学校現場へフィードバックして、課題を共有することが大切である。

## 6 DV（ドメスティック・バイオレンス）について

### （1）パートナーとのあいだのDV経験

DVの経験があるという回答は、「人格を否定するような暴言、脅迫、何を言っても無視するなどの精神的暴力」が最多であり、『DVをされた』（1、2回された＋何回もされた）という回答は約6人に1人、『DVをした』（1、2回した＋何回もした）という回答は10人に1人強となった。

男女別に見ると、『DVをされた』という回答割合は女性が男性より高く、『DVをした』という回答割合は男性が女性より高いという傾向となった。

### （2）DVについての相談相手

相談相手については、「家族・親戚」が3割5分弱で最多となり、次いで「相談しなかった」が多かったが、「行政の相談機関や警察署」の利用は少なかった。

### （3）相談しなかった理由

相談しなかった理由については、「相談するほどのことではない」が5割5分弱で最多となり、「自分にも悪いところがあると思った」、「自分さえがまんすればやっていける」、「相談しても無駄」との回答が上位となった。

### （4）デートDV等の防止策

防止策については、「学校で思いやりの気持ちや生命の大切さの教育の充実」が5割強で最多となり、「被害者のための窓口や相談所の充実」、「DV、セクシュアルハラスメント、ストーカーなどの啓発」が上位となった。

#### 〔小括〕

- ・DV等について、「相談すること」が解決につながる重要な方策であることの啓発や、さらに相談しやすい態勢づくり、相談窓口の周知が求められる。

## 7 LGBT等性的少数者について

### （1）言葉の周知度

『知っている』（よく知っている＋ある程度知っている）という回答割合は、カミングアウトが6割弱で最多となり、セクシュアル・マイノリティ、LGBTが続いた。

## (2) セクシュアル・マイノリティの受け入れ

打ち明けられた場合に、「受け入れられる」対象だとする割合が高かったのは職場の同僚や隣近所の人で、両親や配偶者、子どもなどの身近な人については「すぐには判断できない」とする割合が最も高かった。男女別の有意差は見られず、年齢別では、若年層ほど「受け入れられる」という回答割合が高い。

## (3) セクシュアル・マイノリティへの支援策

支援策は、「相談できる窓口の設置」という回答が6割弱で最多となり、「気持ちや情報を共有できる居場所づくり」、「いじめや差別を禁止する法律や条例の制定」が上位となった。

### 〔小括〕

- ・身近な家族ほど受け入れにくい傾向にあり、全体として「受け入れられる」という回答の割合は低いものの、若年層ほど高い。LGBTに関する情報・知識を伝えていくこと、学校教育のなかで性的マイノリティに関する具体的な取組が必要である。

## 8 行政による取組について

### (1) 鶴岡市としての取組

行政としての取組については、「育児・保育・介護サービスの充実」が6割5分弱で最多となり、「子どもを産み育てやすい環境づくり」、「子育てや介護による離職者の再就職支援」、「平等意識を育てる学校教育の充実」の順に回答割合が高かった。

男女別に見ると、上の4項目のいずれにおいても女性の回答割合が男性のそれを上回った。

### 〔小括〕

- ・サービスの充実という要望に応えるとともに、男性の家事・育児・介護参加の促進（育児・介護休業取得の勧め）に取組むことが必要である。子どもを産み育てやすいまちづくりの意識喚起や働きかけが重要になろう。また、女性の再就職支援の取組の充実が求められている。



### Ⅲ 調査結果と分析

#### 1 男女共同参画社会について

##### (1) 言葉や法律の周知度 [質問 1]

7 項目の言葉や法律について知っているかをたずねたところ、**図 1** のとおりの結果となった。「言葉も意味も知っている」という回答は、④DV(ドメスティック・バイオレンス) (81.7%)が最多で、つづいて③育児・介護休業法(71.0%)、②雇用機会均等法(65.9%)の順となった。他方、「言葉も意味もまったく知らない」という回答は、⑦イクボス(52.3%)が最多となった。

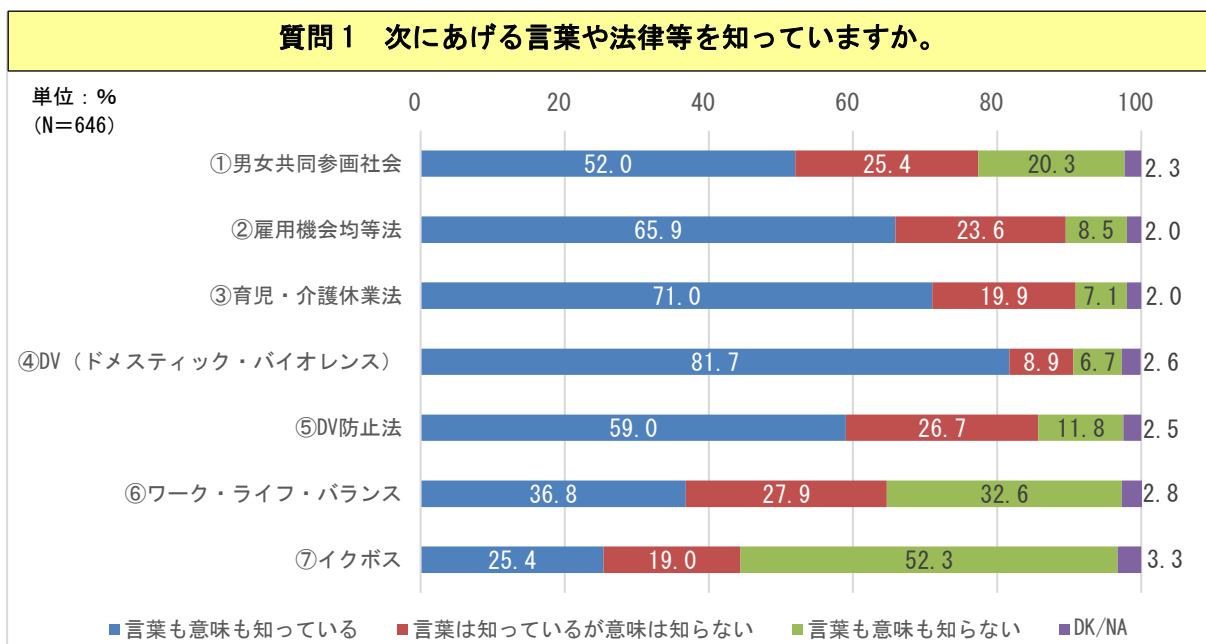


図 1 言葉や法律の周知度

年齢別 (18~39 歳の「若年層」、40~64 歳の「中年層」、65 歳以上の「高年層」の 3 カテゴリー、以下同様) に見ると、DV は言葉も意味も知っている割合が若年層ほど高かった[**図 1-1**]。他方、イクボスは全体に認知度が低いものの、そのなかでは中年層の認知度がやや高い[**図 1-2**]。これは、中年層にはイクボスが現実の課題として視野に入ってきているということであろう。

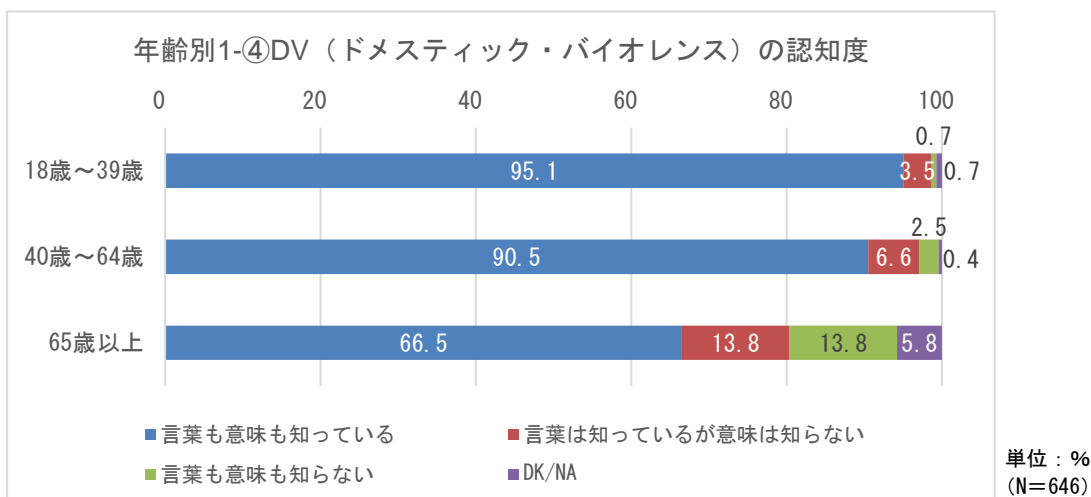


図 1-1 DV の周知度〈年齢別〉カイニ乗検定 1%水準で有意

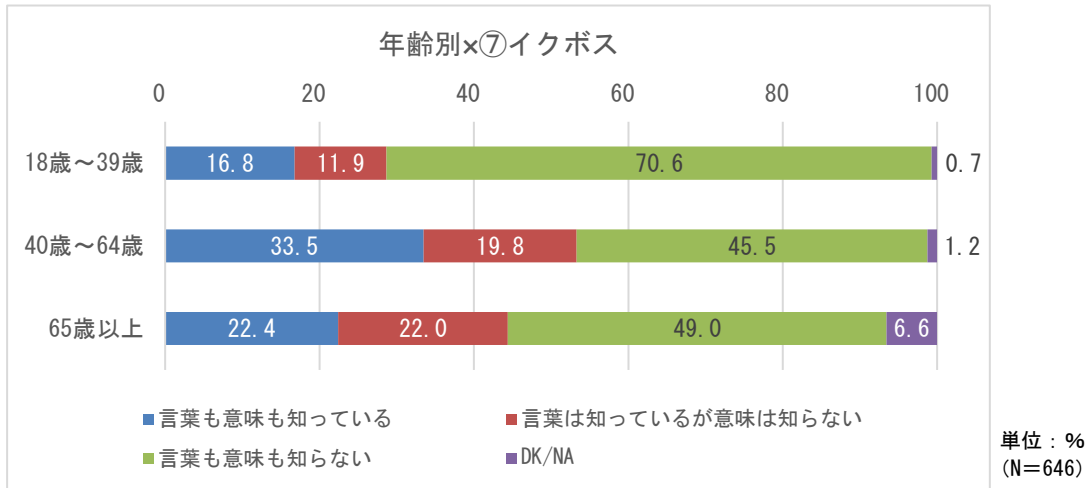


図 1-2 イクボスの周知度〈年齢別〉カイニ乗検定 1%水準で有意

## (2) 男女の地位の平等感 [質問 2]

①家庭生活、②職場(家業、農業等を含む)、③就職活動の場、④学校教育の場、⑤政治の場、⑥社会活動の場(PTA や地域活動など)、⑦法律や制度の上、⑧社会通念、慣習、しきたりなど、の8分野について男女の地位が平等になっていると思うかたずねたところ、図2のとおりとなった。

「平等」という回答が最多の割合となったのは、学校教育の場(64.3%)、法律や制度の上(37.0%)および社会活動の場(35.1%)であった。他の分野での「平等」という回答は、家庭生活(30.6%)、就職活動の場(30.2%)、職場(26.1%)、政治の場(14.4%)、社会通念、慣習、しきたりなど(12.7%)となった。〈全国調査〉では、「平等」という回答は、社会活動の場(全国調査 46.5%)、家庭生活

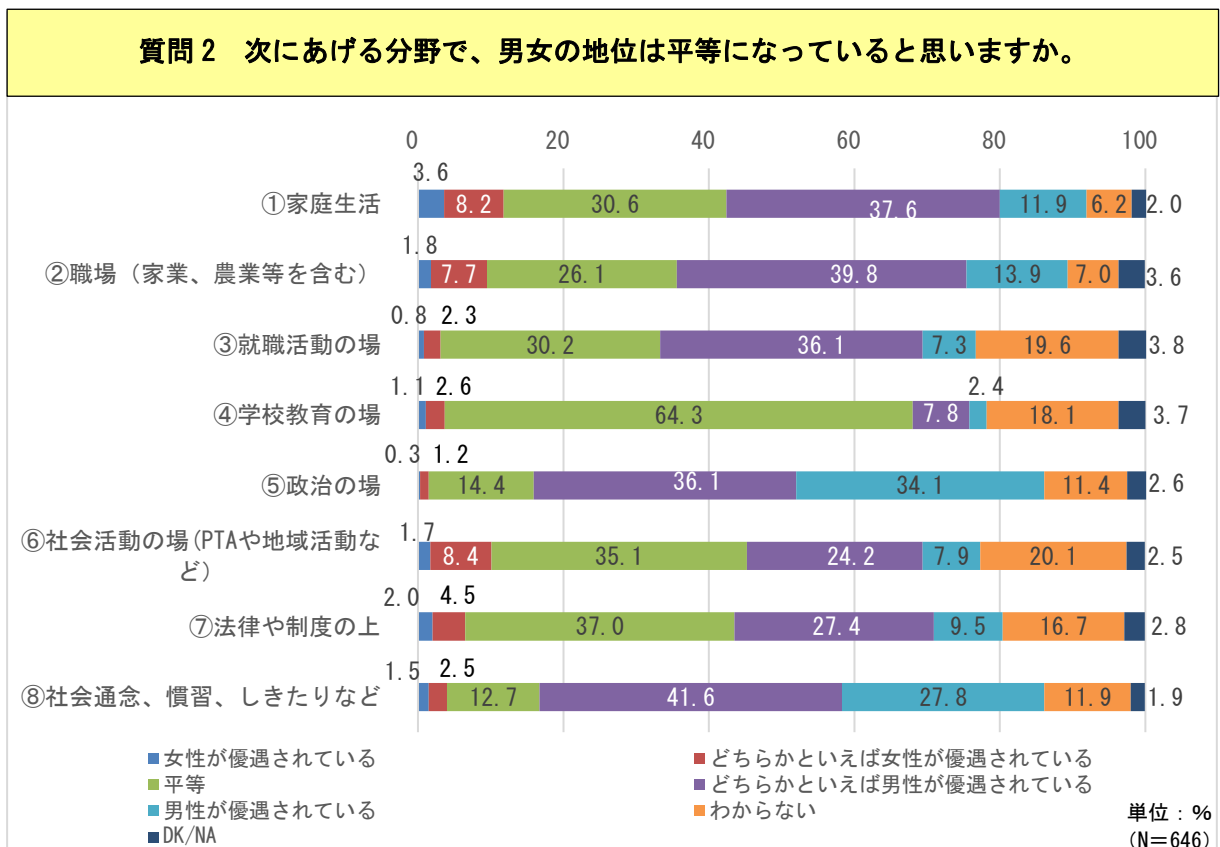


図 2 男女の地位の平等感

(同 45.5%)、社会通念、慣習、しきたりなど(同 22.6%)であり、本調査は大きく下回っている。平等感という点で、とくにこの3分野に課題があることがうかがえる。

他方、「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答が最多であったのは、社会通念・慣習・しきたりなど(41.6%)、職場(39.8%)、家庭生活(37.6%)、政治の場(36.1%)である。

### ① 家庭生活

家庭生活では、「平等」が約3割(30.6%)であるのに対して、『男性優遇』の割合が49.5%(どちらかといえば男性が優遇されている37.6%+男性が優遇されている11.9%)で約5割となった。

男女別に見ると、「平等」の割合は男性(37.3%)が女性(24.4%)より高く、『男性優遇』の割合は、女性(58.2%)が男性(39.9%)を20ポイント近くも上回った(図2-1-1)。男女の平等感のギャップが最も大きい分野である。

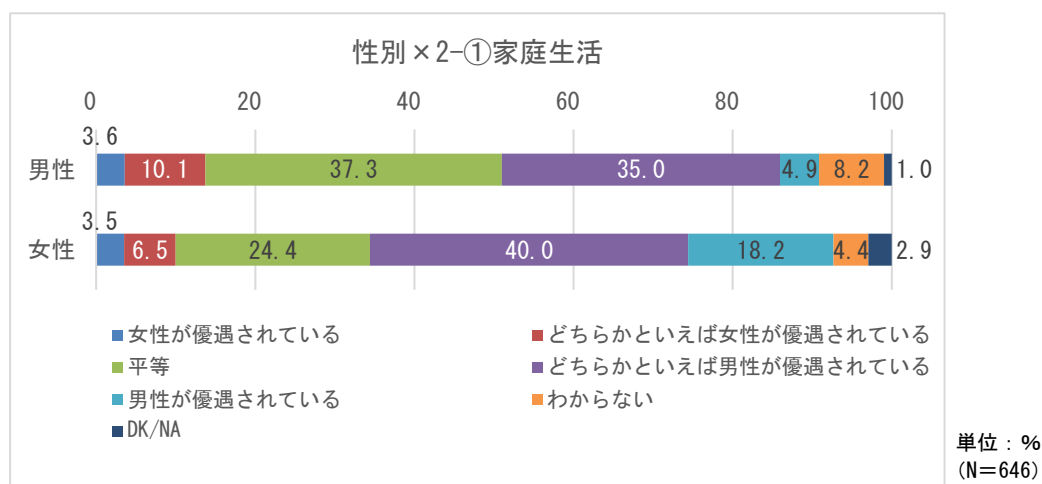


図2-1-1 家庭生活での男女平等感〈性別〉カイニ乗検定 1%水準で有意

また、年齢別に見ると、「平等」の割合は18～39歳の若年層(43.4%)が高く、40～64歳(26.3%)および65歳以上(25.5%)を大きく上回った(図2-1-2)。

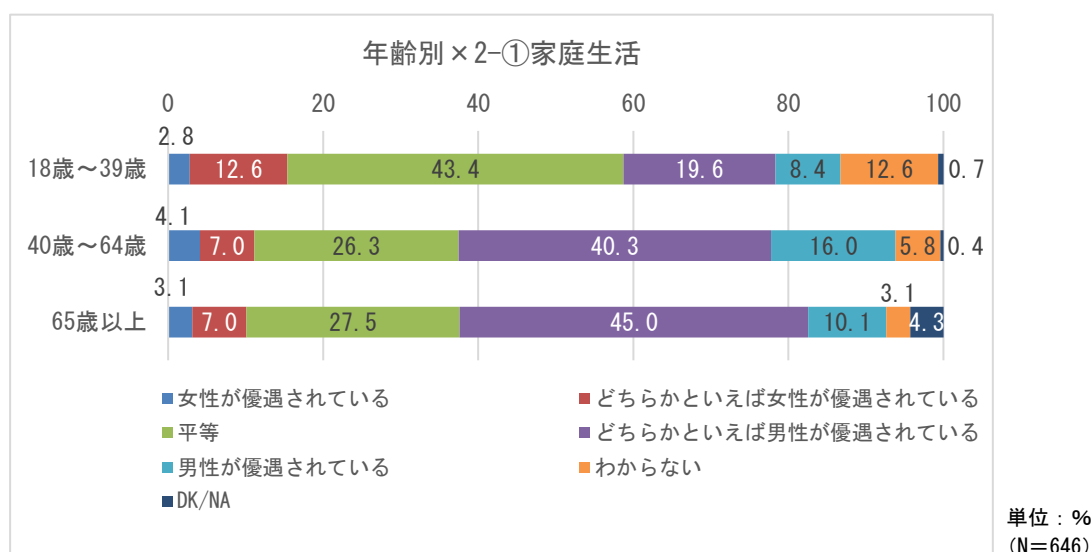


図2-1-2 家庭生活での男女平等感〈年齢別〉カイニ乗検定 1%水準で有意

## ② 職場

職場では、「平等」(26.1%)に対して、『男性優遇』の割合は53.7%に達した(図2)。

男女別に見ると、「平等」の割合は男性(32.7%)が女性(20.2%)より高く、『男性優遇』とする割合は女性(57.2%)が男性(50.0%)をやや上回った(図2-2-1)。

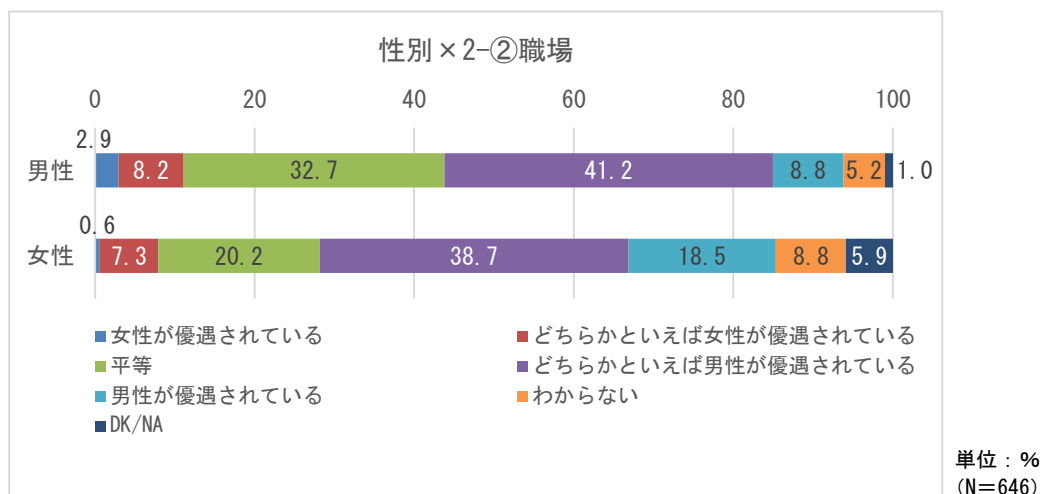


図 2-2-1 職場での男女平等感〈性別〉カイニ乗検定 1%水準で有意

年齢別に見ると、「平等」という回答は18～39歳(31.7%)、40～64歳(25.4%)、65歳以上(23.6%)と若い世代ほど高い割合になっており、他方、『男性優遇』は40～64歳(58.6%)で最多となっている(図2-2-2)。

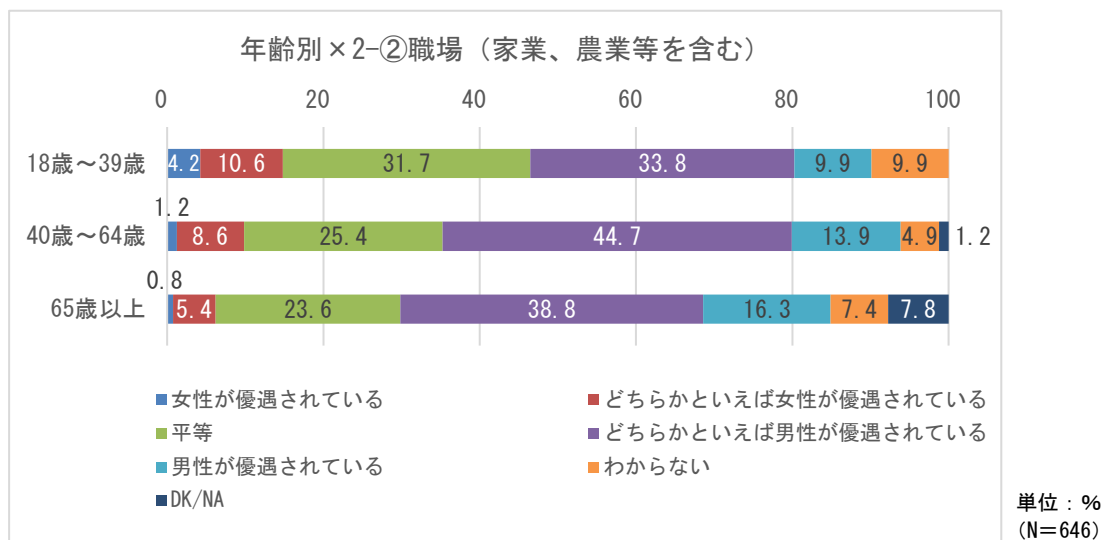


図 2-2-2 職場での男女平等感〈年齢別〉カイニ乗検定 1%水準で有意

## ③ 就職活動の場

就職活動の場では、「平等」(30.2%)に対して、『男性優遇』の割合は43.4%であった(図2)。

男女別に見ると、「平等」という回答の割合は男性(33.4%)が女性(27.2%)より高く、『男性優遇』の割合は男性(43.6%)と女性(43.2%)でほぼ同じとなった(図2-3-1)。

また、年齢別に見ると、「平等」という回答は18～39歳(41.7%)、40～64歳(30.6%)、65歳以

上(23.4%)と若い世代ほど高い割合になっており、他方、『男性優遇』は40～64歳(47.1%)、65歳以上(47.9%)がほぼ同じで、18～39歳(28.5%)を大きく上回っている(図2-3-2)。

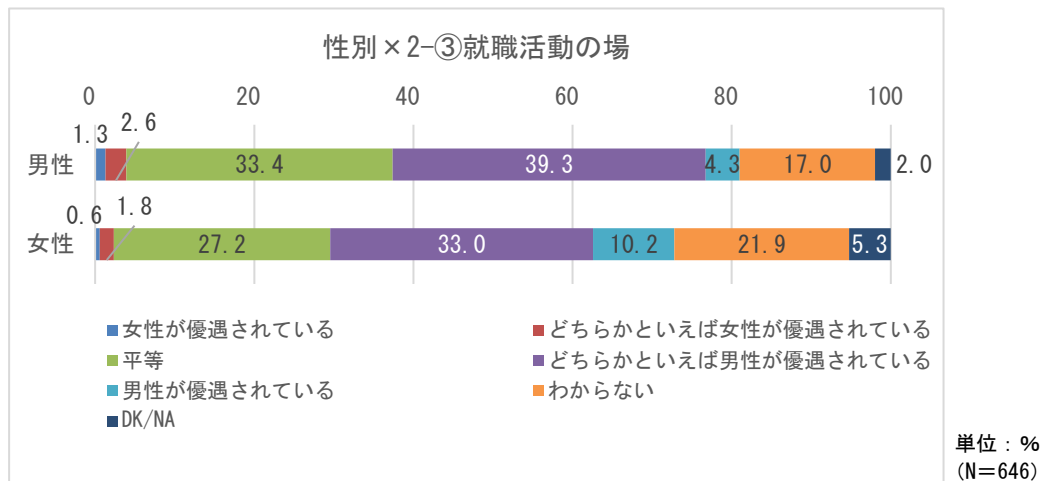


図2-3-1 就職活動の場での男女平等感〈性別〉カイニ乗検定 1%水準で有意

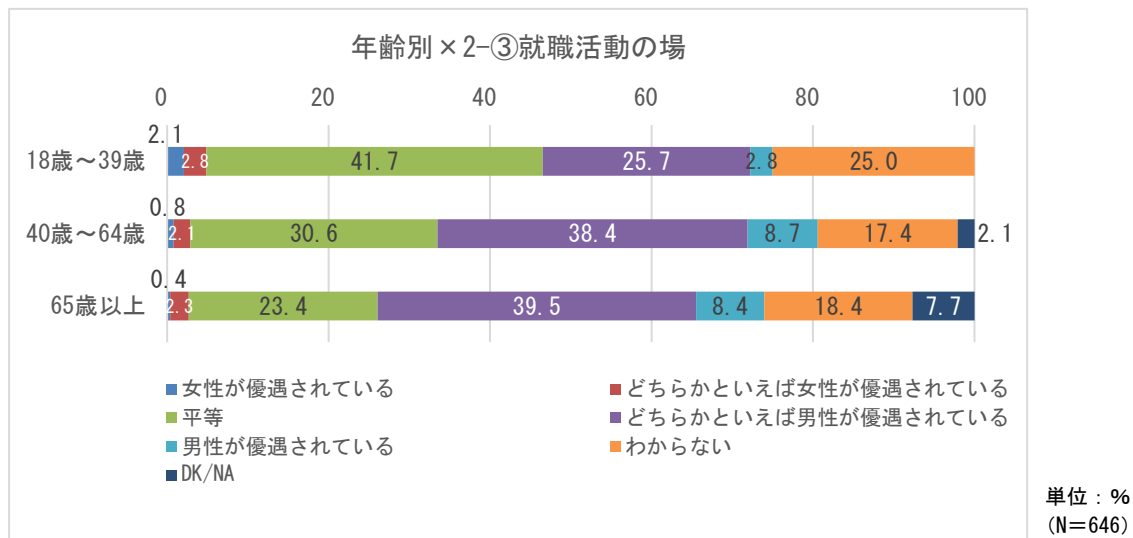


図2-3-2 就職活動の場での男女平等感〈年齢別〉カイニ乗検定 1%水準で有意

#### ④ 学校教育の場

学校教育の場では、「平等」の割合が64.3%と8分野で最も高く、『男性優遇』は10.2%と、8分野で最も低い割合であった(図2)。

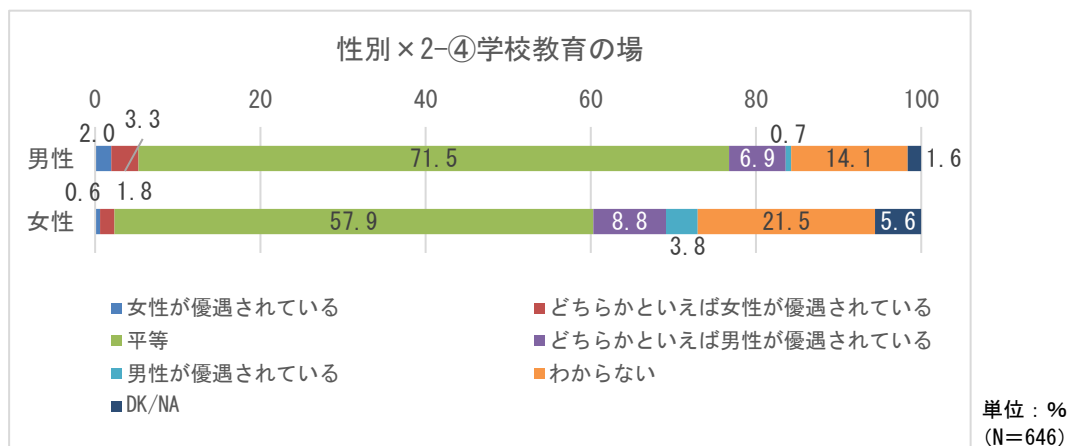


図2-4-1 学校教育の場での男女平等感〈性別〉カイニ乗検定 1%水準で有意

男女別に見ると、「平等」と回答した割合は、男性(71.5%)が女性(57.9%)を大きく上回っている(図 2-4-1)。女性ではわからない(21.5%)という回答が2割超となった。

また、年齢別に見ると、「平等」という回答は18～39歳(72.9%)、40～64歳(63.6%)、65歳以上(60.6%)と若い世代ほど高い割合になっている(図 2-4-2)。

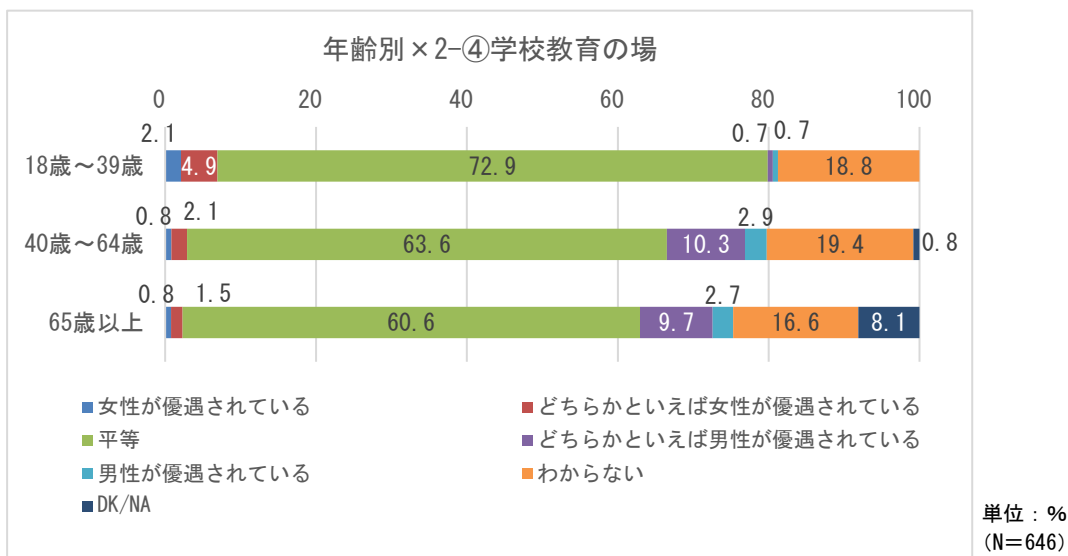


図 2-4-2 学校教育の場での男女平等感〈年齢別〉カイニ乗検定 1%水準で有意

## ⑤ 政治の場

政治の場では、「平等」の回答割合は14.4%にとどまる一方で、『男性優遇』は70.2%に達しており、8分野のなかで最も高い割合となった(図 2)。

男女別に見ると、「平等」と回答した割合は、女性(10.5%)より男性(18.7%)が高く、『男性優遇』という回答では、女性(72.8%)が男性(67.2%)をやや上回る結果となった(図 2-5-1)。また、年齢別に見ると、40～64歳(78.2%)が『男性優遇』という回答割合が最も高く、18～39歳(65.2%)、65歳以上(66.6%)を上回った(図 2-5-2)。

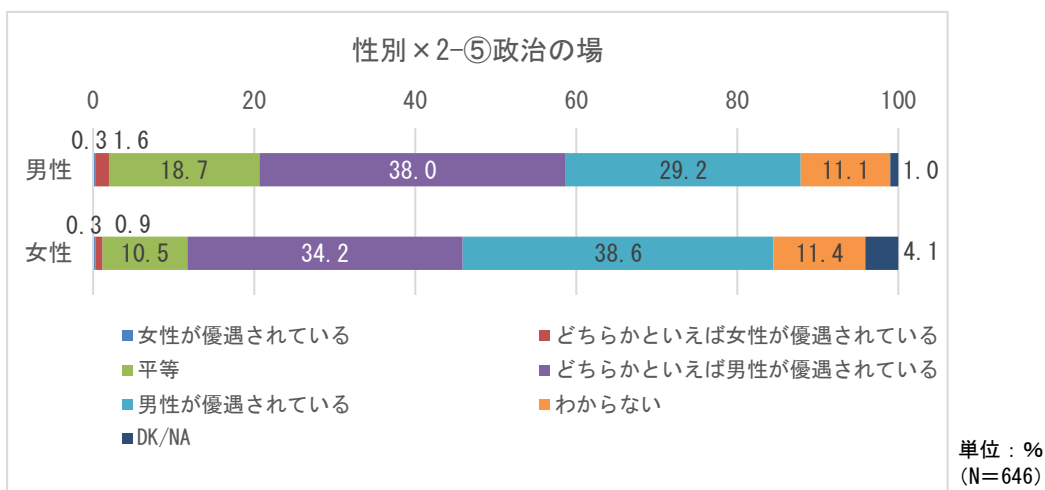


図 2-5-1 政治の場での男女平等感〈性別〉カイニ乗検定 1%水準で有意

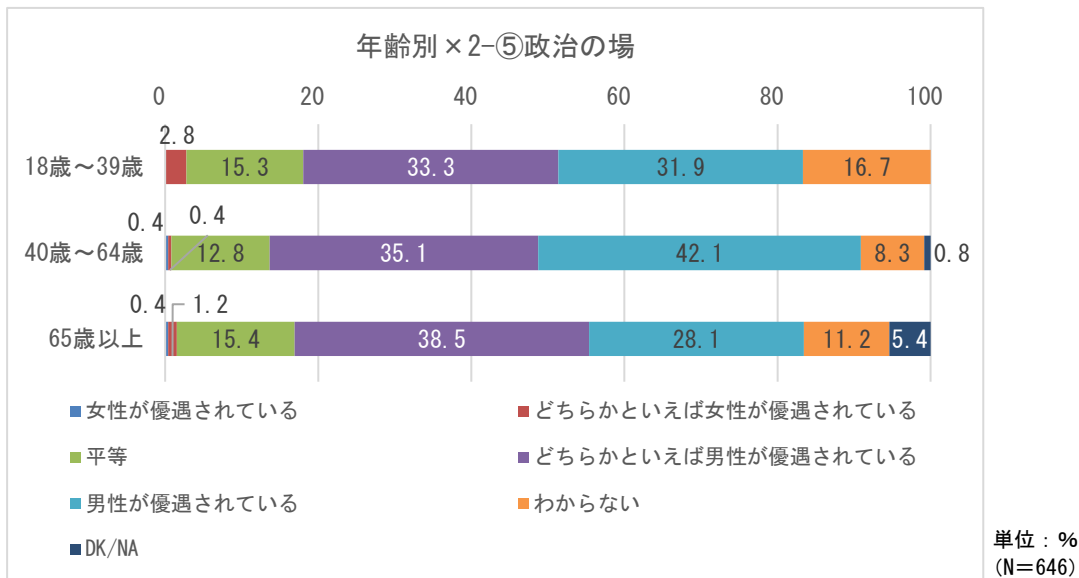


図 2-5-2 政治の場での男女平等感〈年齢別〉カイニ乗検定 1%水準で有意

### ⑥ 社会活動の場 (PTA や地域活動など)

社会活動の場では、「平等」の回答割合は 35.1%と、『男性優遇』32.1%を上回る結果となった(図 2)。

男女別に見ると、「平等」という回答は男性(38.2%)が女性(32.4%)を上回り、他方、『男性優遇』では女性(35.0%)が男性(29.1%)を上回っている(図 2-6-1)。また、年齢別に見ると、「平等」という回答は 18～39 歳(38.9%)が 40～64 歳(33.7%)、65 歳以上(34.2%)よりやや高い割合になっており、他方、『男性優遇』は 40～64 歳(36.2%)、65 歳以上(36.2%)が同割合で、18～39 歳(18.1%)を大きく上回った(図 2-6-2)。

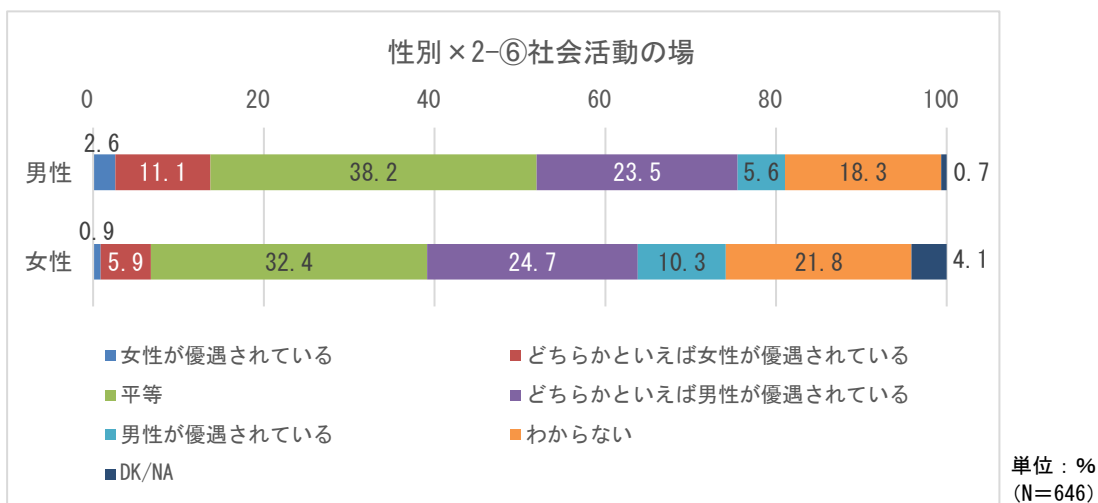


図 2-6-1 社会活動の場での男女平等感〈性別〉カイニ乗検定 1%水準で有意

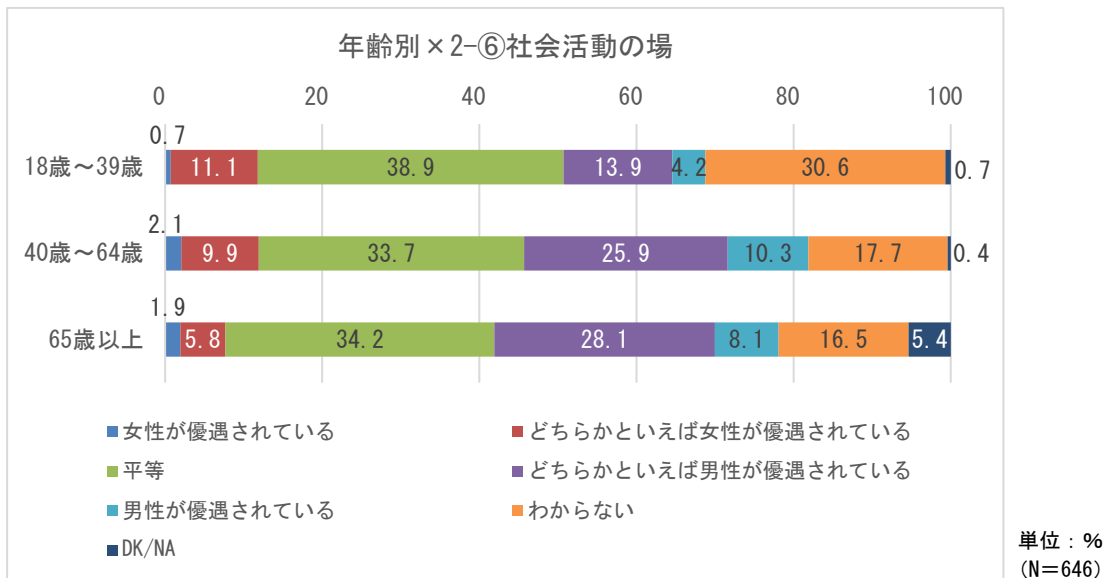


図 2-6-2 社会活動の場での男女平等感〈年齢別〉カイニ乗検定 1%水準で有意

### ⑦ 法律や制度の上

法律や制度の上では、「平等」の回答割合が 37.0%と、学校教育の場(64.3%)の次に高い割合だったが、『男性優遇』の回答割合 36.9%と拮抗する結果となった(図 2)。

男女別に見ると、「平等」という回答割合は男性(44.3%)が女性(30.5%)を 10 ポイント以上上回り、他方『男性優遇』の割合は女性(41.4%)が男性(31.5%)を約 10 ポイント上回った(図 2-7-1)。

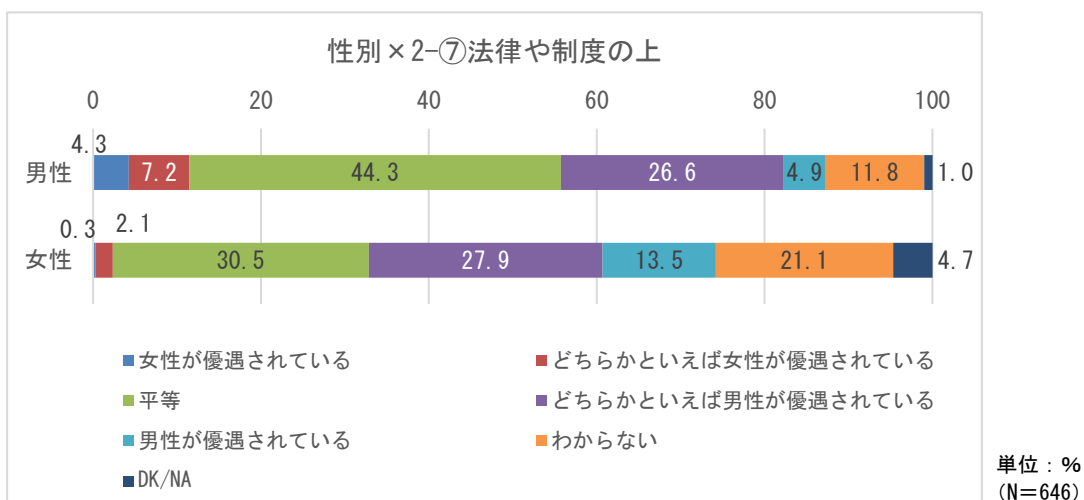


図 2-7-1 法律や制度の上での男女平等感〈性別〉カイニ乗検定 1%水準で有意

また、年齢別に見ると、「平等」という回答は 18～39 歳(41.3%)、40～64 歳(38.7%)、65 歳以上(33.0%)と、若い世代ほど高い割合となり、他方、『男性優遇』は 18～39 歳(23.1%)を 40～64 歳(39.9%)、65 歳以上(41.4%)が大きく上回り、年齢が上がるほど高い割合となった(図 2-7-2)。



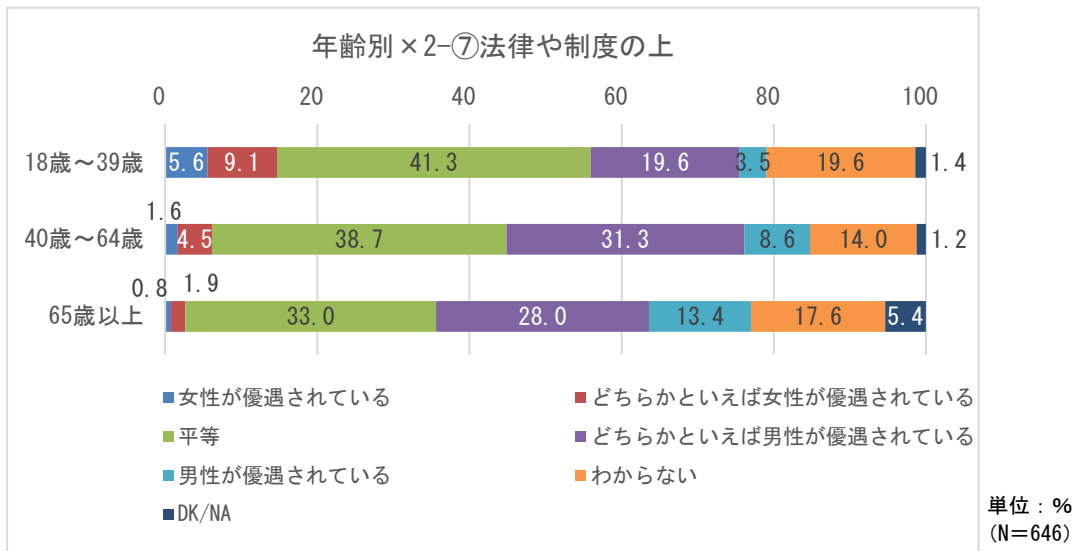


図 2-7-2 法律や制度の上での男女平等感〈年齢別〉カイ二乗検定 1%水準で有意

### ⑧ 社会通念、慣習、しきたりなど

社会通念、慣習、しきたりなどでは、「平等」という回答が 12.7%と 8 分野で最低となった。他方、『男性優遇』は 69.4%と 7 割近く、政治の場(72.2%)に次いで高い割合となった(図 2)。

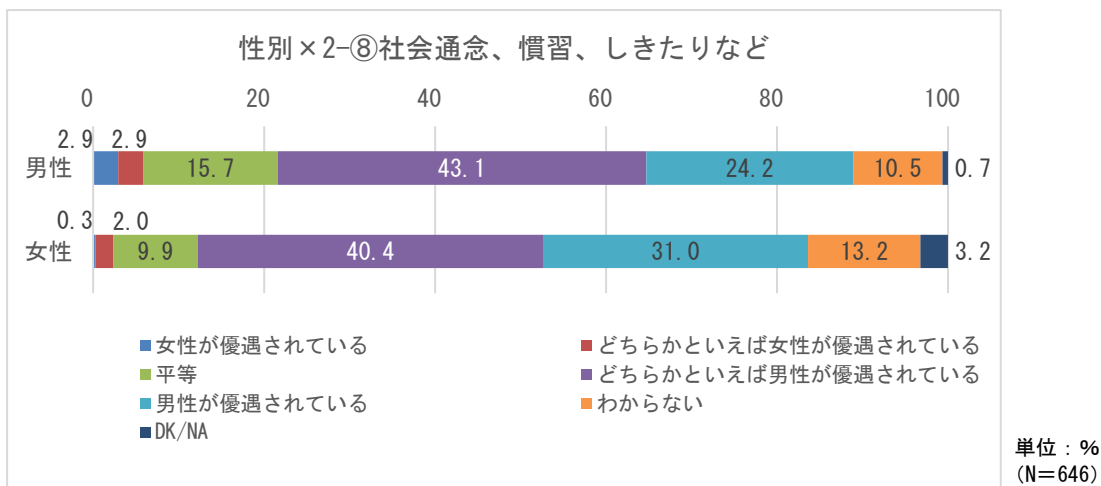


図 2-8-1 社会通念、慣習、しきたりなどでの男女平等感〈性別〉カイ二乗検定 1%水準で有意

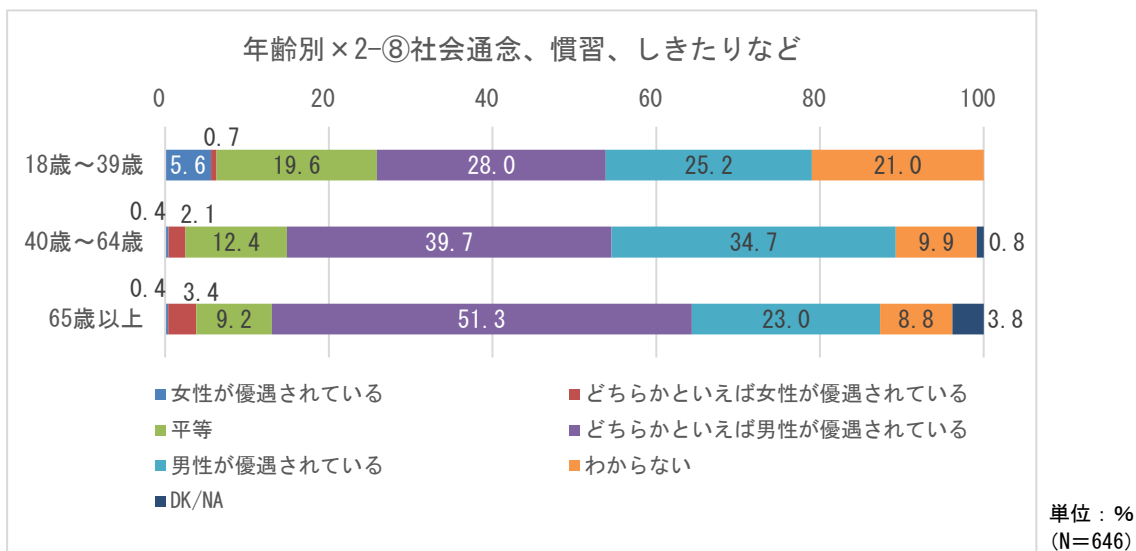


図 2-8-2 社会通念、慣習、しきたりなどでの男女平等感〈年齢別〉カイ二乗検定 1%水準で有意

男女別に見ると、「平等」と回答した割合は男性(15.7%)が女性(9.9%)より高く、他方、『男性優遇』の割合は女性(71.4%)が男性(67.3%)を上回った(図 2-8-1)。また、年齢別に見ると、「平等」という回答は18～39歳(19.6%)、40～64歳(12.4%)、65歳以上(9.2%)と、若い世代ほど高い割合となった。他方、『男性優遇』は40～64歳(74.4%)、65歳以上(74.3%)がほぼ同割合で、18～39歳(53.2%)を大きく上回った(図 2-8-2)。

### (3) 役割分担等についての意見 [質問 3]

14項目の意見に対してどのように思うか一番近いものを選んでもらったところ、図 3 のとおりの結果となった。

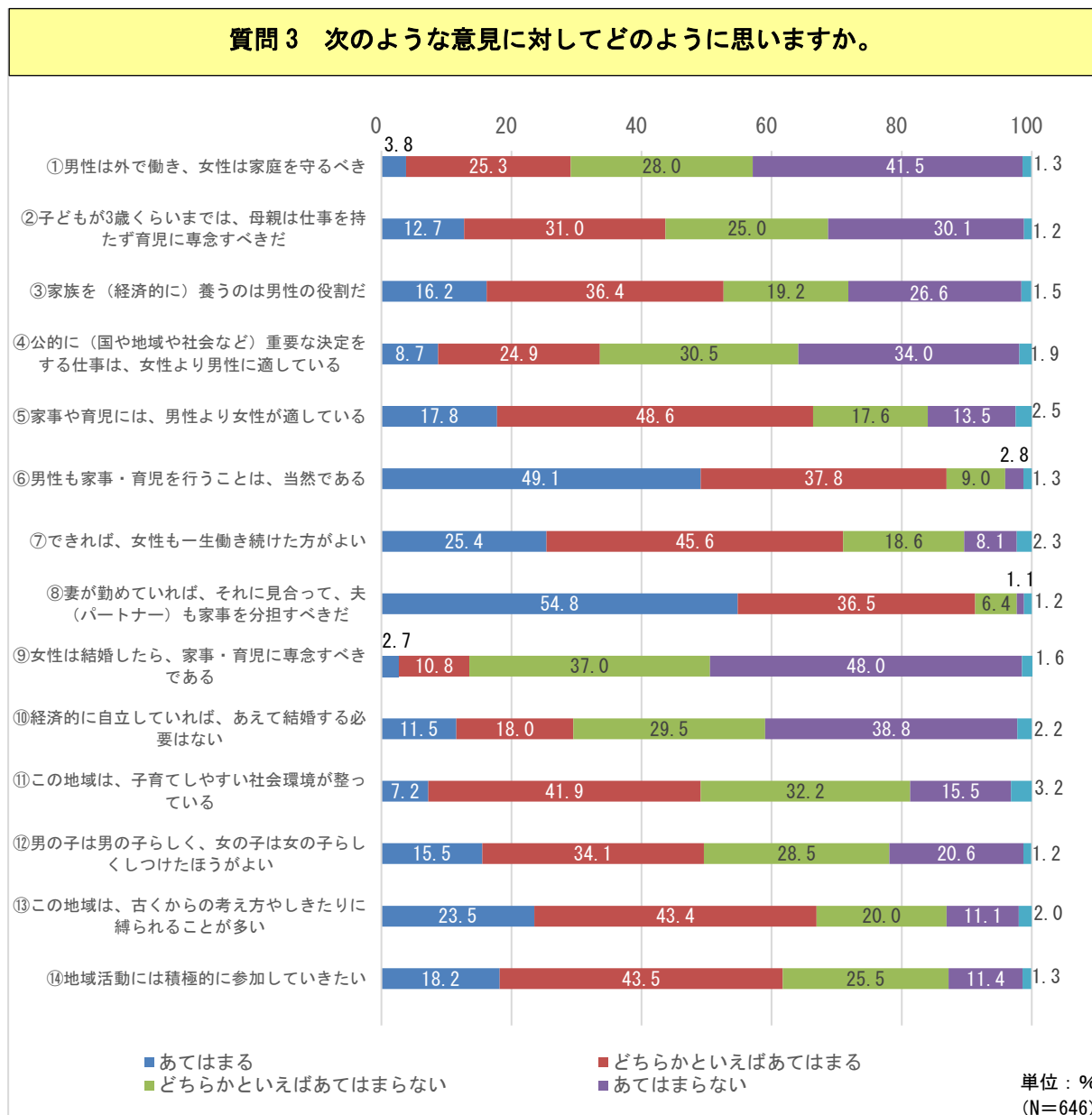


図 3 役割分担等についての意見

「あてはまる」という回答が最多となったのは、⑧妻が勤めていれば、それに見合って、夫(パートナー)も家事を分担すべきだ(54.8%)であり、つづいて⑥男性も家事・育児を行うことは、当然である(49.1%)、⑦できれば女性も一生働き続けた方がよい(25.4%)という順であった。ま

た、「あてはまる」+「どちらかといえばあてはまる」の合計(以下、『肯定的回答』)でも、同様の順となった(⑧91.3%、⑥86.9%、⑦71.0%)。他方、「あてはまらない」という回答が最多となったのは⑨女性は結婚したら、家事・育児に専念すべきである(48.0%)であり、つづいて①男性は外で働き、女性は家庭を守るべき(41.5%)、⑩経済的に自立していればあえて結婚する必要はない(38.8%)の順であった。また、「あてはまらない」+「どちらかといえばあてはまらない」の合計(以下、『否定的回答』)でも同様の順であった(⑨85.0%、①69.5%、⑩68.3%)。

なお、『肯定的回答』と『否定的回答』が拮抗する結果となったのは、⑫男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしくしつけたほうがよい(49.6%と49.1%)、⑪この地域は子育てしやすい社会環境が整っている(49.1%と47.7%)であった。

以下、項目ごとに結果を見ていくことにしよう。

### ①男性は外で働き、女性は家庭を守るべき

『否定的回答』(41.5%+28.0%=69.5%)が7割近くとなり、『肯定的回答』(3.8%+25.3%=29.1%)が3割弱という結果となった。男女・年齢別に見ると、全般に男性より女性で『否定的回答』の割合が高く男女とも若い年代ほど『否定的回答』の割合が高い(図3-1)。

この項目のみ(全国調査)の質問に含まれており、『肯定的回答』の割合が35.0%(「賛成」7.5%+「どちらかといえば賛成」27.5%)、『否定的回答』の割合が59.8%(「どちらかといえば反対」36.6%+「反対」23.2%)となっている。本調査では『否定的回答』が約10ポイント上回った。

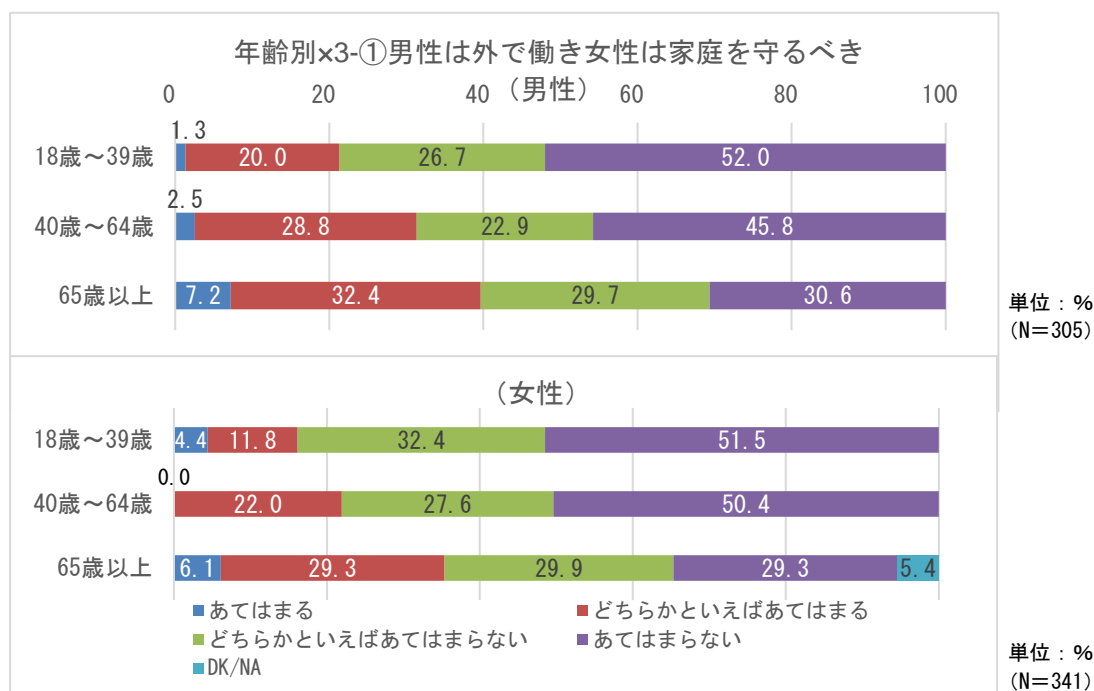


図3-1 ①男性は外で働き、女性は家庭を守るべき(性・年齢別) カイ二乗検定 1%水準で有意

### ②子どもが3歳くらいまでは、母親は仕事を持たず育児に専念すべきだ

『否定的回答』(55.1%)が5割5分となり、『肯定的回答』を上回った。

### ③家族を(経済的に)養うのは男性の役割だ

『肯定的回答』(52.6%)が5割弱で、『肯定的回答』をわずかに上回る結果となった。

④公的に（国や地域や社会など）重要な決定をする仕事は、女性より男性に適している

『否定的回答』（64.5%）が6割5分弱という結果となった。男女・年齢別に見ると、『否定的回答』が18～39歳では男性81.4%、女性76.4%となり、男女ともに若い世代ほど『否定的回答』が高い割合となった（図3-4）。

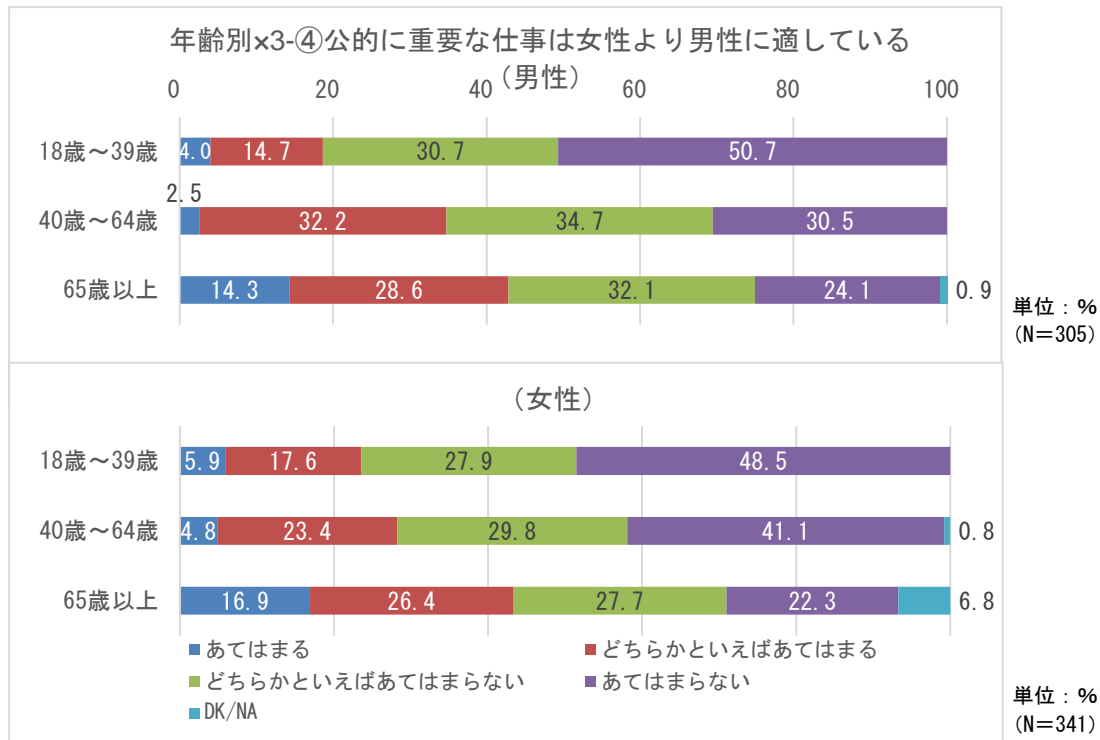


図3-4 ④公的に（国や地域や社会など）重要な決定をする仕事は、女性より男性に適している（性・年齢別）カイニ乗検定 1%水準で有意

⑤家事や育児には、男性より女性が適している

『肯定的回答』（17.8%+48.6%=66.4%）が6割5分強という結果となった。男女・年齢別に見ると、あてはまるという回答の最多が18～39歳の女性（55.9%）であることが目につく（図3-5）。

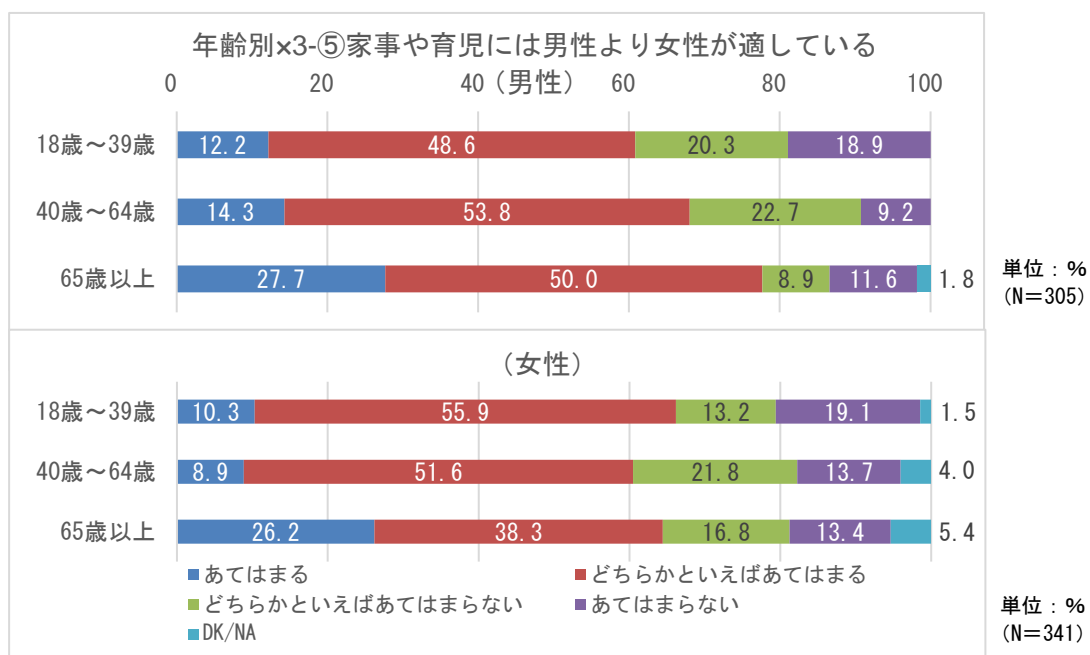


図3-5 ⑤家事や育児には、男性より女性が適している（性・年齢別）カイニ乗検定 1%水準で有意

### ⑥男性も家事・育児を行うことは、当然である

『肯定的回答』(86.9%)が8割5分を超える結果となった。男女・年齢別に見ると、男性の『肯定的回答』の割合が18歳～39歳(96.0%)ならびに40歳～64歳(95.8%)において、女性の割合(18歳～39歳89.8%、40歳～64歳87.8%)を上回った。若年層・中年層男性は、同年代の女性以上に男性の家事・育児参加を「当然である」と考えている人が多いことが分かった(図3-6)。

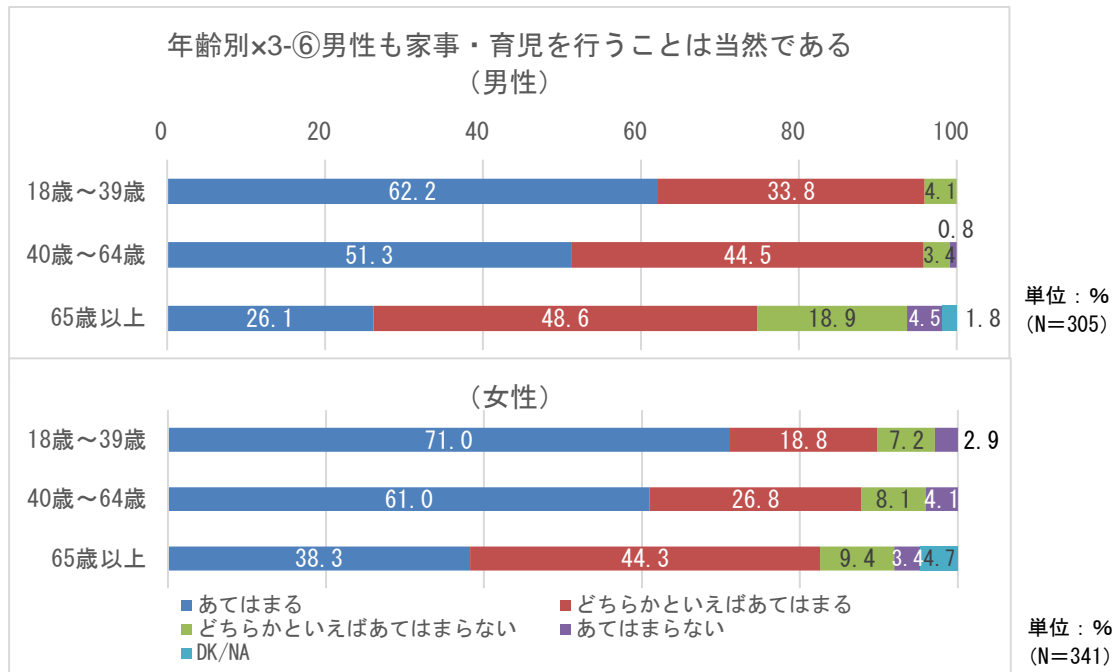


図 3-6 ⑥男性も家事・育児を行うことは、当然である (性・年齢別) カイ二乗検定 1%水準で有意

### ⑦できれば、女性も一生働き続けた方がよい

7割が『肯定的回答』(25.4%+45.6%=71.0%)という結果となった。

### ⑧妻が勤めていれば、それに見合って、夫(パートナー)も家事を分担すべきだ

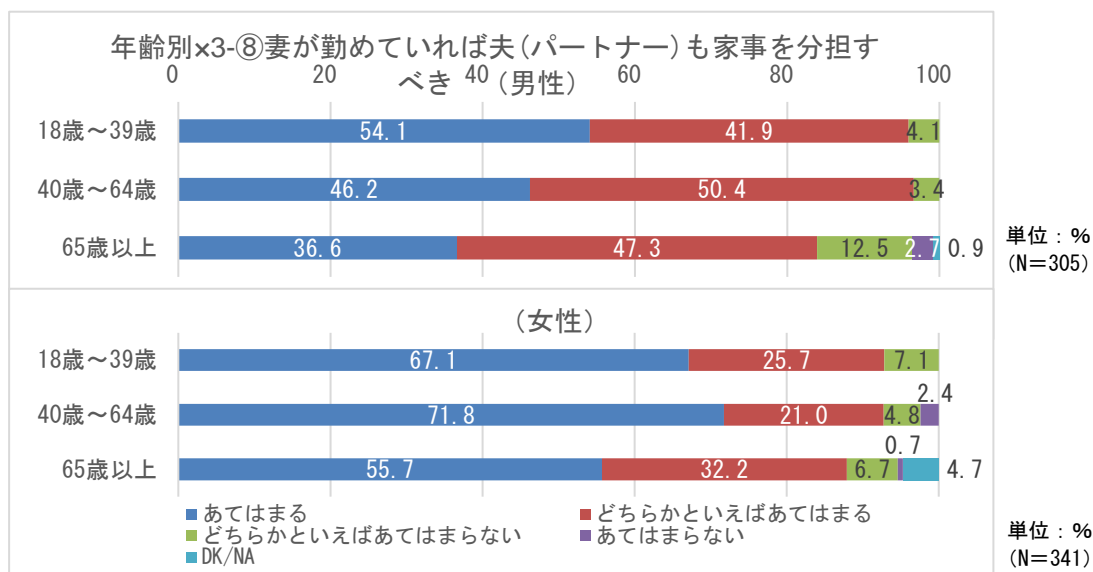


図 3-8 ⑧妻が勤めていれば、それに見合って、夫(パートナー)も家事を分担すべきだ (性・年齢別) カイ二乗検定 5%水準で有意

『肯定的回答』(54.8%+36.5%=91.3%)が9割超と多数を占める結果となった。

男女・年齢別に見ると、各年代とも女性のほうが『肯定的回答』が高くなっている(図3-8)。

⑨ 女性は結婚したら、家事・育児に専念すべきである

『否定的回答』(48.0%+37.0%=85.0%)が全体の8割5分を占める結果となった。男女・年齢別に見ると、高齢層では男女差がみられず、若年層および中年層では、女性が男性より『否定的回答』割合が高くなっている。とくに若年層の「あてはまらない」という回答は、女性が男性を28.7ポイントも上回る結果となった(図3-9)。

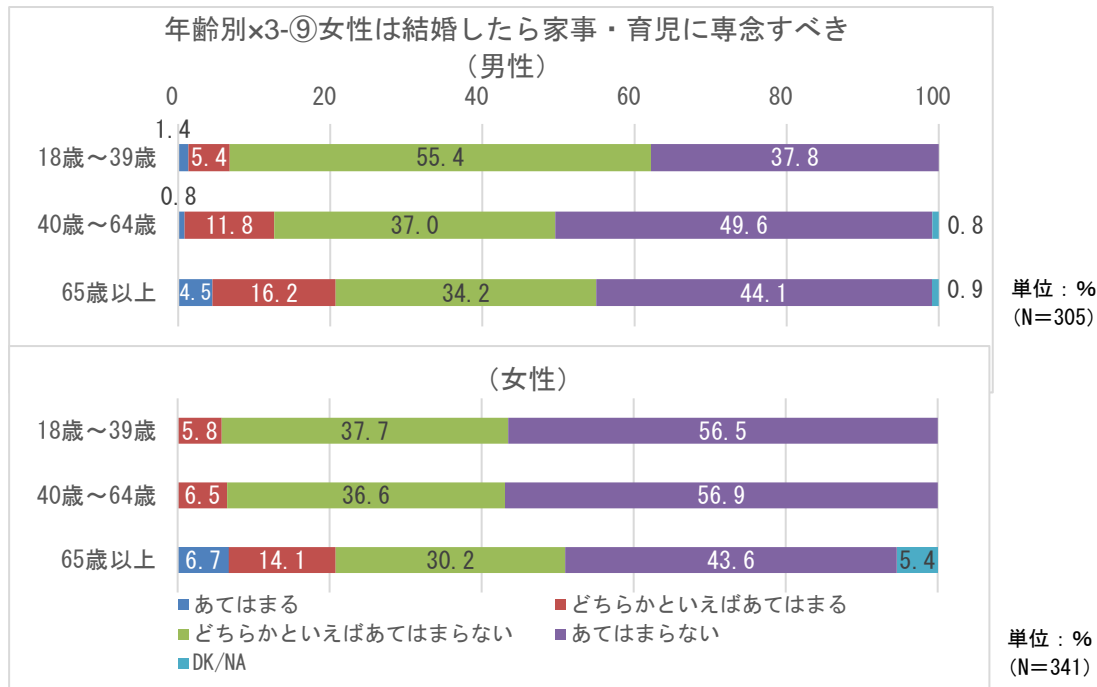


図3-9 ⑨女性は結婚したら、家事・育児に専念すべきである〈性・年齢別〉カイニ乗検定 5%水準で有意

⑩ 経済的に自立していれば、あえて結婚する必要はない

『否定的回答』(38.8%+29.5%=68.3%)が7割弱という結果となった。男女・年齢別に見ると、若年層、中年層で男性の『否定的回答』割合が女性のそれを上回り、とくに18歳~39歳では男性の『否定的回答』(56.8%)に対して、女性(47.8%)と5割を下回っている。(図3-10)。

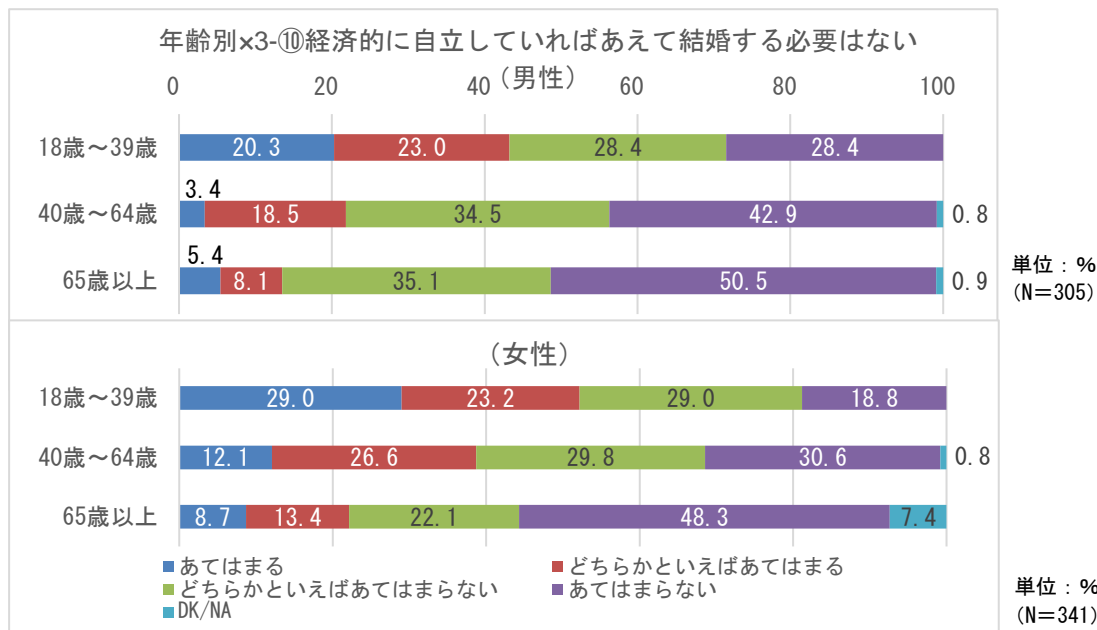


図3-10 ⑩経済的に自立していれば、あえて結婚する必要はない〈性・年齢別〉カイニ乗検定 1%水準で有意

⑪ この地域は、子育てしやすい社会環境が整っている

どちらかといえばあてはまる(41.9%)が最多の回答であったが、『肯定的回答』(49.1%)と『否定的回答』(47.7%)が拮抗し、前者がわずかに上回るという結果となった。男女・年齢別に見ると、若年女性の『否定的回答』(56.5%)が最も高い割合となった(図 3-11)。

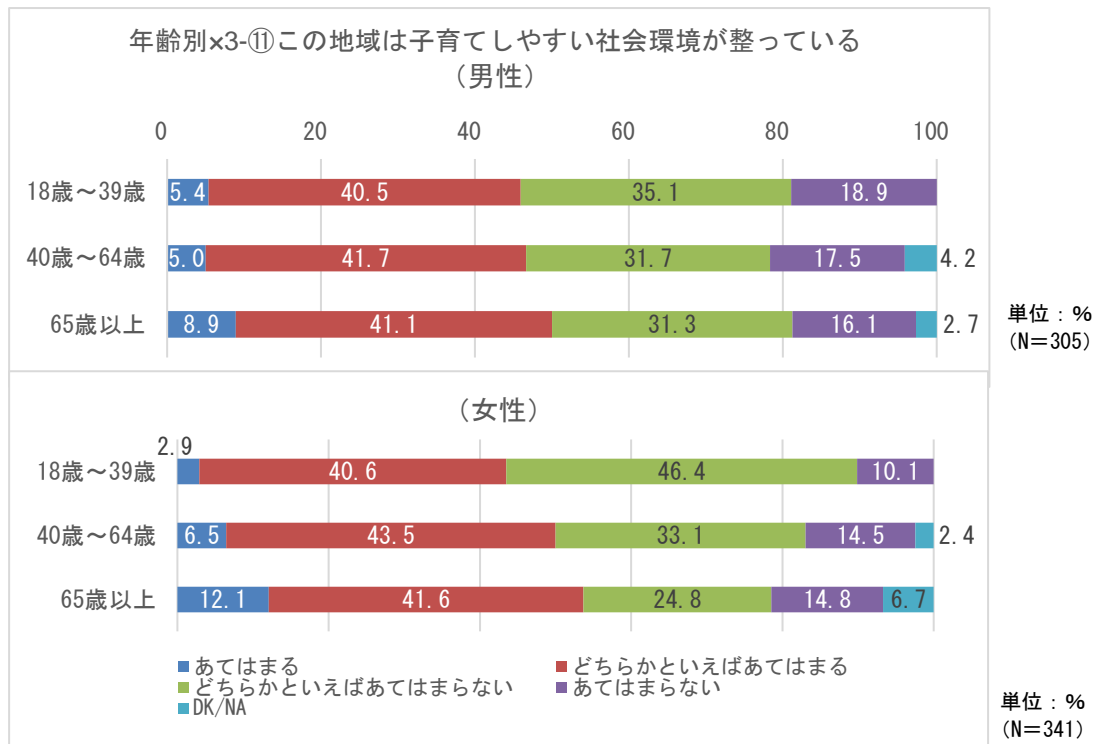


図 3-11 ⑪この地域は、子育てしやすい社会環境が整っている〈性・年齢別〉カイニ乗検定 5%水準で有意

⑫男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしくしつけたほうがよい

上述のとおり(pp. 24-5)、全体では『肯定的回答』と『否定的回答』が拮抗している。しかし、男女別に見ると、男性では『肯定的回答』が70.1%と7割に達しているのに対して、女性は反対に『否定的回答』が57.7%と5割5分を占めている。この結果、全体としては拮抗しているのであるが、性別によるギャップが20ポイントと際立って大きいことが明らかになった(図 3-12-1)。

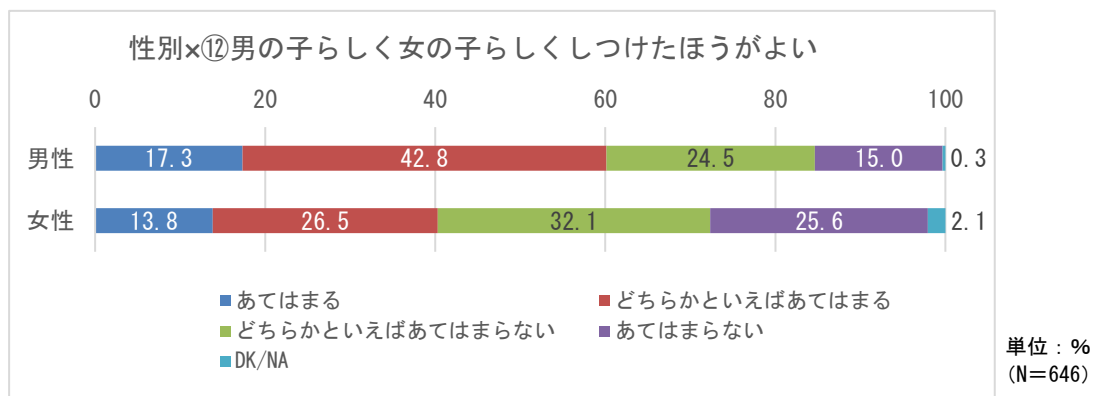


図 3-12-1 ⑫男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしくしつけたほうがよい〈性別〉カイニ乗検定 1%水準で有意

男女・年齢別に見ると、男性は、中年・高年層は『肯定的回答』割合が高く(6割弱および7割弱)、若年層は拮抗した結果である。女性は、若年層ほど『否定的回答』の割合が高い(81.2%)という結果となった(図 3-12-2)。

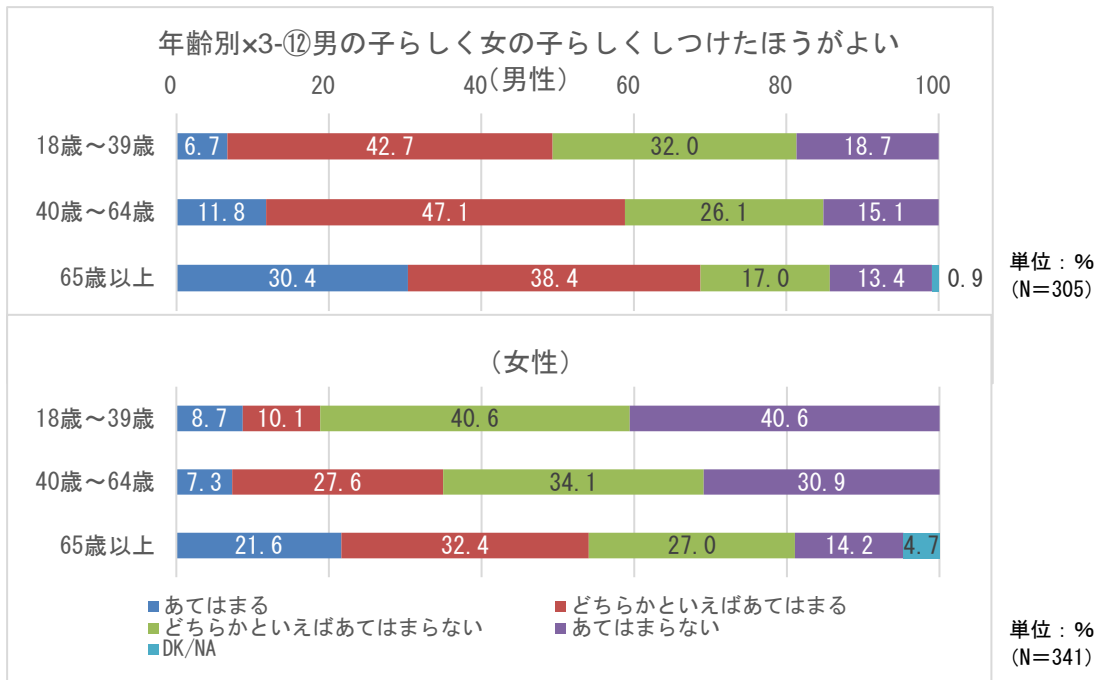


図 3-12-2 ⑫男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしくつけたほうがよい〈性年齢別〉カイニ乗検定 1%水準で有意

### ⑬この地域は、古くからの考え方やしきたりに縛られることが多い

どちらかといえばあてはまる(43.4%)が最多の回答であり、『肯定的回答』(43.4%+23.5%=66.9%)が6割5分に達するという結果となった。

### ⑭地域活動には積極的に参加していきたい

どちらかといえばあてはまる(43.5%)が最多の回答となっており、6割が『肯定的回答』(43.5%+18.2%=61.7%)という結果であった。

## 2 生活のバランス等について

### (1) 生活の中での優先度 [質問 4]

生活の中での優先度について希望に一番近いものを選んでもらったところ、図 4 のとおりであった。⑤「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい(23.1%)が最多の回答であり、つづいて⑨「家庭生活」と「個人の時間」をともに優先したい(19.1%)、⑪全て均等にしたい(11.7%)という順となった。

男女別に見ると、「仕事」を含む回答は男性のほうが多く、「家庭生活」を含む回答は女性が多い傾向がみられた。男性の回答の最多は、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい(24.0%)であり、次に「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先したい(14.5%)という結果であった。他方、女性の最多回答は、「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先したい(23.2%)、つづいて、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい(21.8%)と、男女で順位が逆の結果となった(図 4-1)。



**質問4 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域活動」、「個人の時間」について、あなたの希望に一番近いものを選んでください。**

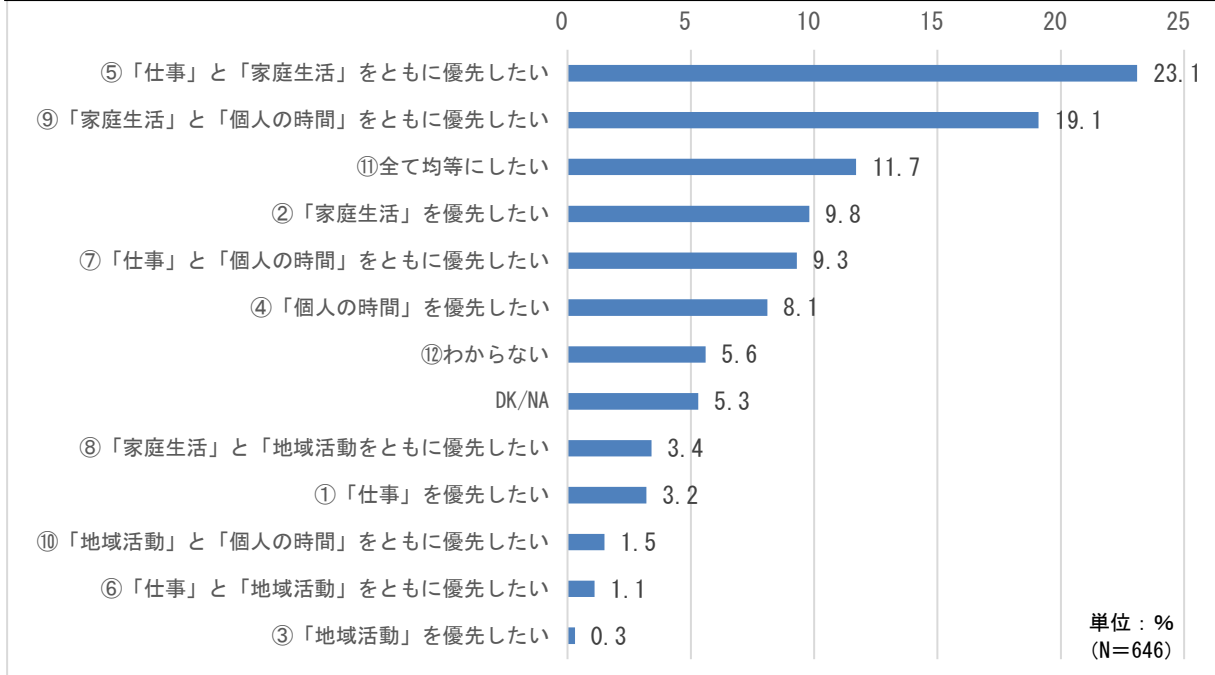


図4 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域活動」、「個人の時間」の優先度：複数回答

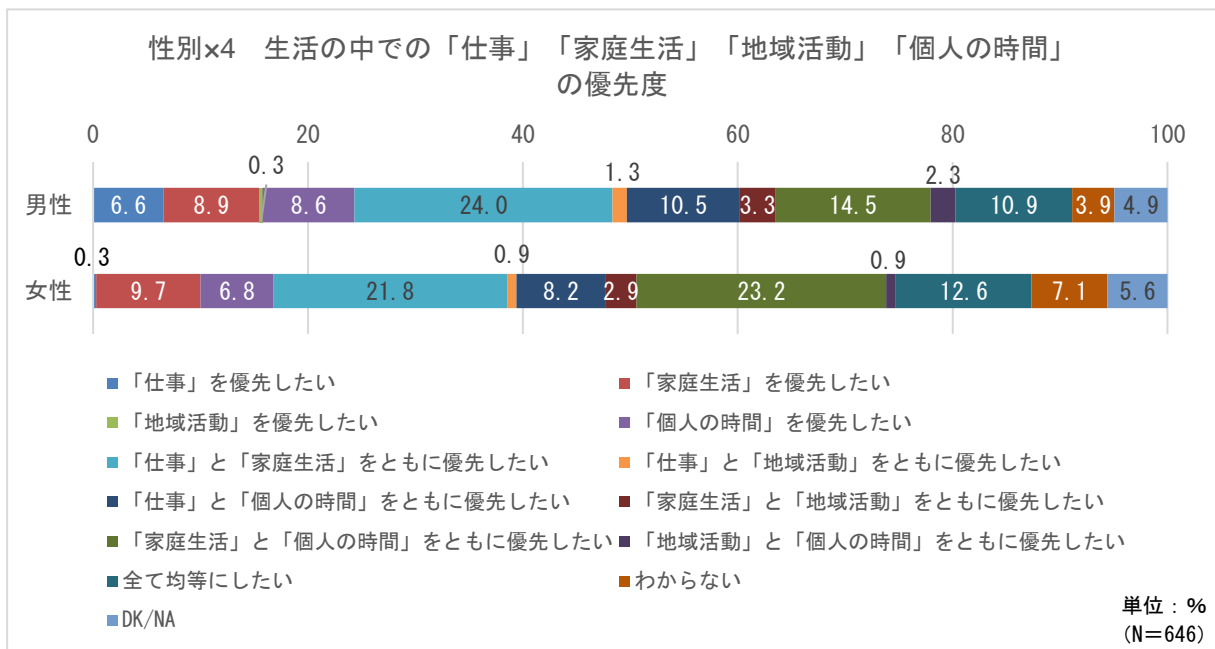


図4-1 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域活動」、「個人の時間」の優先度〈性別〉  
カイニ乗検定 1%水準で有意

(2) 配偶者との役割分担 (既婚者(配偶者あり)) [質問5]

既婚(配偶者あり)と回答した人(N=415)に配偶者との役割分担について、(1)現状と(2)理想に分けて答えてもらったところ、図5-1、図5-2のとおり結果となった。「仕事」の理想は、①夫婦が共に担う(47.0%)が最多となった一方、現状について最多の回答は、②夫婦が共に担い夫が中心になる(39.3%)であった。「家事・育児・介護」についても理想は、①夫婦が共に担う(53.2%)である一方で現状の回答の最多は、③夫婦が共に担い妻が中心になる(47.4%)という結果になった。「地域活動」の理想は、①夫婦が共に担う(52.6%)であり、現状も同じく、①夫婦が共に担う

(29.2%)が最多となった。仕事と家事・育児・介護は、どちらも「共に担う」ことを理想としながら、現実には、男性は仕事、女性は家事・育児・介護という性別役割分担を脱していない現状が見てとれる。

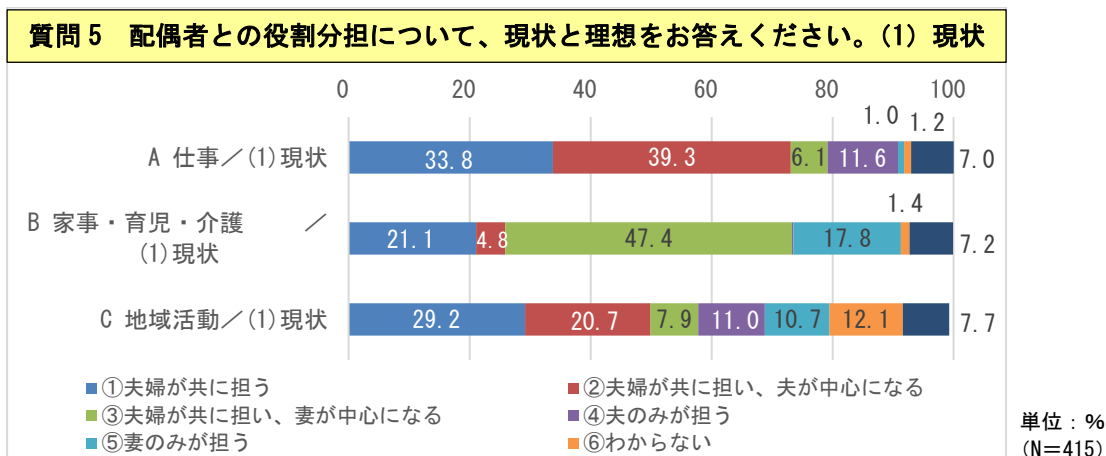


図 5-1 配偶者との役割分担 (1) 現状

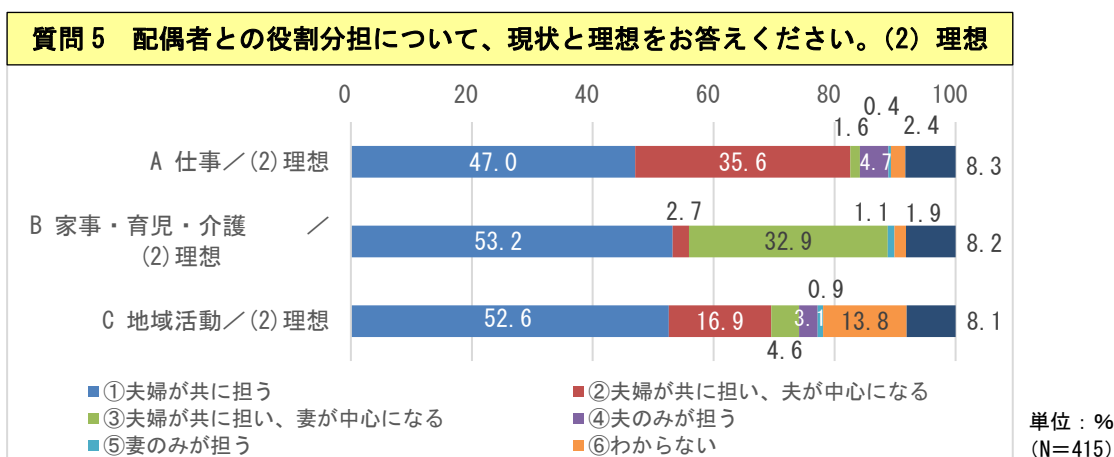


図 5-2 配偶者との役割分担 (2) 理想

### 3 就業環境・職場環境について

#### (1) 勤務先の制度の状況、取得・利用状況(D 職業で①～⑤を選んだ人) [質問6]

職業において①～⑤(就業している)と回答した人(N=397)に、職場等における(ア)各制度の状況ならびに(イ)取得・利用状況についてたずねたところ、図 6-1、図 6-2 のとおりの結果となった。

「制度あり」で最大の回答は⑤有給の時間給(65.2%)、つづいて①育児休業(58.8%)、②介護休業(40.1%)という順となった。制度のうち「取得した」という回答が多かったのは⑤有給の時間休(50.5%)や定時退勤日・ノー残業デー(38.5%)であり、育児休業については、取得する機会があったが取得しなかった(11.3%)が、取得した(10.1%)という回答をやや上回った。機会があれば取得したいとする回答は、介護休暇(24.7%)、介護休業(23.7%)、子ども看護休暇(14.4%)の順となった。

年齢別に見ると、育児休業の取得状況は若年層ほど、「取得した」「取得の機会はまだないが、あれば取得したい」という回答割合が高くなっている [図 6-3]。

質問6 ア 勤めている会社等で、①～⑧の各制度の状況はどのようになっていますか。

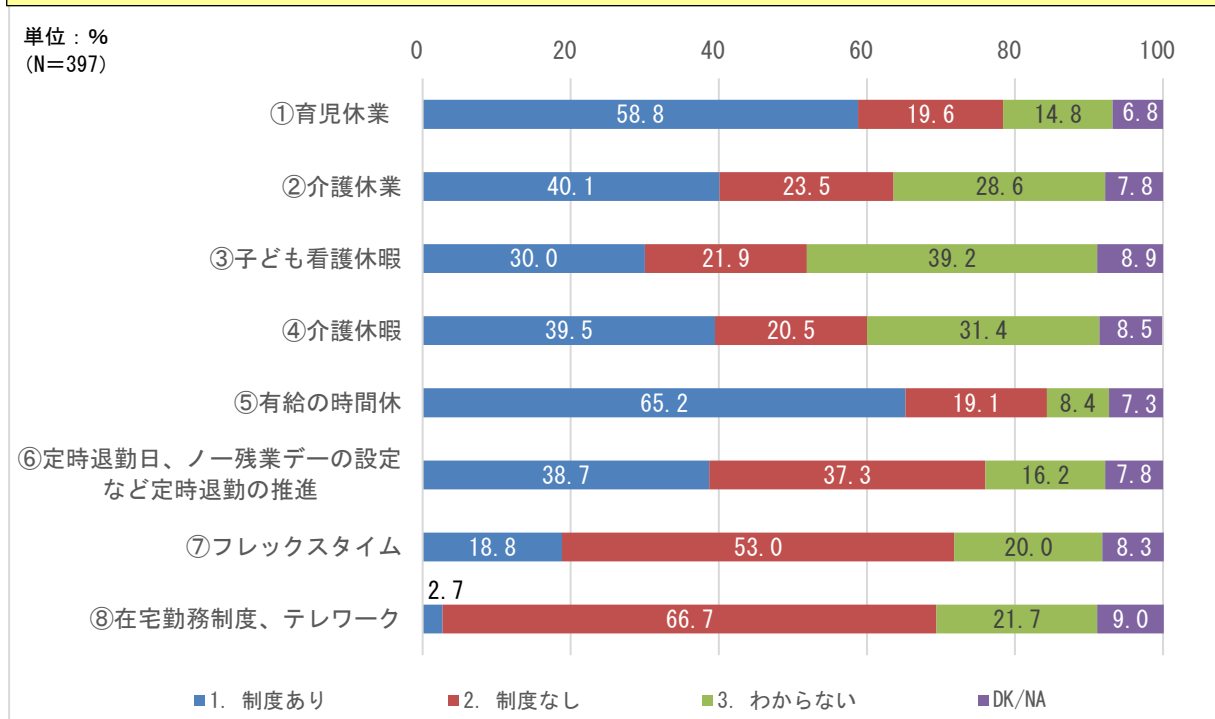


図 6-1 職場での制度の状況

質問6 イ 各制度について、あなたの取得・利用状況をお答えください。

(5. 取得に該当しない、無回答を除く)

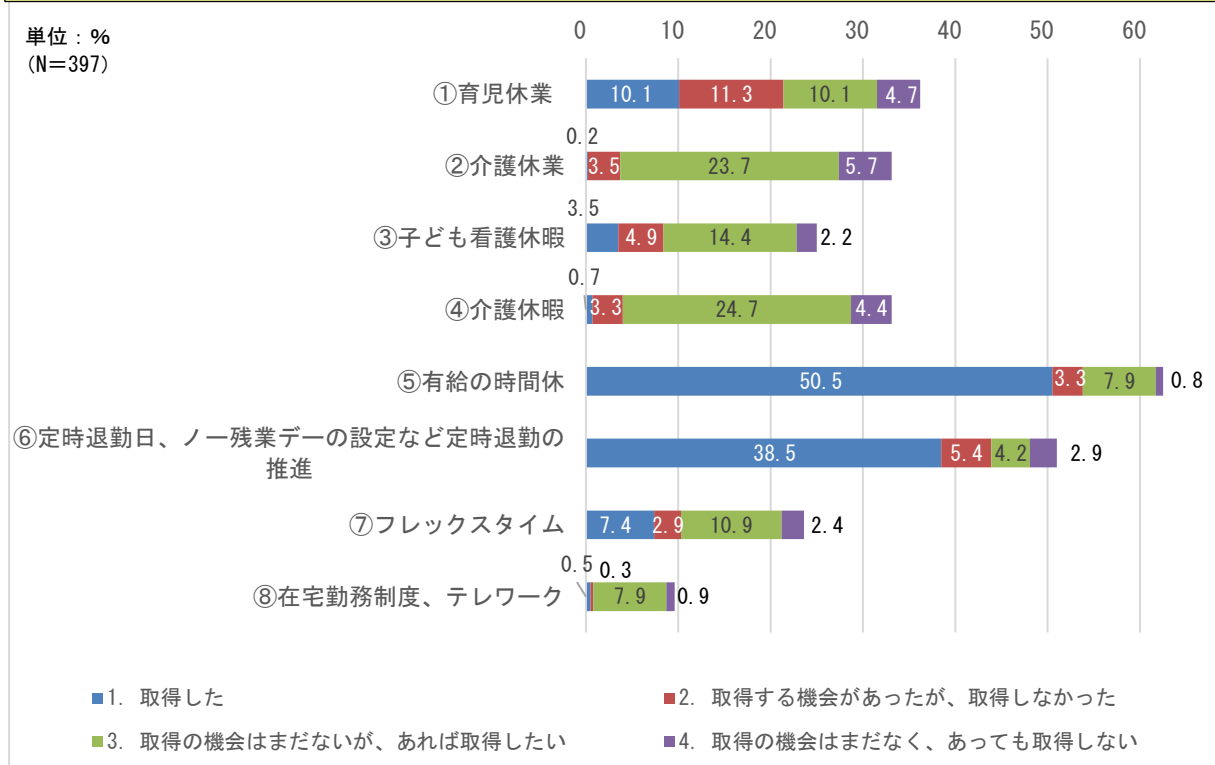


図 6-2 職場での制度の取得・利用状況

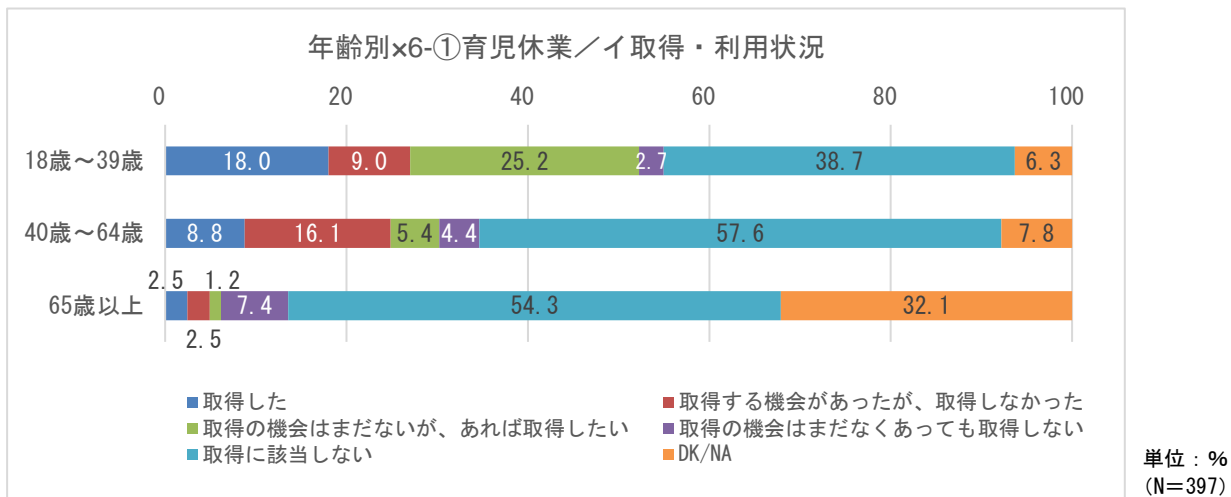


図 6-3 育児休業の取得・利用状況〈年齢別〉 カイ二乗検定 1%水準で有意

## (2) 育児休業を取得しなかった(しない)理由 [質問 7]

[質問 6]で「取得する機会があったが、取得しなかった」または「取得の機会はまだなく、あっても取得しない」を選んだ人(N=63)に育休を利用しなかった(しない)理由をたずねたところ、図 7 のとおりの結果であった。回答が多かったのは、⑪家族や保育所など、自分以外に育児の担い手がいたから(31.4%)、⑧自分にしかできない仕事や担当している仕事があったから(29.2%)、②職場が取得しづらい雰囲気だから(28.5%)という順であった。

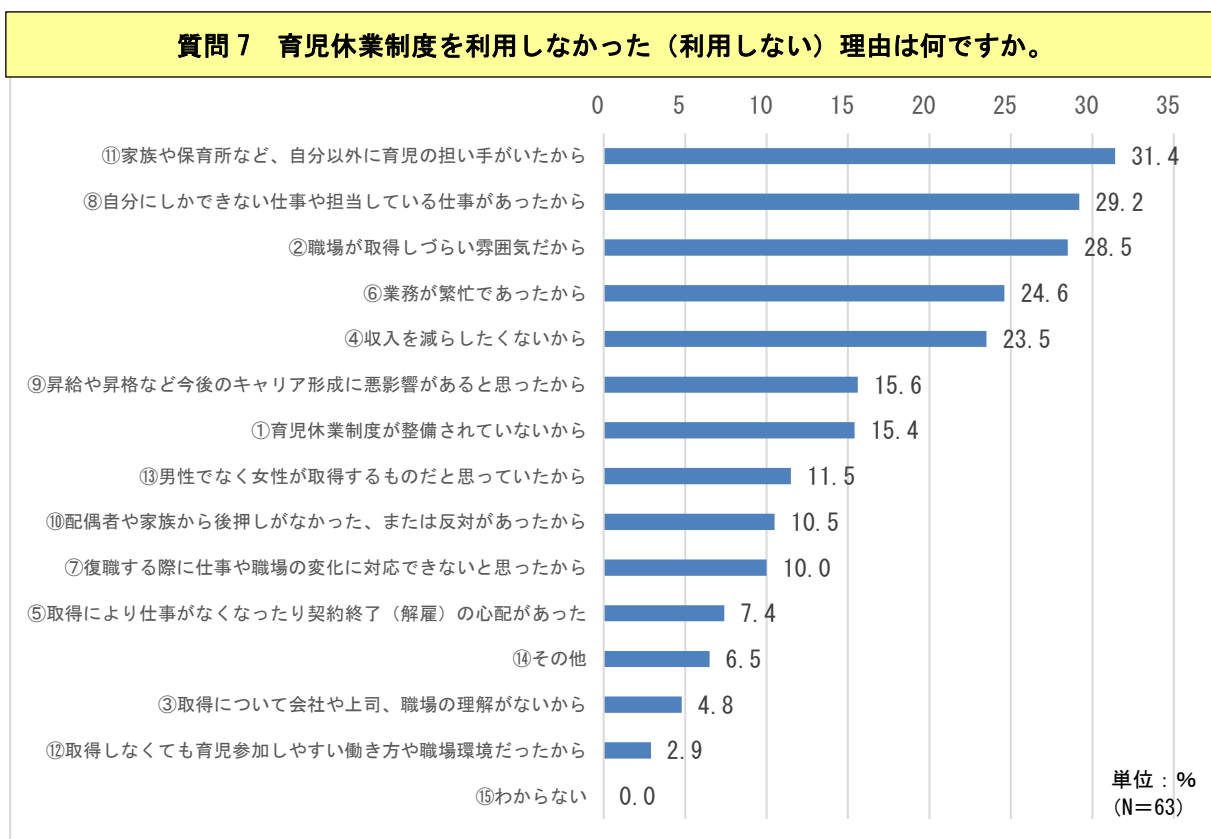


図 7 育児休業を取得しなかった(しない)理由：複数回答

(3) 男性の育児休業・休暇等の取得について [質問 8]

男性が育児休業や介護休業・休暇等を取得することをどう思うかたずねたところ、図 8 のとおりの結果となった。とった方がよい(30.9%)、どちらかといえばとった方がよい(34.8%)を合計すると、6割5分が肯定的な回答であった。

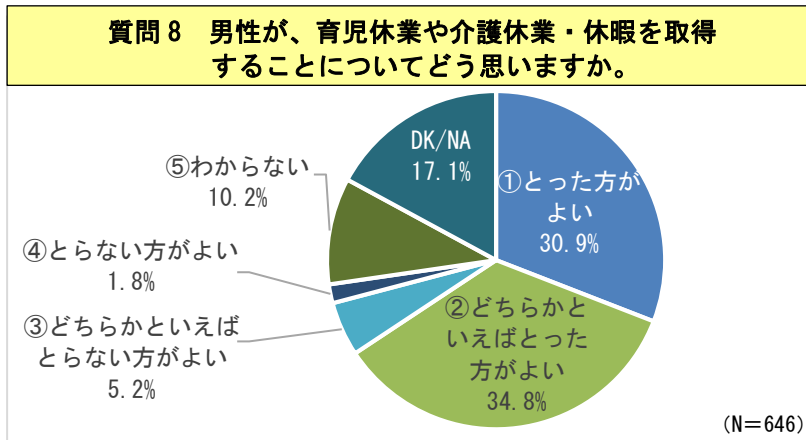


図 8 男性の育児休業・休暇等の取得について

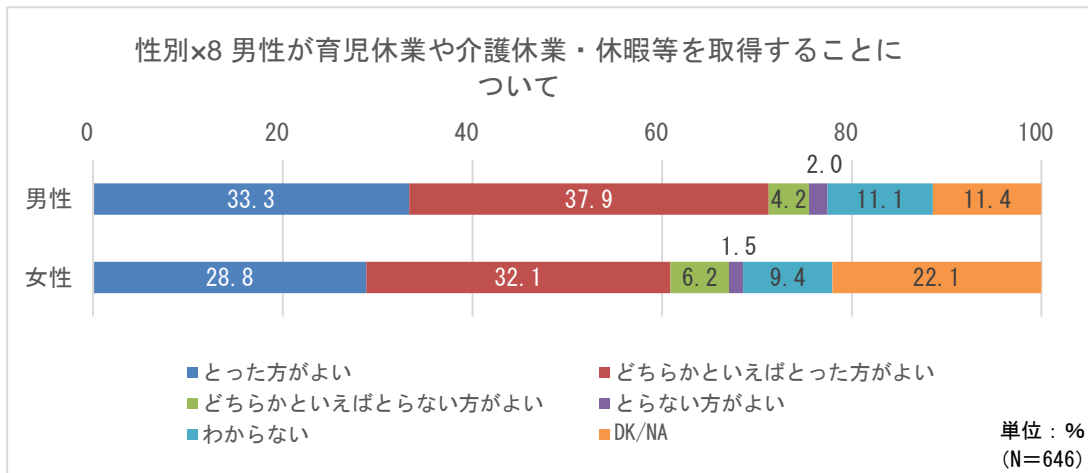


図 8-1 男性の育児休業・休暇等の取得について〈性別〉カイニ乗検定 5%水準で有意

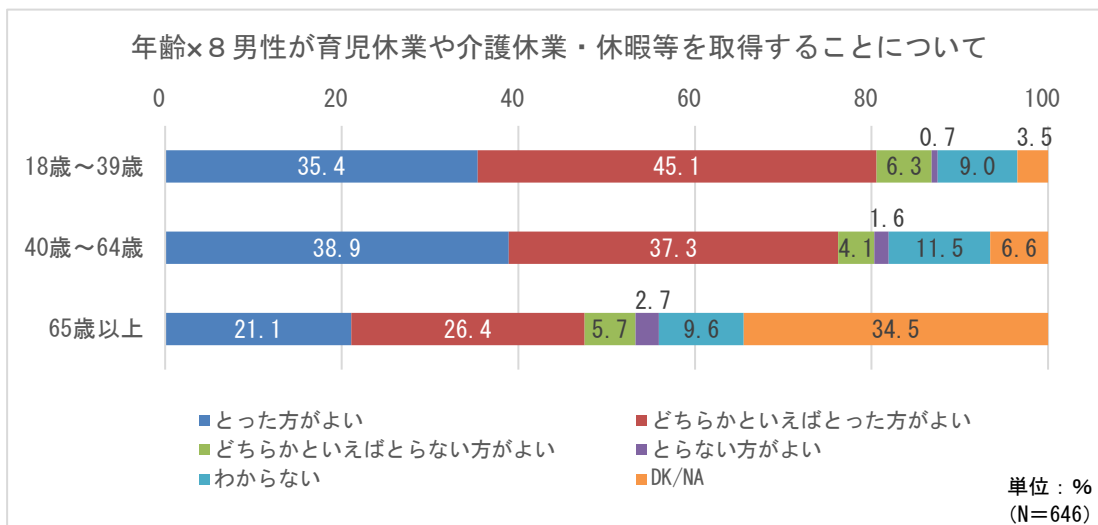


図 8-2 男性の育児休業・休暇等の取得について〈年齢別〉カイニ乗検定 1%水準で有意

男女別に見ると、男性は『肯定的回答』（33.3%+37.9%=71.2%）が7割となり、女性の『肯定的回答』（28.8%+32.1%=60.9%）の6割を上回る結果となった〔図8-1〕。

年齢別にみると、若い年代ほど『肯定的回答』の割合が高く、中年層と高年層のあいだには30ポイント弱のギャップがあることが明らかになった（図8-2）。

#### （4）男性が育休を「とらない方がよい」とする理由〔質問9〕

〔質問8〕で「どちらかといえばとらない方がよい」または「とらない方がよい」と回答した人（N=45）にその理由をたずねたところ、図9のとおりの結果となった。回答が最多であったのは④男性より女性にとるべきである（46.7%）であり、つづいて、①経済的に苦しくなる（42.3%）、②職場の理解が得られない（35.2%）という順であった。

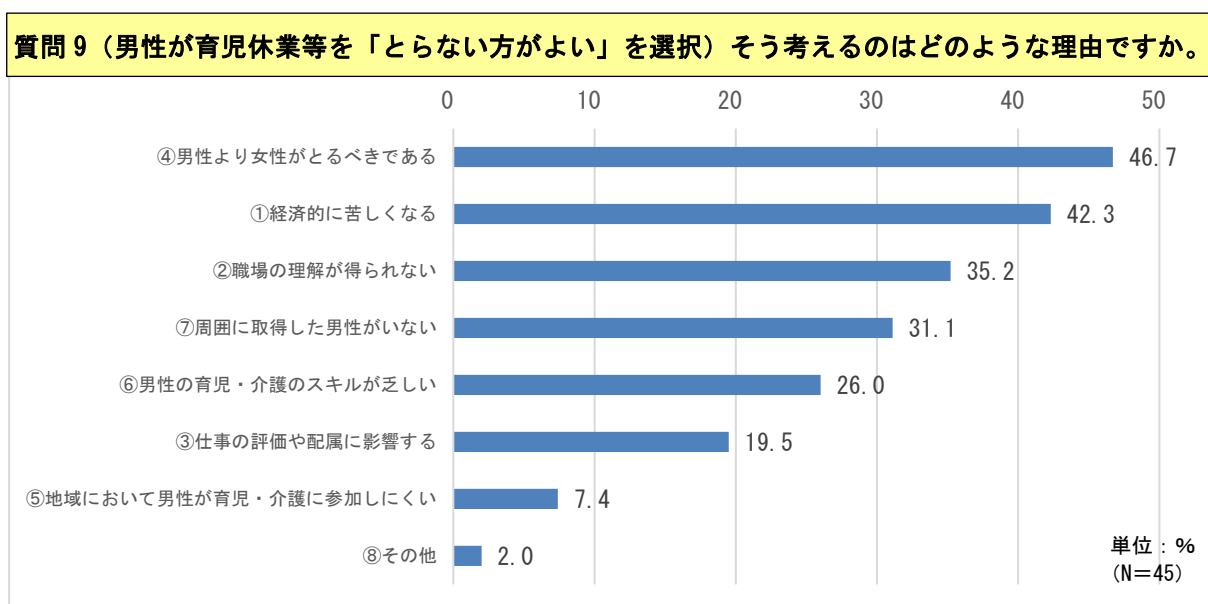


図9 男性が育休を「とらない方がよい」とする理由：複数回答

#### （5）仕事と仕事以外の生活との調和に必要なこと〔質問10〕

仕事と仕事以外の生活との調和がとれるようになるために必要なことをたずねたところ、図10のとおりとなった。回答が最多であったのは②職場での育児休暇（休業）等が取得しやすい雰囲気づくり（54.4%）であり、つづいて、①職場の働き方の見直し（50.3%）、⑩病気等になっても働き続けられる制度・職場環境の整備（44.4%）の順となった。

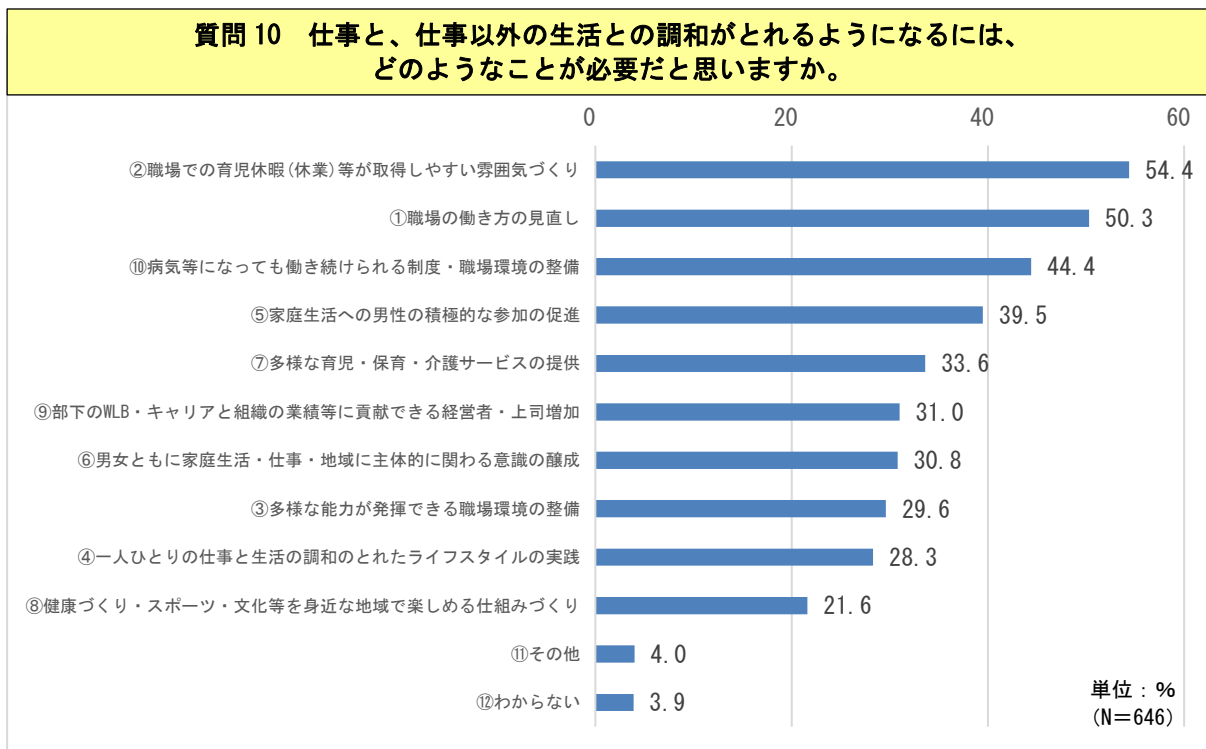


図 10 仕事と仕事以外の生活との調和に必要なこと：複数回答

#### 4 女性活躍推進について

##### (1) 女性就労に必要な支援 [質問 11]

女性の就労に対する企業や行政による支援として必要なことをたずねたところ、図 11 のとおりとなった。回答が最多であったのは①保育・介護のための施設やサービス(69.1%)であり、つづいて、②男女ともに取得しやすい育児・介護休業制度の啓発・促進(64.4%)、③パートタイム・派遣労働などの雇用の安定や労働条件の整備(55.4%)、⑫賃金の引上げ(53.3%)の順となった。

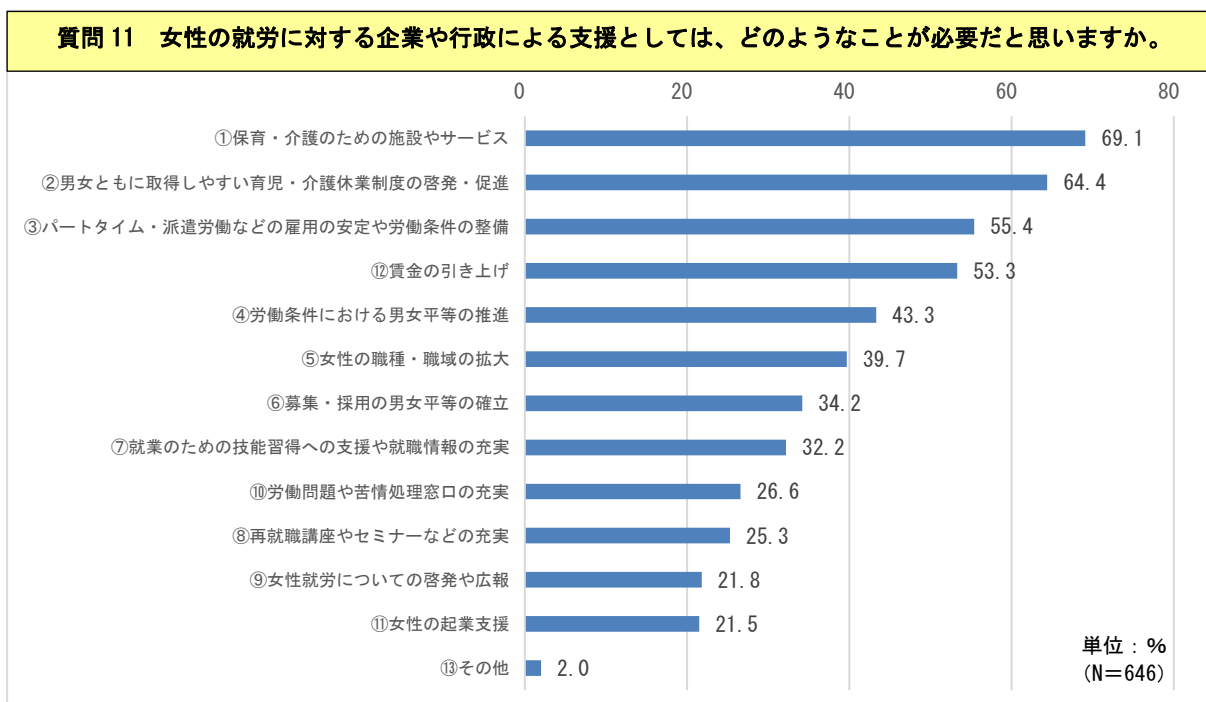


図 11 女性就労に必要な支援：複数回答

## (2) 女性活躍推進に必要な情報 [質問 12]

女性の活躍推進の取組のために必要な情報をたずねたところ、図 12 のとおりとなった。回答が最多であったのは①保育所や幼稚園、放課後児童クラブに関する情報(61.4%)であり、つづいて、②介護・家事の支援サービスに関する情報(内容、利用方法など)(59.6%)、⑤仕事と育児・介護との両立支援制度に関する情報(57.8%)の順となった。

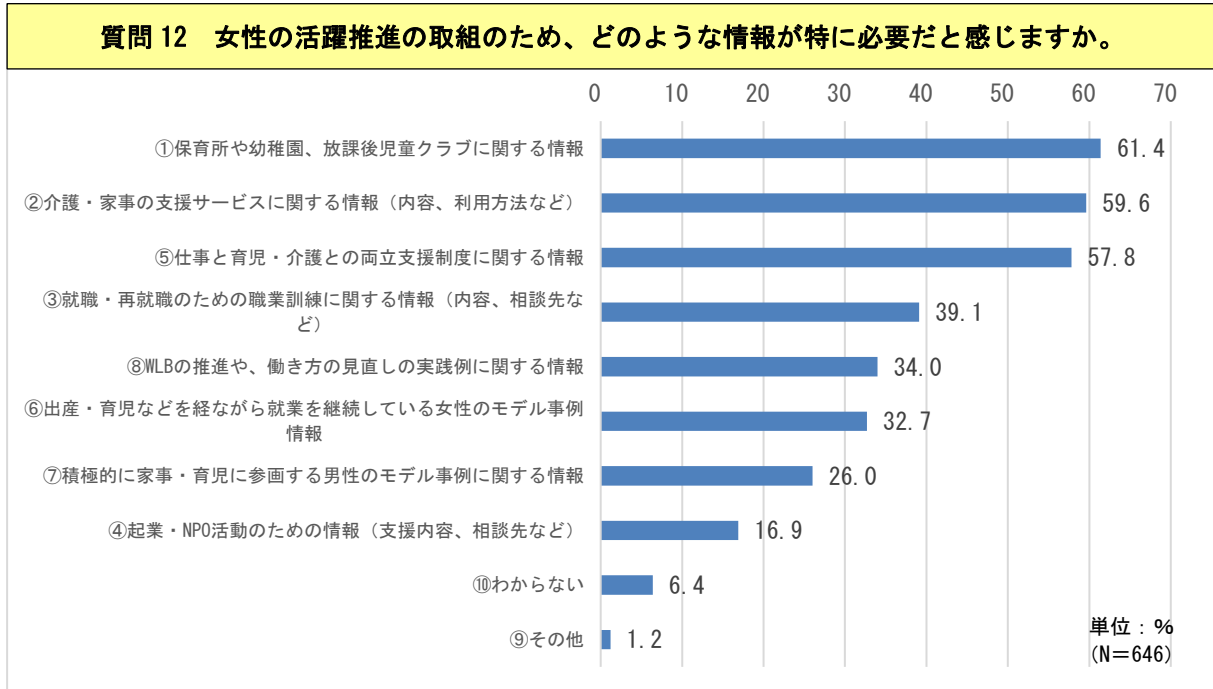


図 12 女性活躍推進に必要な情報：複数回答

## (3) 女性の意見や考え方の反映 [質問 13]

5つの分野において女性の意見・考え方が反映されているかどうかたずねたところ、図 13 のとおりとなった。「ある程度反映されている」という回答が最多であったのは、③PTA、保護者会(44.7%)、②職場(41.8%)、①町内会等の自治会(39.8%)、⑤県や市町村の施策(31.8%)である。他方、「あまり反映されていない」という回答が最多となったのは④政治(29.4%)であった。

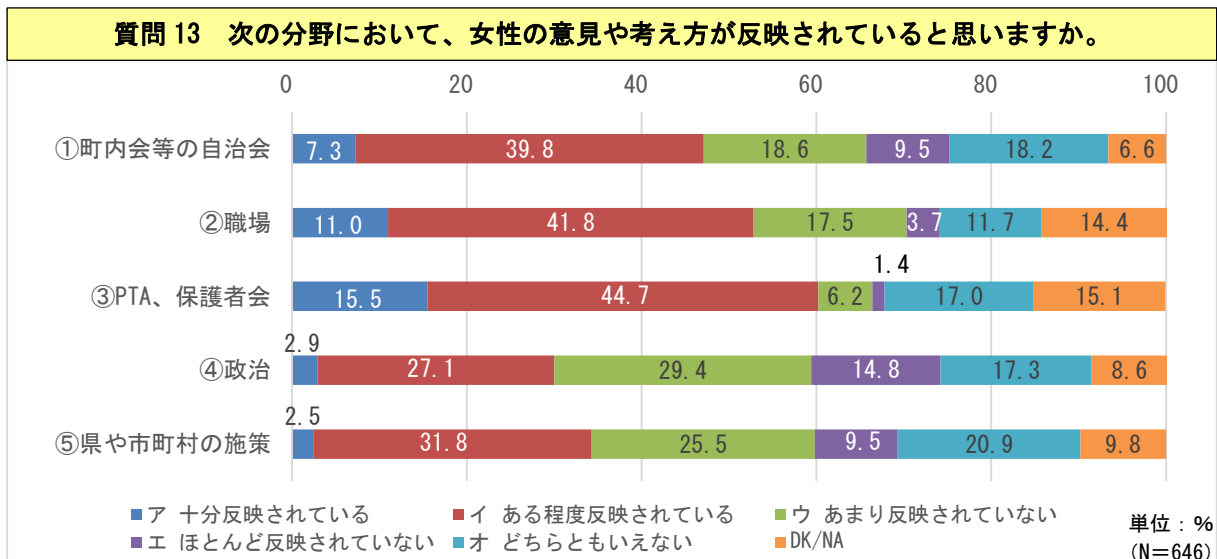


図 13 女性の意見や考え方の反映



男女別に見ると、『反映されている』（十分反映されている＋ある程度反映されている）という回答割合は、男性のほうが女性より高い傾向にあり（図 13-1、図 13-2、図 13-3、図 13-4）。①町内会等の自治会、③PTA、保護者会、④政治では、男女間の開きは12～13ポイントとなった。

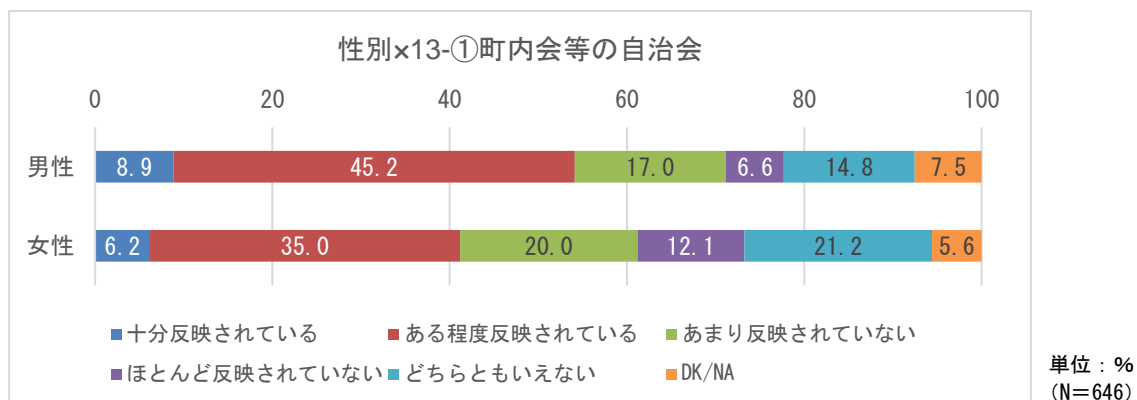


図 13-1 町内会等の自治会〈性別〉カイ二乗検定 1%水準で有意

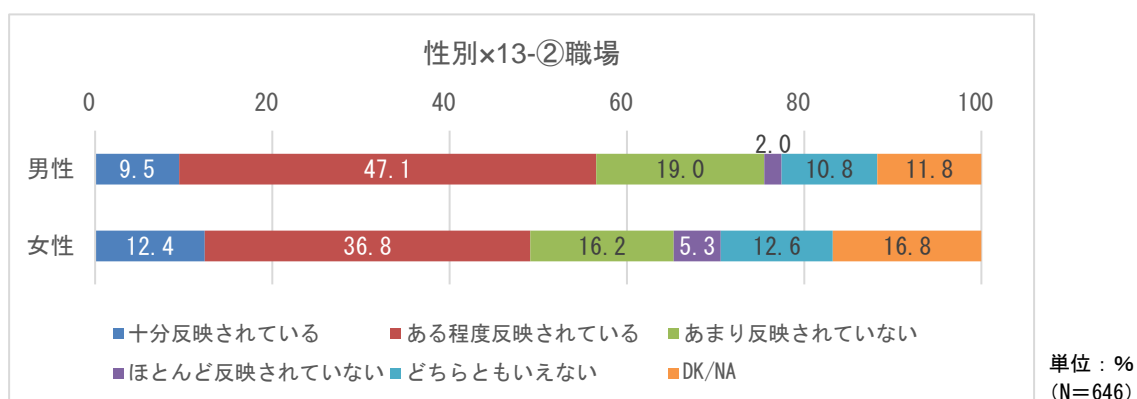


図 13-2 職場〈性別〉カイ二乗検定 1%水準で有意

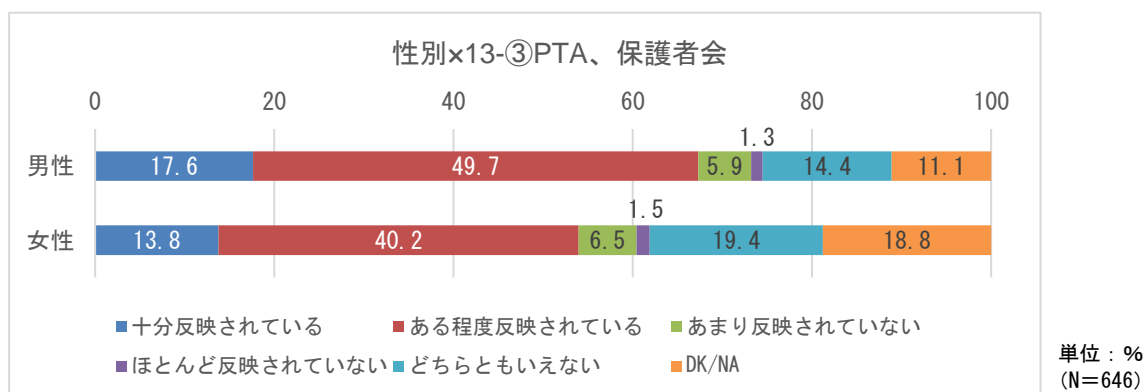


図 13-3 PTA、保護者会〈性別〉カイ二乗検定 1%水準で有意

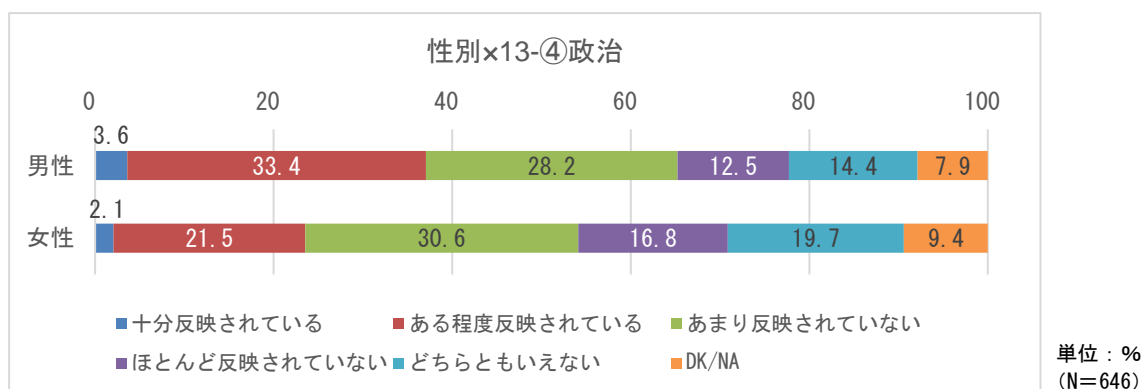


図 13-4 政治〈性別〉カイ二乗検定 1%水準で有意

(4) 女性の意見や考えが反映されていない理由 [質問 14]

[質問 13]で「あまり反映されていない」、「ほとんど反映されていない」と回答した人(N=376)にその理由をたずねたところ、図 14 の結果となった。回答が多かったのは①女性議員が少ない(53.5%)、⑤自治会長や組合団体、地域組織リーダーに女性が少ない(52.6%)、②企業等の管理職に女性が少ない(46.4%)の順であり、いずれも女性リーダーが少ないことが理由に挙げられた。

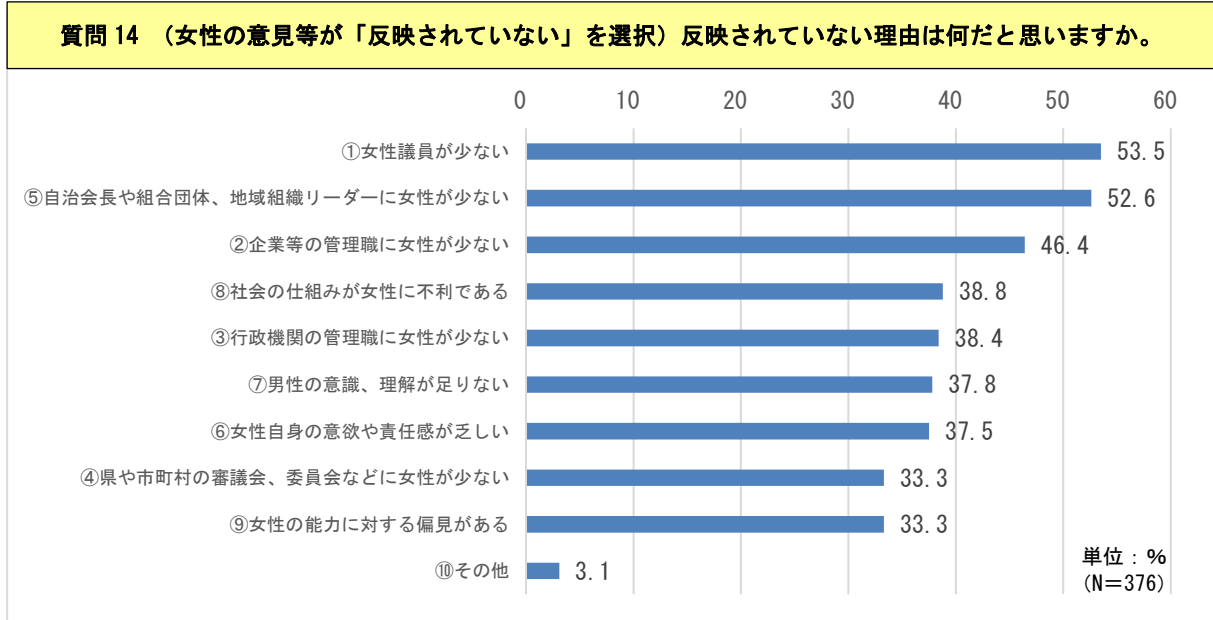


図 14 女性の意見や考えが反映されていない理由：複数回答

5 学校教育について

(1) 男女平等教育に必要な取組 [質問 15]

男女平等の視点で学校教育を進めるために必要な取組についてたずねたところ、図 15 のとおりの結果であった。回答が最多であったのは、①性別にとらわれず、本人の個性や能力を生かす

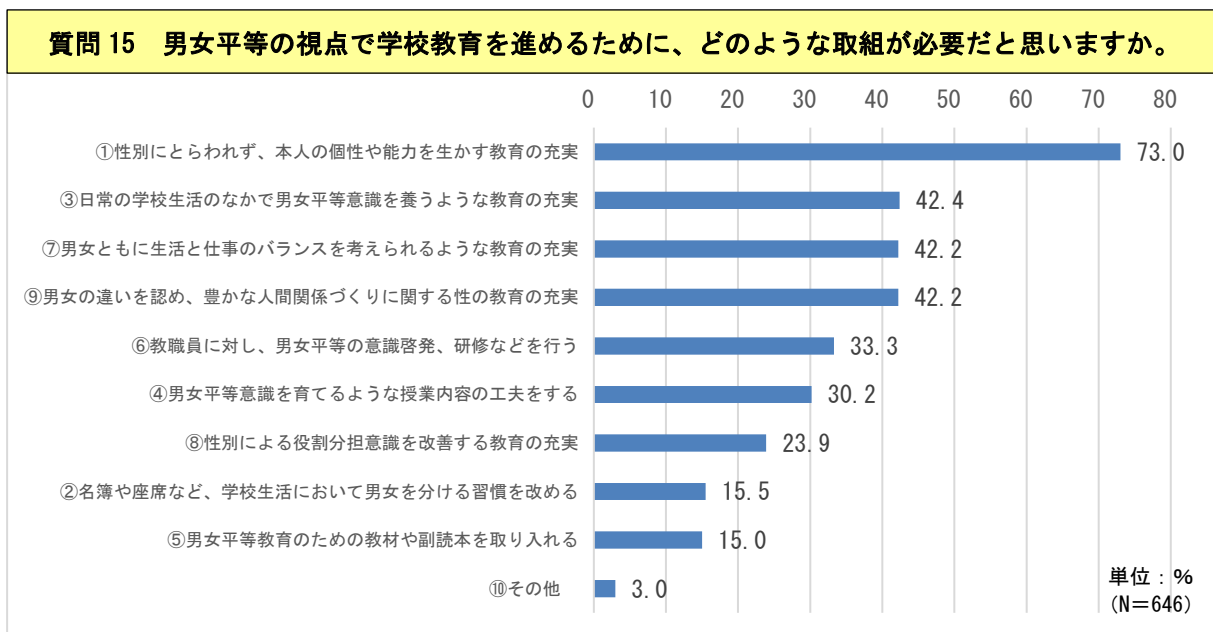


図 15 男女平等の視点で学校教育を進めるために必要と思う取組：複数回答

教育を充実させる(73.0%)であり、つづいて、③日常の学校生活のなかで、男女平等意識を養うような教育を充実させる(42.4%)、⑦男女ともに生活と仕事のバランスを考えられるような教育を充実させる(42.2%)、⑨男女の違いを認め、豊かな人間関係づくりに関する性の教育を充実させる(42.2%)の順であった。

## 6 DV (ドメスティック・バイオレンス) について

### (1) パートナーとのあいだのDV経験 [質問 16]

7項目について、パートナーから「されたこと」、「したこと」があるかどうかたずねたところ、**図 16-1**、**図 16-2** のとおりの結果となった。DV 経験があるという回答が多かったのは、②人格を否定するような暴言、脅迫、何を言っても無視するなどの精神的暴力であり、「したこともされたこともまったくない」という回答が 68.0%と最少となった(⑦その他を除く)。

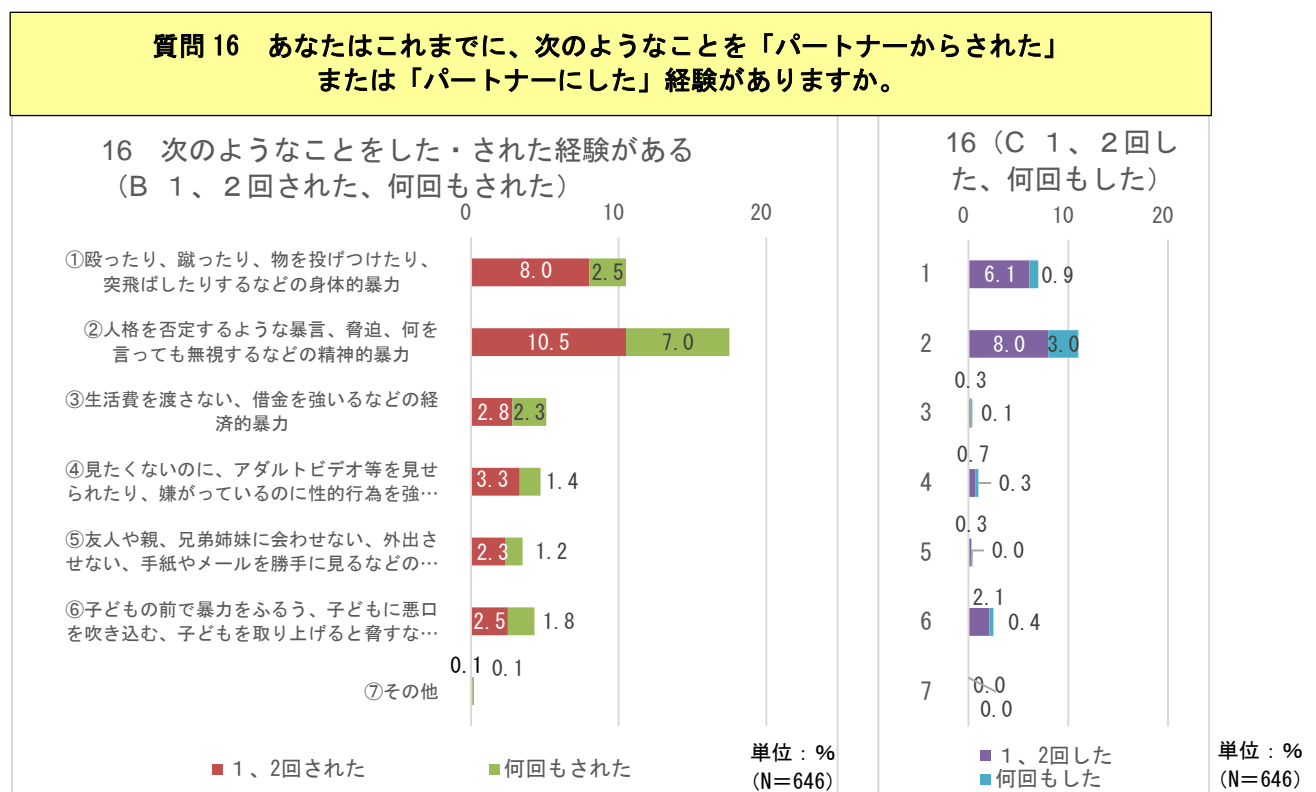


図 16-1 1、2回された、何回もされた：複数回答

図 16-2 1、2回した、何回もした：複数回答

※B(された経験)とC(した経験)両方に該当するとした回答や無回答が含まれるため、合計 100%とならない。

DV 経験のなかで最多となった②精神的暴力について、『DV をされた』(1、2回された+何回もされた)という回答は 17.5%と、約 6 人に 1 人となっている(図 16-1)。また、『DV をした』(1、2回した+何回もした)という回答は 11.0%で、10 人に 1 人強である(図 16-2)。なお、された経験とした経験の両方に回答した人がいた。

男女別にみると、『DV をされた』という回答割合は女性が男性より高く、『DV をした』という回答割合は男性が女性より高いという傾向となった(図 16-3、図 16-4、図 16-5、図 16-6)。

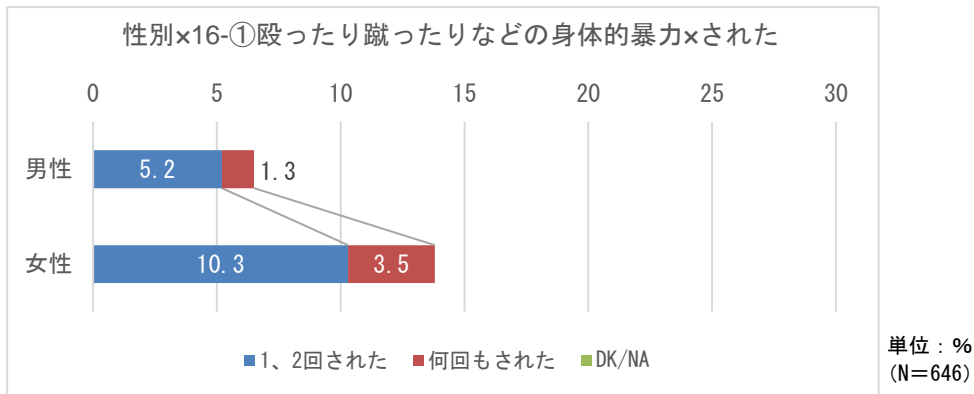


図 16-3 殴ったり蹴ったりなどの身体的暴力・された〈性別〉カイニ乗検定 1%水準で有意

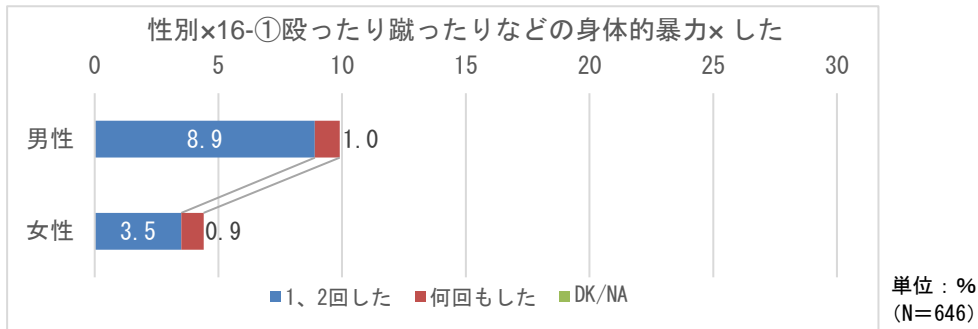


図 16-4 殴ったり蹴ったりなどの身体的暴力・した〈性別〉カイニ乗検定 1%水準で有意

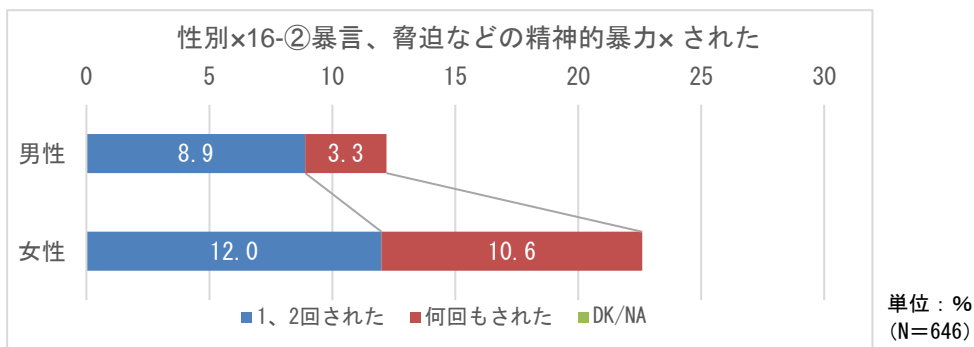


図 16-5 暴言、脅迫などの精神的暴力・された〈性別〉カイニ乗検定 1%水準で有意

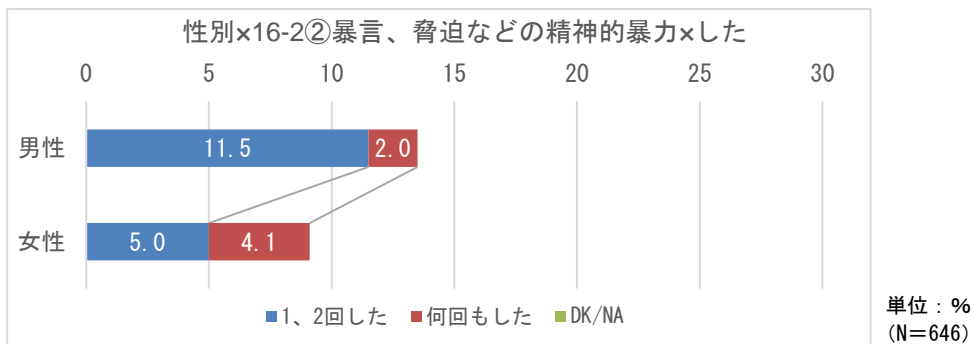


図 16-6 暴言、脅迫などの精神的暴力・した〈性別〉カイニ乗検定 1%水準で有意

## (2) DV についての相談相手 [質問 17]

[質問 16]で「1、2回された」または「何回もされた」と回答した人(N=180)に、そのことについて相談した相手がいるかどうかたずねたところ、図 17 のとおりの結果となった。①家族、親戚(34.7%)が最多で、僅差で、⑤だれ(どこ)にも相談しなかった(34.6%)が続いた。

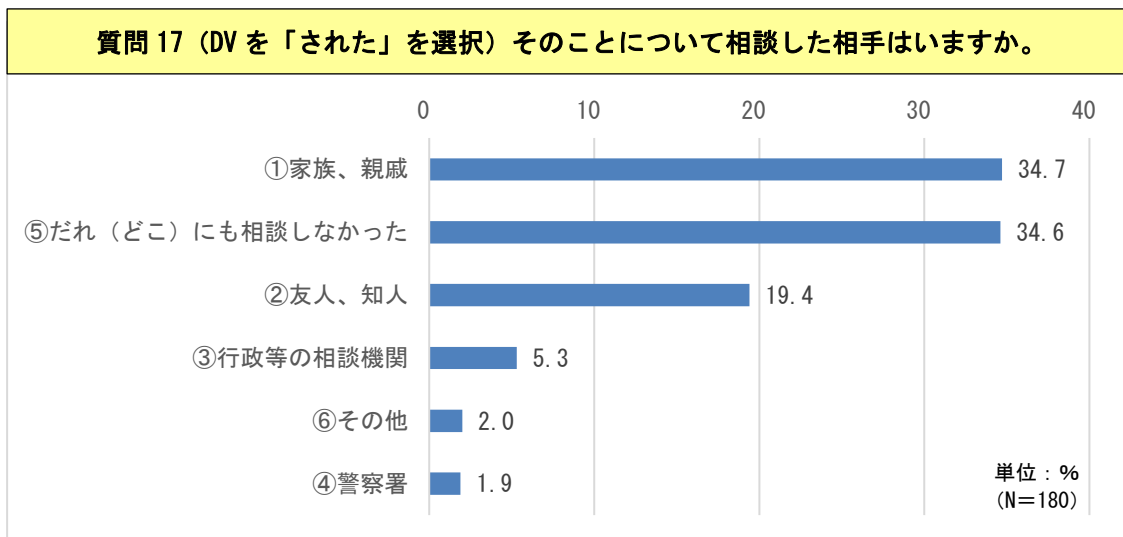


図 17 DV について相談した相手：複数回答

### (3) 相談しなかった理由 [質問 18]

[質問 17]で「だれ(どこ)にも相談しなかった」と回答した人(N=62)にその理由をたずねたところ、図 18 のとおりとなった。最多となったのは⑩相談するほどのことではないと思ったから(54.3%)であり、つづいて、⑨自分にも悪いところがあると思ったから(37.7%)、④自分さえがまんすればなんとかこのままやっていけると思ったから(36.0%)、④相談しても無駄だと思ったから(31.9%)という順であった。DV 経験のある人にとって、「相談する」ことが解決策の選択肢となっていない状況が明らかになった。

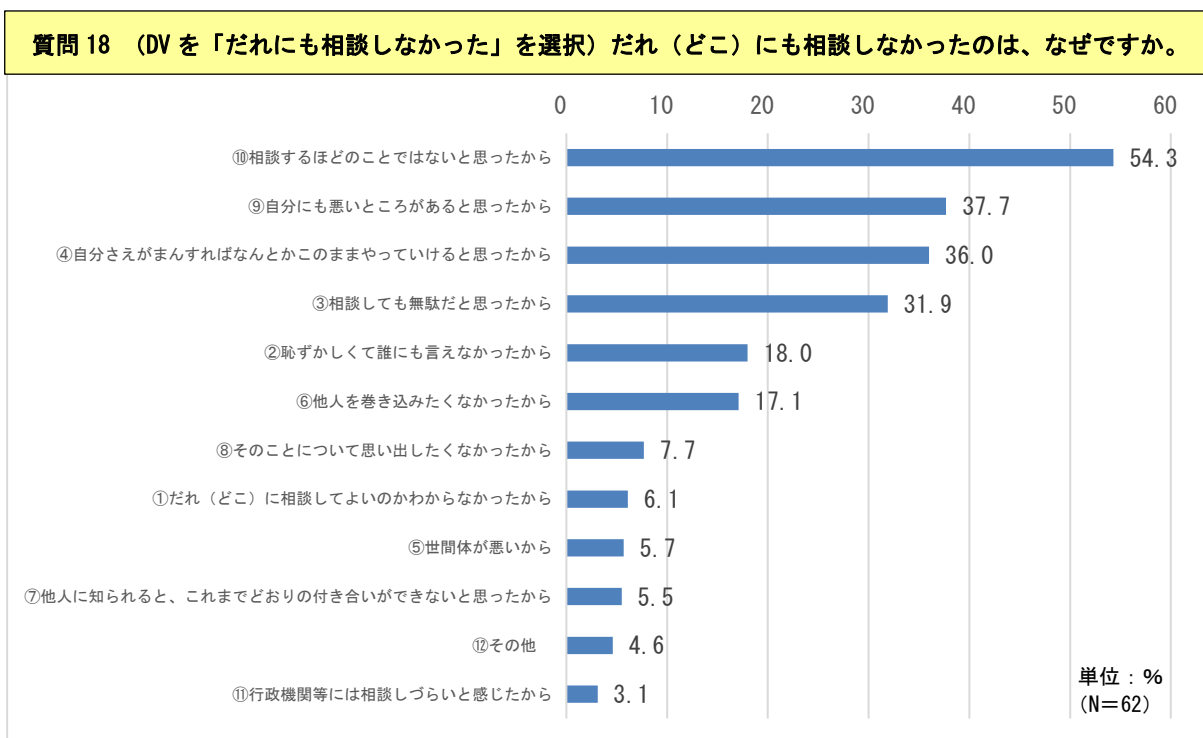


図 18 相談しなかった理由：複数回答

#### (4) デート DV 等の防止策 [質問 19]

デート DV(交際相手からの暴力)、DV(配偶者等からの暴力)、セクシュアルハラスメント、ストーカー、性暴力などを予防し、なくすためにどうすればよいと思うかたずねたところ、**図 19**の結果となった。最多の回答は、②学校で思いやりの気持ちや生命の大切さの教育を充実させる(53.0%)、つづいて、④被害者のための窓口や相談所を充実させる(49.8%)、③DV、セクシュアルハラスメント、ストーカーなどに関する啓発をする(37.9%)という順であった。

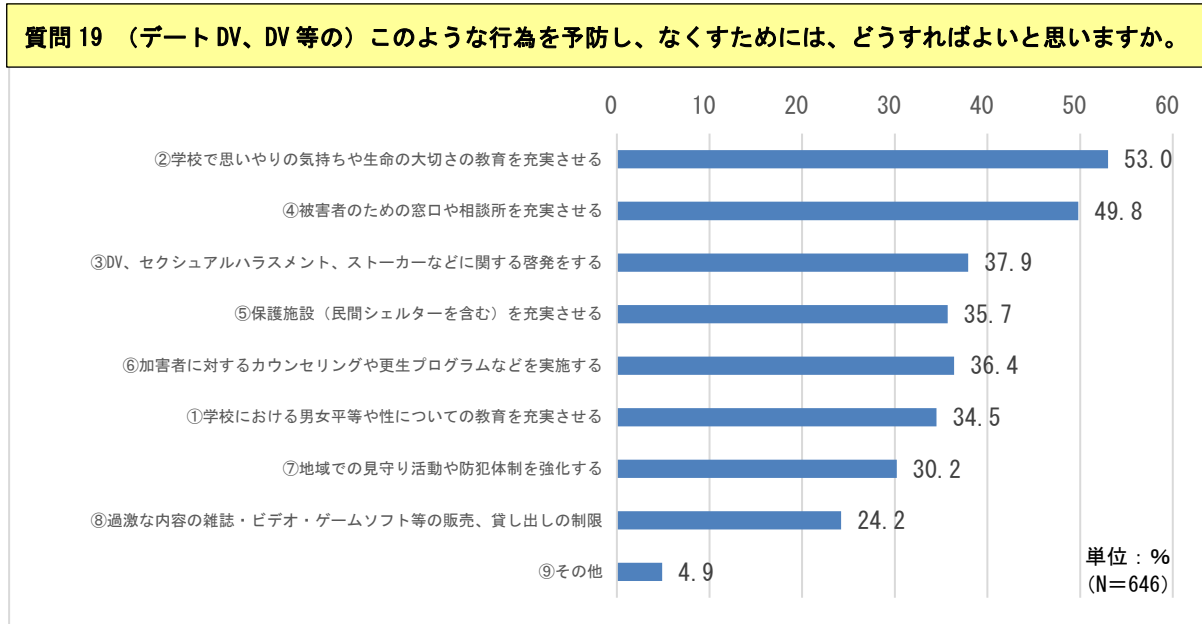


図 19 デート DV、DV 等の防止策：複数回答

## 7 LGBT 等性的少数者について

### (1) 言葉の周知度 [質問 20]

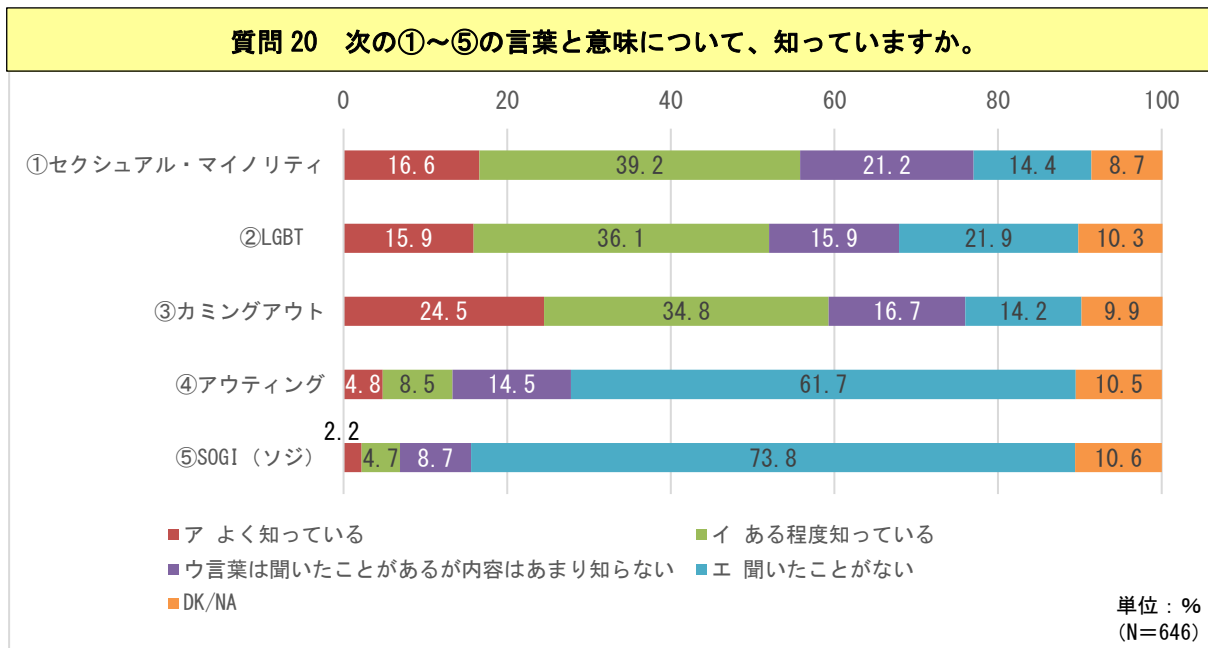
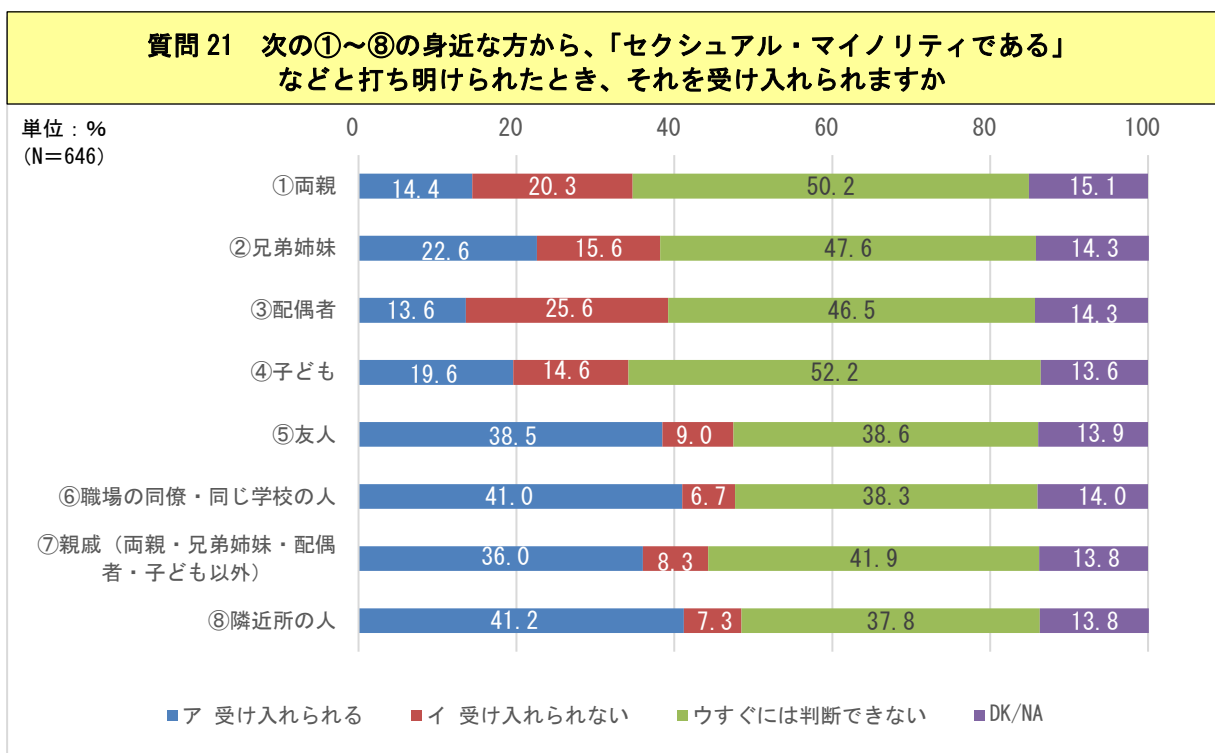


図 20 言葉の周知度

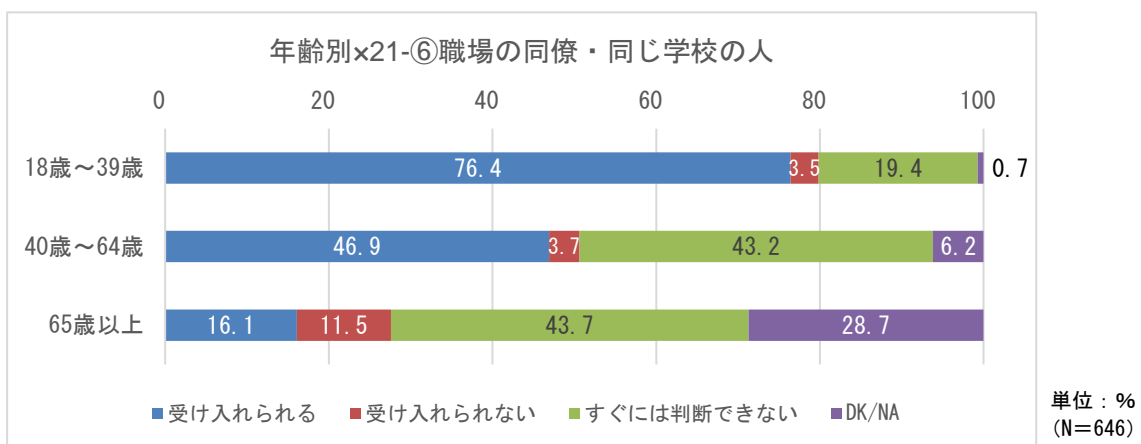
5項目の言葉と意味について知っているかたずねたところ、**図 20** のとおりの結果となった。「よく知っている」という回答で最多となったのは、③カミングアウト(24.5%)である。『知っている』(「よく知っている+ある程度知っている)という回答は、やはり③カミングアウト(69.3%)が最多となり、①セクシュアル・マイノリティ(55.8%)、②LGBT(52.0%)が続いた。④アウティングおよび⑤SOGIについては、周知度が低いことがわかった。

**(2) セクシュアル・マイノリティの受け入れ [質問 21]**

身近な人から「セクシュアル・マイノリティである」と打ち明けられたとき、それを受け入れられるかたずねたところ、**図 21** の結果となった。受け入れられる対象として最多の回答があったのは⑧隣近所の人(41.2%)であり、つづいて、⑥職場の同僚・同じ学校の人(41.0%)、⑤友人(38.5%)、⑦親戚(両親・兄弟姉妹・配偶者・子ども以外)(36.0%)の順であった。



**図 21** セクシュアル・マイノリティの受け入れ



**図 21-1** セクシュアル・マイノリティの受け入れ⑥職場の同僚・同じ学校の人〈年齢別〉  
カイ二乗検定 1%水準で有意

男女別による有意差は見られなかったが、年齢別では、若年層ほど「受け入れられる」という回答割合が高いという傾向が見られた。とくに18歳～39歳の方が「受け入れられる」と回答した割合が際立って高くなったのは、職場の同僚・同じ学校の人(76.4%)、友人(74.8%)であった(図21-1、図21-2)。

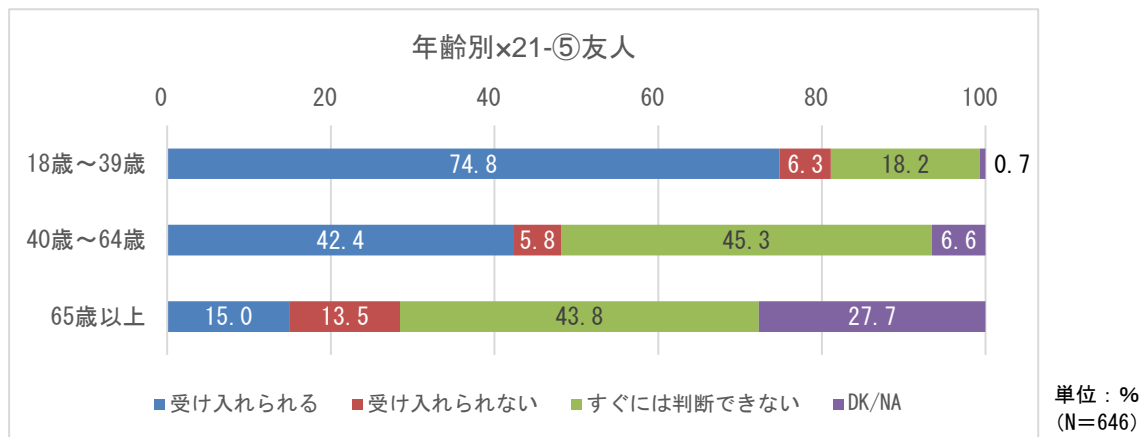


図 21-2 セクシュアル・マイノリティの受け入れ⑤友人〈年齢別〉カイニ乗検定 1%水準で有意

### (3) セクシュアル・マイノリティへの支援策 [質問 22]

セクシュアル・マイノリティに対して必要な支援や対策についてたずねたところ、図22のとおり結果となった。①相談できる窓口の設置(58.7%)が最多であり、つづいて、②気持ちや情報を共有できる居場所づくり(53.0%)、③いじめや差別を禁止する法律や条例の制定(38.1%)という順であった。さらにわずかな差で、⑦幼少期からの教育の充実(37.0%)、⑧更衣室やトイレ、制服など男女で区別されているものに対する配慮(36.8%)がつついた。

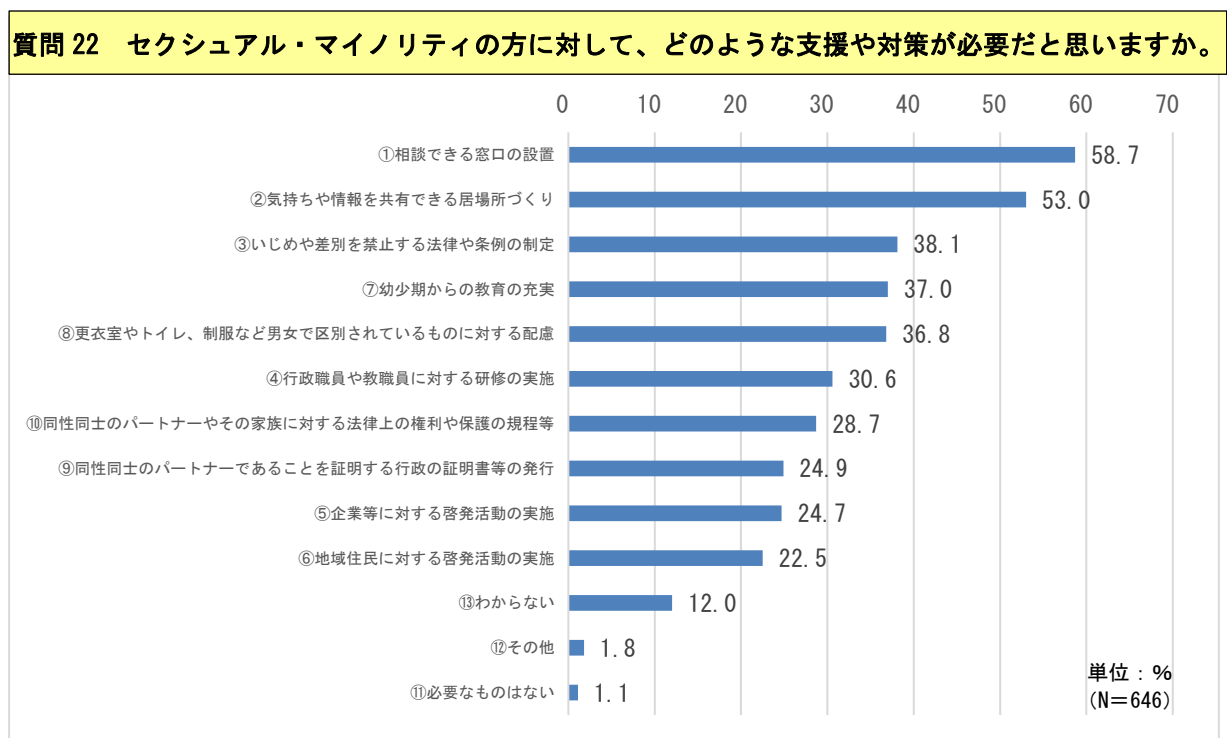


図 22 セクシュアル・マイノリティへの支援策：複数回答



## 8 行政による取組について

### (1) 鶴岡市としての取組 [質問 23]

男女が平等な立場で協力し合っていくための鶴岡市としての取組についてたずねたところ、**図 23** のとおりの結果となった。最多の回答は、**⑨育児・保育・介護サービスの充実**(64.1%)であり、つづいて、**⑩子どもを産み育てやすい環境づくり**(助成制度、産科医の充実等)の促進(62.5%)、**⑦子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職の支援**(59.4%)、**⑤子どものときから、学校で平等意識を育てる教育の充実**(52.1%)の順となった。

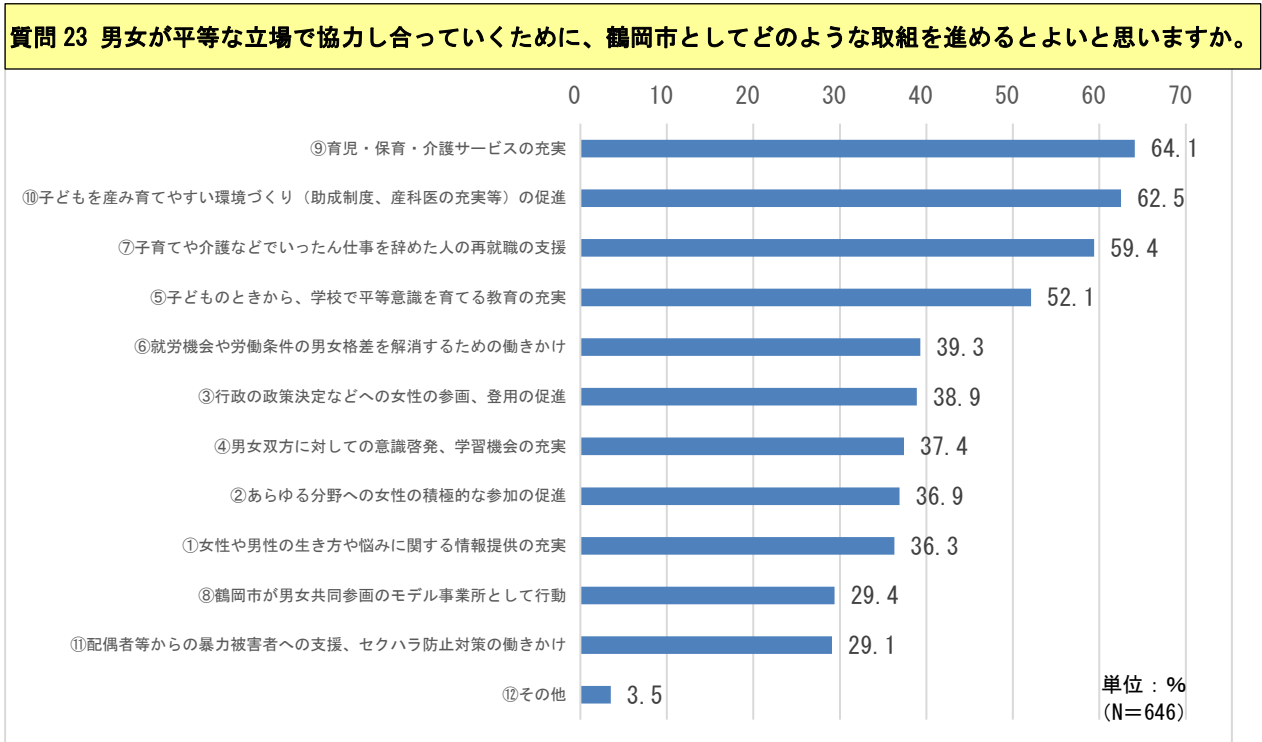


図 23 男女共同参画推進のための鶴岡市の取組：複数回答

男女別に見ると、上述の回答割合の高かった 4 項目において、いずれも女性の回答が男性の回答を上回るという傾向であった(図 23-1、図 23-2、図 23-3、図 23-4)。

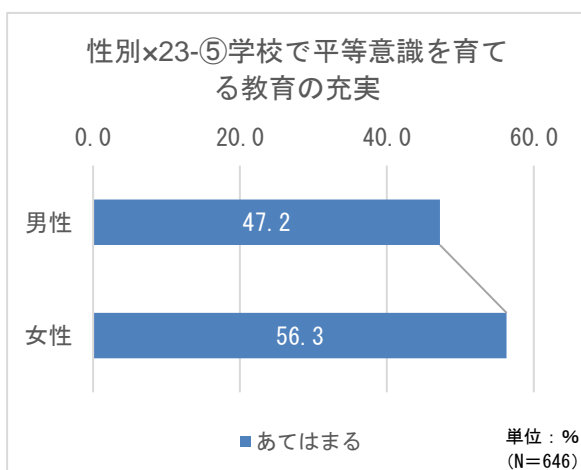


図 23-1 学校で平等意識を育てる教育(性別)  
カイ二乗検定 5%水準で有意

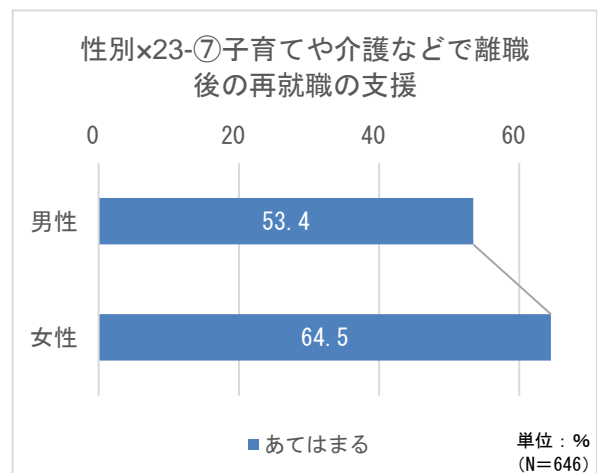


図 23-2 子育て・介護離職後の再就職支援(性別)  
カイ二乗検定 1%水準で有意

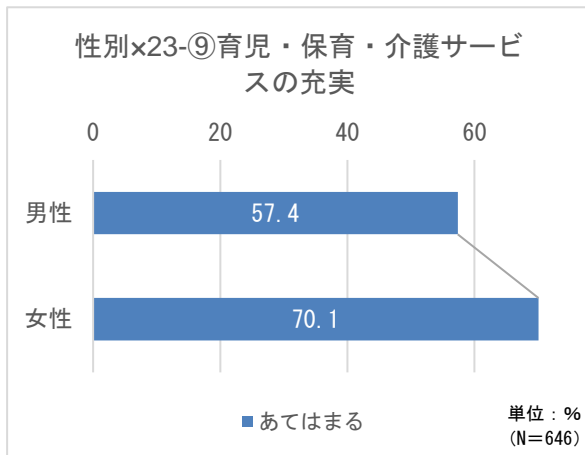


図 23-3 育児・保育・介護サービスの充実〈性別〉  
カイ二乗検定 1%水準で有意

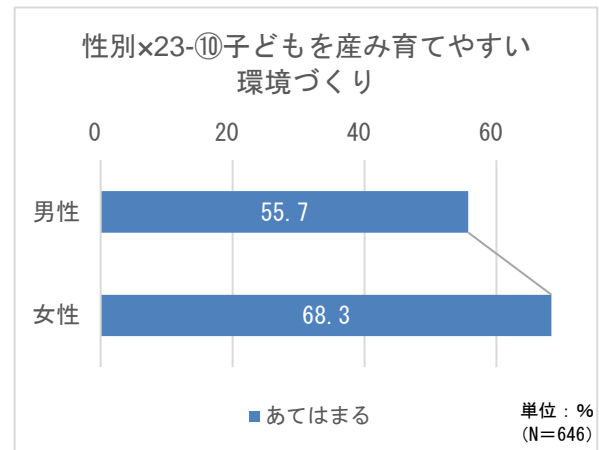


図 23-4 子どもを産み育てやすい環境づくり〈性別〉  
カイ二乗検定 1%水準で有意

なお、⑫その他と回答した人(3.5%)のほとんどが、( )内に自由記述をしており、また欄外(質問23の下部余白)にも多くの記述があった(参考資料3を参照)。

#### IV 参考資料【参考資料1】 調査票

### 鶴岡市男女共同参画に関する市民意識調査

各質問については、令和元年11月6日時点の状況をお答えください。

(1)最初に、あなたご自身のことについてお伺いします。次のA～Jについて、当てはまる選択肢に○をつけてください。

記号	質問	選択肢
A	性別 ※「③その他」とは、セクシュアル・マイノリティを考慮した選択肢です。性別は、戸籍上の区分とは別に、ご自身の考えにより記入してください。	①男性                      ②女性                      ③その他
B	年齢 (2019年11月6日時点)	①18歳、19歳              ②20歳～29歳              ③30歳～39歳 ④40歳～49歳              ⑤50歳～59歳              ⑥60歳～64歳 ⑦65歳～69歳              ⑧70歳以上
C	現在居住している地区	①第一学区 ②第二学区 ③第三学区 ④第四学区 ⑤第五学区 ⑥第六学区 ⑦斎              ⑧黄金              ⑨湯田川              ⑩大泉              ⑪京田              ⑫栄 ⑬田川              ⑭上郷              ⑮三瀬              ⑯小堅              ⑰由良              ⑱加茂 ⑲湯野浜              ⑳大山              ㉑西郷              ㉒藤島地域              ㉓羽黒地域              ㉔榊引地域 ㉕朝日地域              ㉖温海地域
D	職業	①自営業                      ②会社経営者、役員              ③正規雇用者 ④非正規雇用者(パート・アルバイト・派遣等)              ⑤公務員                      ⑥専業主婦・主夫 ⑦無職                      ⑧高校生・学生                      ⑨その他 ( )
	(上記で①～④を選んだ方へ) 職業の分野はなんですか	①農林水産業              ②建築・土木業              ③製造業                      ④商業・サービス業              ⑤その他 ( )
E	婚姻関係の有無	①未婚                      ②既婚(配偶者あり)              ③既婚(離別、死別)
	(上記で②を選んだ方へ) 共働き(内職を含む)ですか	①共働きである                      ②共働きでない
F	お子さんの有無	①いる                      ②いない
	(上記で①を選んだ方へ) お子さんの就学段階とその人数 ※当てはまるもの全てに○をつけ、人数を記入	①小学校入学前              _____ 人              ②小学生              _____ 人 ③中学生              _____ 人              ④高校生              _____ 人 ⑤大学生、大学院生、短大生、専門学校生              _____ 人              ⑥社会人              _____ 人 ⑦その他 ( ) _____ 人
G	介護を必要とする方との同居の有無	①同居している                      ②同居していない
H	世帯の構成	①ひとり暮らし                      ②1世代(夫婦・パートナーのみ、兄弟姉妹のみ) ③2世代(親と子)                      ④3世代(親と子と孫)              ⑤その他 ( )
I	出身地	①鶴岡市内                      ②庄内地域(鶴岡市除く)                      ③山形県内(庄内地域除く)                      ④山形県外
J	市外での居住経験	①鶴岡市以外に住んだことはない                      ②鶴岡市以外の山形県内に住んだ経験がある ③山形県外に住んだ経験がある                      ④鶴岡市以外の山形県内、山形県外の両方に住んだ経験がある

(2)各質問について、当てはまる選択肢に ○ や ☑、数字を記入してください。

質問番号	質問	選択肢						
<b>男女共同参画社会について</b>								
		ア	イ	ウ	エ	オ	カ	
		言葉も意味も知っている	言葉は知っているが意味は知らない	言葉も意味も知らない				
1	<p>次にあげる言葉や法律等を知っていますか。</p> <p>※①～⑥それぞれ1つに○</p>	① 男女共同参画社会	ア	イ	ウ			
		② 雇用機会均等法	ア	イ	ウ			
		③ 育児・介護休業法	ア	イ	ウ			
		④ DV(ドメスティック・バイオレンス)	ア	イ	ウ			
		⑤ DV防止法	ア	イ	ウ			
		⑥ ワーク・ライフ・バランス	ア	イ	ウ			
		⑦ イクボス	ア	イ	ウ			
		<p>&lt;参考&gt;</p> <p>[男女共同参画社会] 男女が互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮できる社会のこと。</p> <p>[男女雇用機会均等法] 1986年に施行され、1997年6月に、女性に対する募集、採用、配置などの差別禁止規定や、セクシュアルハラスメントの防止などの雇用管理上の規定を新設するなどの改正が行われた。</p> <p>[育児・介護休業法] 育児又は介護を行う労働者の職業生活、家庭生活の調和が図られるよう支援するため1991年に制定された法律のこと。</p> <p>[DV(ドメスティック・バイオレンス)] 配偶者等の親密な関係にある者・あった者の間で行われる身体的・精神的などの苦痛を与える暴力的行為のこと。</p> <p>[DV防止法] 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律。2001年施行。配偶者からの暴力に係る通報、相談、保護、自立支援等の体制を整備し、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護を図ることを目的としている。</p> <p>[ワーク・ライフ・バランス] 「仕事と生活の調和」と訳され、働く人が、仕事と、子育てや介護、自己啓発、地域活動などといった仕事以外の生活とを自分が望むバランスで実現できることを意味している。</p> <p>[イクボス] 部下のワーク・ライフ・バランスを考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績と結果を出し、自らも仕事と私生活を楽しむことができる経営者や上司のこと。</p>						
2	<p>次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。</p> <p>あなたのお気持ちに一番近いものを選んでください。</p> <p>※①～⑧それぞれ1つに○</p>	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	
		女性が優遇されている	どちらかといえば女性が優遇されている	平等	どちらかといえば男性が優遇されている	男性が優遇されている	わからない	
		① 家庭生活	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
		② 職場（家業、農業等を含む）	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
		③ 就職活動の場	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
		④ 学校教育の場	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
		⑤ 政治の場	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
		⑥ 社会活動の場（PTAや地域活動など）	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
		⑦ 法律や制度の上	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
⑧ 社会通念、慣習、しきたりなど	ア	イ	ウ	エ	オ	カ		

質問番号	質問	選択肢				
3	<p>次のような意見に対してどのように思いますか。あなたのお気持ちに一番近いものを選んでください。</p> <p>※①～⑭それぞれ1つに○</p>		ア あてはまる	イ どちらかといえばあてはまる	ウ どちらかといえばあてはまらない	エ あてはまらない
<b>生活のバランス等について</b>						
4	<p>生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域活動」、「個人の時間」の優先度について、あなたの希望に一番近いものを選んでください。</p> <p>(補足) 地域活動…自治会・町内会活動や社会福祉活動など一定の地域を基礎として市民が主体的に行う活動</p> <p>※当てはまるもの1つに☑</p>	<input type="checkbox"/> ①「仕事」を優先したい <input type="checkbox"/> ②「家庭生活」を優先したい <input type="checkbox"/> ③「地域活動」を優先したい <input type="checkbox"/> ④「個人の時間」を優先したい <input type="checkbox"/> ⑤「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい <input type="checkbox"/> ⑥「仕事」と「地域活動」をともに優先したい <input type="checkbox"/> ⑦「仕事」と「個人の時間」をともに優先したい <input type="checkbox"/> ⑧「家庭生活」と「地域活動」をともに優先したい <input type="checkbox"/> ⑨「家庭生活」と「個人の時間」をともに優先したい <input type="checkbox"/> ⑩「地域活動」と「個人の時間」をともに優先したい <input type="checkbox"/> ⑪全て均等にしたい <input type="checkbox"/> ⑫わからない				
5	<p>あなたご自身への質問E「婚姻関係の有無」で、<u>②既婚(配偶者あり)</u>を選んだ方にお伺いします。</p> <p>配偶者との役割分担について、現状と理想をお答えください。</p> <p>※①～⑥の中から、あなたの(1)現状、(2)理想をそれぞれ選択</p>	<p>右から当てはまる番号を記入</p> <p>(1)現状 (2)理想</p> <p>A 仕事 (収入を伴うもの) <input type="text"/> <input type="text"/></p> <p>B 家事・育児・介護 <input type="text"/> <input type="text"/></p> <p>C 地域活動 <input type="text"/> <input type="text"/></p> <p>①夫婦が共に担う ②夫婦が共に担い、夫が中心になる ③夫婦が共に担い、妻が中心になる ④夫のみが担う ⑤妻のみが担う ⑥わからない</p>				

質問 番号	質問	選択肢	
<b>就業状況・職場環境について</b>			
6	<p>あなたご自身への質問D「職業」で、①～⑤(仕事をしている)を選んだ方にお伺いします。</p> <p>勤めている会社等で、①～⑧の各制度の状況はどのようになっていますか。</p> <p>また、各制度について、あなたの取得・利用状況をお答えください。</p> <p>※ア・イのそれぞれで、選択肢から1つに○</p>	<p>ア 制度について</p> <p>① 育児休業</p> <p>1. 制度あり</p> <p>2. 制度なし</p> <p>3. わからない</p>	<p>イ あなたの取得・利用状況</p> <p>1. 取得した</p> <p>2. 取得する機会があったが、取得しなかった</p> <p>3. 取得の機会はまだないが、あれば取得したい</p> <p>4. 取得の機会はまだなく、あっても取得しない</p> <p>5. 取得に該当しない</p>
		<p>② 介護休業</p> <p>1. 制度あり</p> <p>2. 制度なし</p> <p>3. わからない</p>	<p>1. 取得した</p> <p>2. 取得する機会があったが、取得しなかった</p> <p>3. 取得の機会はまだないが、あれば取得したい</p> <p>4. 取得の機会はまだなく、あっても取得しない</p> <p>5. 取得に該当しない</p>
		<p>③ 子ども看護休暇</p> <p>1. 制度あり</p> <p>2. 制度なし</p> <p>3. わからない</p>	<p>1. 取得した</p> <p>2. 取得する機会があったが、取得しなかった</p> <p>3. 取得の機会はまだないが、あれば取得したい</p> <p>4. 取得の機会はまだなく、あっても取得しない</p> <p>5. 取得に該当しない</p>
		<p>④ 介護休暇</p> <p>1. 制度あり</p> <p>2. 制度なし</p> <p>3. わからない</p>	<p>1. 取得した</p> <p>2. 取得する機会があったが、取得しなかった</p> <p>3. 取得の機会はまだないが、あれば取得したい</p> <p>4. 取得の機会はまだなく、あっても取得しない</p> <p>5. 取得に該当しない</p>
		<p>⑤ 有給の時間休</p> <p>1. 制度あり</p> <p>2. 制度なし</p> <p>3. わからない</p>	<p>1. 取得した</p> <p>2. 取得する機会があったが、取得しなかった</p> <p>3. 取得の機会はまだないが、あれば取得したい</p> <p>4. 取得の機会はまだなく、あっても取得しない</p> <p>5. 取得に該当しない</p>
		<p>⑥ 定時退勤日、ノー残業デーの設定など定時退勤の推進</p> <p>1. あり</p> <p>2. なし</p> <p>3. わからない</p>	<p>1. 定時退勤した(している)</p> <p>2. 機会があったが、定時退勤しなかった(できなかった)</p> <p>3. 機会はまだないが、あれば定時退勤したい</p> <p>4. 機会はまだなく、あっても定時退勤しない(できない)</p> <p>5. 該当しない</p>
		<p>⑦ フレックスタイム制 ※</p> <p>※あらかじめ定めた総労働時間の範囲内で、労働者が日々の始業・終業時間を自ら決めることができる制度</p> <p>1. 制度あり</p> <p>2. 制度なし</p> <p>3. わからない</p>	<p>1. 利用した</p> <p>2. 利用する機会があったが、利用しなかった</p> <p>3. 利用の機会はまだないが、あれば利用したい</p> <p>4. 利用の機会はまだなく、あっても利用しない</p> <p>5. 利用に該当しない</p>
		<p>⑧ 在宅勤務制度、テレワーク ※</p> <p>※ICT(情報通信技術)を利用し、時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方</p> <p>1. 制度あり</p> <p>2. 制度なし</p> <p>3. わからない</p>	<p>1. 利用した</p> <p>2. 利用する機会があったが、利用しなかった</p> <p>3. 利用の機会はまだないが、あれば利用したい</p> <p>4. 利用の機会はまだなく、あっても利用しない</p> <p>5. 利用に該当しない</p>

質問番号	質問	選択肢
7	<p>質問6の①育児休業「イ あなたの取得・利用状況」で、「2. 取得する機会があったが、取得しなかった」、「4. 取得の機会はまだまだなく、あっても取得しない」を選んだ方にお伺いします。</p> <p>育児休業制度を利用しなかった(利用しない)理由は何ですか。</p> <p>※当てはまるもの全てに☑</p>	<input type="checkbox"/> ①会社で育児休業制度が整備されていなかった(いない)から <input type="checkbox"/> ②職場が育児休業制度を取得しづらい雰囲気だった(雰囲気だ)から <input type="checkbox"/> ③社員や有期契約の社員の育児休業の取得について、会社や上司、職場の理解がなかった(理解がない)から <input type="checkbox"/> ④収入を減らしたくなかった(減らしたくない)から <input type="checkbox"/> ⑤休業取得によって、仕事がなくなったり、契約終了(解雇)の心配があった(心配がある)から <input type="checkbox"/> ⑥残業が多い等、業務が繁忙であった(繁忙だ)から <input type="checkbox"/> ⑦休業から復職する際に、仕事や職場の変化に対応できないと思った(思う)から <input type="checkbox"/> ⑧自分にしかできない仕事や、担当している仕事があった(ある)から <input type="checkbox"/> ⑨昇給や昇格など、今後のキャリア形成に悪影響がありそうだった(思う)から <input type="checkbox"/> ⑩配偶者や家族から育児休業の取得に対して後押しがなかった(ない)から、または反対があった(ある)から <input type="checkbox"/> ⑪家族や保育所、保育サービスなど自分以外に育児の担い手がいた(いる)から <input type="checkbox"/> ⑫育児休業を取得しなくても育児参加しやすい働き方や職場環境だった(職場環境だ)から <input type="checkbox"/> ⑬育児休業は男性ではなく女性が取得するものだと思っていた(思っている)から <input type="checkbox"/> ⑭その他 ( ) <input type="checkbox"/> ⑮わからない
8	<p>男性が、育児休業や介護休業・休暇を取得することについてどう思いますか。</p> <p>※当てはまるもの1つに☑</p>	<input type="checkbox"/> ①とった方がよい <input type="checkbox"/> ②どちらかといえばとった方がよい <input type="checkbox"/> ③どちらかといえばとらない方がよい <input type="checkbox"/> ④とらない方がよい <input type="checkbox"/> ⑤わからない <p>質問10へ</p> <p>質問9へ</p> <p>質問10へ</p>
9	<p>質問8で「③どちらかといえばとらない方がよい」、「④とらない方がよい」を選んだ方にお伺いします。</p> <p>そう考えるのはどのような理由ですか。</p> <p>※当てはまるもの全てに☑</p>	<input type="checkbox"/> ①経済的に苦しくなる <input type="checkbox"/> ②職場の理解が得られない <input type="checkbox"/> ③仕事の評価や配属に影響する <input type="checkbox"/> ④男性より女性がとるべきである <input type="checkbox"/> ⑤地域において男性が育児・介護に参加しにくい <input type="checkbox"/> ⑥男性の育児・介護のスキルが乏しい <input type="checkbox"/> ⑦周囲に取得した男性がいない <input type="checkbox"/> ⑧その他 ( )
10	<p>仕事と、仕事以外の生活との調和がとれるようになるには、どのようなことが必要だと思えますか。</p> <p>※当てはまるもの全てに☑</p>	<input type="checkbox"/> ①時間外労働の縮減や年次有給休暇の取得促進など、職場での働き方の見直し <input type="checkbox"/> ②職場での育児休暇(休業)や介護休暇(休業)、看護休暇が取得しやすい雰囲気づくり <input type="checkbox"/> ③パートから正社員への移行や女性の登用など、多様な能力が発揮できる職場環境の整備 <input type="checkbox"/> ④一人ひとりが自分のやりたいことをしっかりと思い描き、自らが仕事と生活の調和がとれたライフスタイルを着実に実践すること <input type="checkbox"/> ⑤家事・育児・介護等の家庭生活への男性の積極的な参画の促進 <input type="checkbox"/> ⑥子どもの頃から男女ともに家庭生活・仕事・地域活動に主体的に関わる意識の醸成 <input type="checkbox"/> ⑦多様な育児・保育・介護サービスの提供 <input type="checkbox"/> ⑧健康づくりや、スポーツ・文化等を身近な地域で楽しめる仕組みづくり <input type="checkbox"/> ⑨部下のワーク・ライフ・バランスやキャリアを適切に管理しながら、組織の業績・結果にも貢献できる経営者・上司(イクボス)が増えること <input type="checkbox"/> ⑩病気等になっても働き続けられる制度や職場環境の整備 <input type="checkbox"/> ⑪その他 ( ) <input type="checkbox"/> ⑫わからない

質問番号	質問	選択肢																																				
	<b>女性活躍推進について</b>																																					
11	<p>女性の就労に対する企業や行政による支援としては、どのようなことが必要だと思いますか。</p> <p>※当てはまるもの全てに☑</p>	<input type="checkbox"/> ①保育・介護のための施設やサービス <input type="checkbox"/> ②男女ともに取得しやすい育児・介護休業制度の啓発・促進 <input type="checkbox"/> ③パートタイム・派遣労働などの雇用の安定や労働条件の整備 <input type="checkbox"/> ④労働条件における男女平等の推進 <input type="checkbox"/> ⑤女性の職種・職域の拡大 <input type="checkbox"/> ⑥募集・採用の男女平等の確立 <input type="checkbox"/> ⑦就業のための技能習得への支援や就職情報の充実 <input type="checkbox"/> ⑧再就職講座やセミナーなどの充実 <input type="checkbox"/> ⑨女性就労についての啓発や広報 <input type="checkbox"/> ⑩労働問題や苦情処理窓口の充実 <input type="checkbox"/> ⑪女性の起業支援 <input type="checkbox"/> ⑫賃金の引き上げ <input type="checkbox"/> ⑬その他（ ）																																				
12	<p>女性の活躍推進の取組のため、どのような情報が特に必要だと感じますか。</p> <p>※当てはまるもの全てに☑</p>	<input type="checkbox"/> ①保育所や幼稚園に関する情報(場所、保育料など)、放課後児童クラブに関する情報(場所、利用料など) <input type="checkbox"/> ②介護・家事の支援サービスに関する情報(内容、利用方法など) <input type="checkbox"/> ③就職・再就職のための職業訓練に関する情報(内容、相談先など) <input type="checkbox"/> ④起業・NPO活動のための情報(支援内容、相談先など) <input type="checkbox"/> ⑤仕事と育児・介護との両立支援制度に関する情報(内容、利用方法など) <input type="checkbox"/> ⑥出産・育児などを経ながら就業を継続している女性のモデル事例に関する情報 <input type="checkbox"/> ⑦積極的に家事・育児に参画する男性のモデル事例に関する情報 <input type="checkbox"/> ⑧ワーク・ライフ・バランスの推進や、働き方の見直しの実践例に関する情報 <input type="checkbox"/> ⑨その他（ ） <input type="checkbox"/> ⑩わからない																																				
13	<p>次の分野において、女性の意見や考え方が反映されていると思いますか。</p> <p>※①～⑤の項目ごとにア～オの中から1つずつ選んで○</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>ア 十分反映されている</th> <th>イ ある程度反映されている</th> <th>ウ あまり反映されていない</th> <th>エ ほとんど反映されていない</th> <th>オ どちらともいえない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 町内会等の自治会</td> <td>ア</td> <td>イ</td> <td>ウ</td> <td>エ</td> <td>オ</td> </tr> <tr> <td>② 職場</td> <td>ア</td> <td>イ</td> <td>ウ</td> <td>エ</td> <td>オ</td> </tr> <tr> <td>③ PTA、保護者会</td> <td>ア</td> <td>イ</td> <td>ウ</td> <td>エ</td> <td>オ</td> </tr> <tr> <td>④ 政治</td> <td>ア</td> <td>イ</td> <td>ウ</td> <td>エ</td> <td>オ</td> </tr> <tr> <td>⑤ 県や市町村の施策</td> <td>ア</td> <td>イ</td> <td>ウ</td> <td>エ</td> <td>オ</td> </tr> </tbody> </table>		ア 十分反映されている	イ ある程度反映されている	ウ あまり反映されていない	エ ほとんど反映されていない	オ どちらともいえない	① 町内会等の自治会	ア	イ	ウ	エ	オ	② 職場	ア	イ	ウ	エ	オ	③ PTA、保護者会	ア	イ	ウ	エ	オ	④ 政治	ア	イ	ウ	エ	オ	⑤ 県や市町村の施策	ア	イ	ウ	エ	オ
	ア 十分反映されている	イ ある程度反映されている	ウ あまり反映されていない	エ ほとんど反映されていない	オ どちらともいえない																																	
① 町内会等の自治会	ア	イ	ウ	エ	オ																																	
② 職場	ア	イ	ウ	エ	オ																																	
③ PTA、保護者会	ア	イ	ウ	エ	オ																																	
④ 政治	ア	イ	ウ	エ	オ																																	
⑤ 県や市町村の施策	ア	イ	ウ	エ	オ																																	

ウ または エ を一つ以上選んだ場合は質問14へ  
なければ質問15へ



質問番号	質問	選択肢		
14	<p>質問13で「ウ あまり反映されていない」または「エ ほとんど反映されていない」と答えた項目があった方にお伺いします。</p> <p>反映されていない理由は何だと思えますか。</p> <p>※当てはまるもの全てに☑</p>	<input type="checkbox"/> ①女性議員が少ない <input type="checkbox"/> ②企業等の管理職に女性が少ない <input type="checkbox"/> ③行政機関の管理職に女性が少ない <input type="checkbox"/> ④県や市町村の審議会、委員会などに女性が少ない <input type="checkbox"/> ⑤自治会長や組合団体、地域組織リーダーに女性が少ない <input type="checkbox"/> ⑥女性自身の意欲や責任感が乏しい <input type="checkbox"/> ⑦男性の意識、理解が足りない <input type="checkbox"/> ⑧社会の仕組みが女性に不利である <input type="checkbox"/> ⑨女性の能力に対する偏見がある <input type="checkbox"/> ⑩その他 ( )		
<b>学校教育について</b>		<input type="checkbox"/> ①性別にとらわれず、本人の個性や能力を生かす教育を充実させる <input type="checkbox"/> ②名簿や座席など、学校生活において男女を分ける習慣を改める <input type="checkbox"/> ③日常の学校生活のなかで、男女平等意識を養うような教育を充実させる <input type="checkbox"/> ④男女平等意識を育てるような授業内容の工夫をする <input type="checkbox"/> ⑤男女平等教育のための教材や副読本を取り入れる <input type="checkbox"/> ⑥教職員に対し、男女平等の意識啓発、研修などを行う <input type="checkbox"/> ⑦男女ともに生活と仕事のバランスを考えられるような教育を充実させる <input type="checkbox"/> ⑧性別による役割分担意識を改善する教育を充実させる <input type="checkbox"/> ⑨男女の違いを認め、豊かな人間関係づくりに関する性の教育を充実させる <input type="checkbox"/> ⑩その他 ( )		
<b>DV(ドメスティック・バイオレンス)について</b>		A (したことも、 されたことも) まったくない	B された経験	C した経験
16	<p>あなたはこれまでに、次のようなことを「パートナーからされた」または「パートナーにした」経験がありますか。</p> <p>(補足) ここでのパートナーには、配偶者のほか、婚姻届を出していない事実婚、別居中の夫婦、元配偶者、恋人、元恋人、その他の親密な関係にある人を含みます。</p> <p>※①～⑥それぞれで当てはまるもの全てに○</p>	<input type="checkbox"/> ① 殴ったり、蹴ったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体的暴力 <input type="checkbox"/> ② 人格を否定するような暴言、脅迫、何を言っても無視するなどの精神的暴力 <input type="checkbox"/> ③ 生活費を渡さない、借金を強いるなどの経済的暴力 <input type="checkbox"/> ④ 見たくないのに、アダルトビデオ等を見せられたり、嫌がっているのに性的行為を強要したり、避妊に協力しないなどの性的暴力 <input type="checkbox"/> ⑤ 友人や親、兄弟姉妹に会わせない、外出させない、手紙やメールを勝手に見るなどの社会的暴力 <input type="checkbox"/> ⑥ 子どもの前で暴力をふるう、子どもにも悪口を吹き込む、子どもを取り上げると脅すなど、子どもを巻き込んだ暴力 <input type="checkbox"/> ⑦ その他 ( )	<input type="checkbox"/> イ 1、2回された <input type="checkbox"/> ウ 何回もされた <input type="checkbox"/> イ 1、2回された <input type="checkbox"/> ウ 何回もされた <input type="checkbox"/> イ 1、2回された <input type="checkbox"/> ウ 何回もされた <input type="checkbox"/> イ 1、2回された <input type="checkbox"/> ウ 何回もされた <input type="checkbox"/> イ 1、2回された <input type="checkbox"/> ウ 何回もされた <input type="checkbox"/> イ 1、2回された <input type="checkbox"/> ウ 何回もされた <input type="checkbox"/> イ 1、2回された <input type="checkbox"/> ウ 何回もされた	<input type="checkbox"/> エ 1、2回した <input type="checkbox"/> オ 何回もした <input type="checkbox"/> エ 1、2回した <input type="checkbox"/> オ 何回もした <input type="checkbox"/> エ 1、2回した <input type="checkbox"/> オ 何回もした <input type="checkbox"/> エ 1、2回した <input type="checkbox"/> オ 何回もした <input type="checkbox"/> エ 1、2回した <input type="checkbox"/> オ 何回もした <input type="checkbox"/> エ 1、2回した <input type="checkbox"/> オ 何回もした

イまたはウを一つ以上選んだ場合は質問17へ  
なければ質問19へ

質問番号	質問	選択肢
17	<p>質問16で「イ 1, 2回された」または「ウ 何回もされた」と答えた項目があった方にお伺いします。</p> <p>そのことについて相談した相手はいますか。</p> <p>※当てはまるもの全てに☑</p>	<p><input type="checkbox"/> ①家族、親戚</p> <p><input type="checkbox"/> ②友人、知人</p> <p><input type="checkbox"/> ③行政等の相談機関</p> <p><input type="checkbox"/> ④警察署</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤だれ(どこ)にも相談しなかった → 質問18へ</p> <p><input type="checkbox"/> ⑥その他 ( )</p> <p style="text-align: right;">} 質問19へ</p>
18	<p>質問17で、「⑥だれ(どこ)にも相談しなかった」を選んだ方にお伺いします。</p> <p>だれ(どこ)にも相談しなかったのは、なぜですか。</p> <p>※当てはまるもの全てに☑</p>	<p><input type="checkbox"/> ①だれ(どこ)に相談してよいのかわからなかったから</p> <p><input type="checkbox"/> ②恥ずかしくて誰にも言えなかったから</p> <p><input type="checkbox"/> ③相談しても無駄だと思ったから</p> <p><input type="checkbox"/> ④自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤世間体が悪いから</p> <p><input type="checkbox"/> ⑥他人を巻き込みたくなかったから</p> <p><input type="checkbox"/> ⑦他人に知られると、これまでどおりの付き合い(仕事や学校などの人間関係)ができなくなると思ったから</p> <p><input type="checkbox"/> ⑧そのことについて思い出したくなかったから</p> <p><input type="checkbox"/> ⑨自分にも悪いところがあると思ったから</p> <p><input type="checkbox"/> ⑩相談するほどのことではないと思ったから</p> <p><input type="checkbox"/> ⑪行政機関等には相談しづらいと感じたから</p> <p><input type="checkbox"/> ⑫その他 ( )</p>
19	<p>デートDV(交際相手からの暴力)、DV(配偶者等からの暴力)、セクシュアルハラスメント、ストーカー、性暴力などの行為が社会問題になっています。</p> <p>このような行為を予防し、なくすためには、どうすればよいと思いますか。</p> <p>※当てはまるもの全てに☑</p>	<p><input type="checkbox"/> ①学校における男女平等や性についての教育を充実させる</p> <p><input type="checkbox"/> ②学校において思いやりの気持ちや、生命の大切さの教育を充実させる</p> <p><input type="checkbox"/> ③DV、セクシュアルハラスメント、ストーカーなどに関する啓発をする</p> <p><input type="checkbox"/> ④被害者のための窓口や相談所を充実させる</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤保護施設(民間シェルターを含む)を充実させる</p> <p><input type="checkbox"/> ⑥加害者に対するカウンセリングや更生プログラムなどを実施する</p> <p><input type="checkbox"/> ⑦地域での見守り活動や防犯体制を強化する</p> <p><input type="checkbox"/> ⑧過激な内容の雑誌・ビデオ・ゲームソフト等の販売や貸し出しを制限する</p> <p><input type="checkbox"/> ⑨その他 ( )</p>
<p>&lt;参考&gt;</p> <p>[デートDV] 婚姻関係にない10代～20代の交際関係にある者またはあった者の間で行われる身体的・精神的などの苦痛を与える暴力的行為。</p> <p>[セクシュアルハラスメント] 相手方の意に反した性的な言動を行い、それに対する対応によって、仕事をする上で一定の不利益を与えたり、またはそれを繰り返すことによって就業環境を著しく悪化させること。</p>		

質問番号	質問	選択肢				
20	<b>LGBT等性的少数者について</b>		ア	イ	ウ	エ
	次の①～⑤の言葉と意味について、知っていますか。 ※①～⑤それぞれ1つに○	① セクシュアル・マイノリティ (性的少数者、性的マイノリティ) ② LGBT (エルジービーティー) ③ カミングアウト ④ アウティング ⑤ SOGI (ソジ)	よく知っている	ある程度知っている	言葉は聞いたことがあるが内容はあまり知らない	聞いたことがない
	<参考> [セクシュアル・マイノリティ] 同性愛者、両性愛者、トランスジェンダーやその他の多様な性自認や性的指向を持つ人 [LGBT] L…レズビアン:女性の同性愛者、G…ゲイ:男性の同性愛者、B…バイセクシュアル:両性愛者、T…トランスジェンダー:身体的性と性自認の不一致に対する違和など ※これらの頭文字を合わせた言葉 [カミングアウト] 今まで公にしていなかった自らの性的指向等を表明すること [アウティング] 本人の了解を得ずに、公にしていない性的指向等の秘密を暴露すること [SOGI] 性的指向(Sexual Orientation)と性自認(Gender Identity)の頭文字を合わせた言葉					
21	次の①～⑧の身近な方から、「セクシュアル・マイノリティである」などと打ち明けられたとき、それを受入れられますか。 あなたの考えに一番近いものをお答えください。 ※①～⑧それぞれ1つに○		ア 受け入れられる	イ 受け入れられない	ウ すぐには判断できない	
		① 両親 ② 兄弟姉妹 ③ 配偶者 ④ 子ども ⑤ 友人 ⑥ 職場の同僚・同じ学校の人 ⑦ 親戚(両親・兄弟姉妹・配偶者・子ども以外) ⑧ 隣近所の人	ア	イ	ウ	
22	セクシュアル・マイノリティの方に対して、どのような支援や対策が必要だと思いますか。 ※当てはまるもの全てに☑	<input type="checkbox"/> ①相談できる窓口の設置 <input type="checkbox"/> ②気持ちや情報を共有できる居場所づくり <input type="checkbox"/> ③いじめや差別を禁止する法律や条例の制定 <input type="checkbox"/> ④行政職員や教職員に対する研修の実施 <input type="checkbox"/> ⑤企業等に対する啓発活動の実施 <input type="checkbox"/> ⑥地域住民に対する啓発活動の実施 <input type="checkbox"/> ⑦幼少期からの教育の充実 <input type="checkbox"/> ⑧更衣室やトイレ、制服など男女で区別されているものに対する配慮 <input type="checkbox"/> ⑨同性同士のパートナーであることを証明する行政の証明書等の発行 <input type="checkbox"/> ⑩同性同士のパートナーやその家族に対する法律上の権利や保護の規程等 <input type="checkbox"/> ⑪必要なものはない <input type="checkbox"/> ⑫その他 ( ) <input type="checkbox"/> ⑬わからない				

質問 番号	質問	選択肢
23	<p><b>行政による取組について</b></p> <p>男女が平等な立場で協力し合っていくために、鶴岡市としてどのような取組を進めるとよいと思いますか。</p> <p>※当てはまるもの全てに☑</p>	<p><input type="checkbox"/> ①女性や男性の生き方や悩みに関する情報提供の充実</p> <p><input type="checkbox"/> ②あらゆる分野への女性の積極的な参加の促進</p> <p><input type="checkbox"/> ③行政の政策決定などへの女性の参画、登用の促進</p> <p><input type="checkbox"/> ④男女双方に対しての意識啓発、学習機会の充実</p> <p><input type="checkbox"/> ⑤子どもときから、学校で平等意識を育てる教育の充実</p> <p><input type="checkbox"/> ⑥就労機会や労働条件の男女格差を解消するための働きかけ</p> <p><input type="checkbox"/> ⑦子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職の支援</p> <p><input type="checkbox"/> ⑧鶴岡市が男女共同参画のモデル事業所として行動</p> <p><input type="checkbox"/> ⑨育児・保育・介護サービスの充実</p> <p><input type="checkbox"/> ⑩子どもを産み育てやすい環境づくり(助成制度、産科医の充実等)の促進</p> <p><input type="checkbox"/> ⑪配偶者等からの暴力被害者への支援、セクハラ防止対策の働きかけ</p> <p><input type="checkbox"/> ⑫その他 ( )</p>

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

このアンケート用紙は、同封の返信用封筒(切手不要)に入れ、**11月30日(土)**までに投函してください。

【資料2】単純集計結果 「鶴岡市男女共同参画に関する市民意識調査」

あなたご自身のことについて伺います。

(単位: %)

A 性別 N=646

①男性	②女性	全体
47.2	52.8	100.0

B 年齢(2019年11月6日時点) N=646

①18歳19歳	②20~29歳	③30~39歳	④40~49歳	⑤50~59歳	⑥60~64歳	⑦65~69歳	⑧70歳以上	全体
2.1	8.7	11.4	14.4	14.7	8.4	10.2	30.0	100.0

C 現在居住している地区 N=646

①第一学区	②第二学区	③第三学区	④第四学区	⑤第五学区	⑥第六学区	⑦斎	⑧黄金	⑨湯田川	⑩大泉
8.1	6.7	10.7	7.6	5.7	10.9	1.7	2.0	0.3	2.1
⑪京田	⑫栄	⑬田川	⑭上郷	⑮三瀬	⑯小堅	⑰由良	⑱加茂	⑲湯野浜	⑳大山
1.5	1.0	0.7	1.8	1.6	0.5	1.2	0.6	2.0	3.7
㉑西郷	㉒藤島地区	㉓羽黒地区	㉔櫛引地区	㉕朝日地区	㉖温海地区	DK/NA	全体		
3.0	6.7	5.0	5.1	2.6	6.9	0.4	100.0		

D 職業 N=646

①自営業	②会社経営者、役員	③正規雇用者	④非正規雇用者(パート、アルバイト、派遣等)	⑤公務員	⑥専業主婦・主夫	⑦無職	⑧高校生・学生	⑨その他	DK/NA	全体
9.4	2.5	29.2	14.1	6.0	8.7	23.0	3.0	3.2	0.8	100.0

D-1 (上記で①~④を選んだ方へ)職業の分野はなんですか

N=360

①農林水産業	②建築・土木業	③製造業	④商業・サービス業	⑤その他	DK/NA	全体
8.6	9.9	17.7	33.6	18.9	11.3	100.0

E 婚姻関係の有無 N=646

①未婚	②既婚(配偶者あり)	③既婚(離別、死別)	DK/NA	全体
20.3	64.2	14.5	0.9	100.0

E-1 (上記で②を選んだ方へ)共働き(内職を含む)ですか?

N=415

①共働きである	②共働きでない	DK/NA	全体
54.8	34.2	11.0	100.0

F お子さんの有無 N=646

①いる	②いない	DK/NA	全体
71.0	28.2	0.8	100.0

E-1 (上記で①を選んだ方へ)お子さんの就学段階とその人数 N=459

	①小学校入学前	②小学生	③中学生	④高校生	⑤大学生、大学院生、短大生、専門学校生	⑥社会人	⑦その他	人数別合計
1人	7.8	10.0	6.3	8.1	5.2	13.8	1.9	53.1
2人	3.8	4.1	1.0	2.2	0.3	33.0	1.7	46.1
3人	0.1	0.3	0.0	0.1	0.0	17.7	0.1	18.3
4人以上	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.7

G 介護を必要とする方との同居の有無

N=646

①同居している	②同居していない	DK/NA	全体
16.4	80.9	2.7	100.0

H 世帯の構成

N=646

①ひとり暮らし	②1世代(夫婦・パートナーのみ、兄弟姉妹のみ)	③2世代(親と子)	④3世代(親と子と孫)	⑤その他
10.1	21.8	38.9	24.7	3.6
DK/NA	全体			
0.9	100.0			

I 出身地

N=646

①鶴岡市内	②庄内地域(鶴岡市除く)	③山形県内(庄内地域除く)	④山形県以外	DK/NA	全体
76.0	13.2	4.2	6.6	0.1	100.0

J 市外での居住経験

N=646

①鶴岡市以外に住んだことはない	②鶴岡市以外の山形県内に住んだ経験がある	③山形県外に住んだことがある	④鶴岡市以外の山鹿県内、山形県外の両方に住んだ経験がある	DK/NA	全体
40.2	11.6	36.3	10.6	1.2	100.0

男女共同参画社会について

1 次にあげる言葉や法律を知っていますか。(それぞれに1つ〇)

N=646

	言葉も意味も知っている	言葉は知っているが意味は知らない	言葉も意味も知らない	DK/NA	全体
①男女共同参画社会	52.0	25.4	20.3	2.3	100.0
②雇用機会均等法	65.9	23.6	8.5	2.0	100.0
③育児・介護休業法	71.0	19.9	7.1	2.0	100.0
④DV(ドメスティック・バイオレンス)	81.7	8.9	6.7	2.6	100.0
⑤DV防止法	59.0	26.7	11.8	2.5	100.0
⑥ワーク・ライフ・バランス	36.8	27.9	32.6	2.8	100.0
⑦イクボス	25.4	19.0	52.3	3.3	100.0

2 次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。  
あなたのお気持ちに一番近いものを選んでください。(それぞれ1つに○)

N=646

	女性が優遇されている	どちらかといえば女性が優遇されている	平等	どちらかといえば男性が優遇されている	男性が優遇されている	わからない	DK/NA	全体
①家庭生活	3.6	8.2	30.6	37.6	11.9	6.2	2.0	100.0
②職場(家業、農業等を含む)	1.8	7.7	26.1	39.8	13.9	7.0	3.6	100.0
③就職活動の場	0.8	2.3	30.2	36.1	7.3	19.6	3.8	100.0
④学校教育の場	1.1	2.6	64.3	7.8	2.4	18.1	3.7	100.0
⑤政治の場	0.3	1.2	14.4	36.1	34.1	11.4	2.6	100.0
⑥社会活動の((PTAや地域活動など)	1.7	8.4	35.1	24.2	7.9	20.1	2.5	100.0
⑦法律や制度の上	2.0	4.5	37.0	27.4	9.5	16.7	2.8	100.0
⑧社会通念、慣習、しきたりなど	1.5	2.5	12.7	41.6	27.8	11.9	1.9	100.0

3 次のような意見に対してどのように思いますか。  
あなたのお気持ちに一番近いものを選んでください。(それぞれ1つに○)

N=646

	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない	DK/NA	全体
①男性は外で働き、女性は家庭を守るべき	3.8	25.3	28.0	41.5	1.3	100.0
②子どもが3歳くらいまでは、母親は仕事を持たず育児に専念すべきだ	12.7	31.0	25.0	30.1	1.2	100.0
③家族を(経済的に)養うのは男性の役割だ	16.2	36.4	19.2	26.6	1.5	100.0
④公的に(国や地域や社会など)重要な決定をする仕事は、女性より男性に適している	8.7	24.9	30.5	34.0	1.9	100.0
⑤家事や育児には、男性より女性が適している	17.8	48.6	17.6	13.5	2.5	100.0
⑥男性も家事・育児を行うことは、当然である	49.1	37.8	9.0	2.8	1.3	100.0
⑦できれば、女性も一生働き続けた方がよい	25.4	45.6	18.6	8.1	2.3	100.0
⑧妻が勤めていれば、それに見合って、夫(パートナー)も家事を分担すべきだ	54.8	36.5	6.4	1.1	1.2	100.0
⑨女性は結婚したら、家事・育児に専念すべきである	2.7	10.8	37.0	48.0	1.6	100.0
⑩経済的に自立していれば、あえて結婚する必要はない	11.5	18.0	29.5	38.8	2.2	100.0
⑪この地域は、子育てしやすい社会環境が整っている	7.2	41.9	32.2	15.5	3.2	100.0
⑫男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしくつけたほうがよい	15.5	34.1	28.5	20.6	1.2	100.0
⑬この地域は、古くからの考え方やしきたりに縛られることが多い	23.5	43.4	20.0	11.1	2.0	100.0
⑭地域活動には積極的に参加していきたい	18.2	43.5	25.5	11.4	1.3	100.0

4 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域活動」、「個人の時間」の優先度について、あなたの希望に一番近いものを選んでください。(当てはまるもの1つに○)

N=646

①「仕事」を優先したい	②「家庭生活」を優先したい	③「地域活動」を優先したい	④「個人の時間」を優先したい	⑤「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	⑥「仕事」と「地域活動」をともに優先したい
3.2	9.8	0.3	8.1	23.1	1.1
⑦「仕事」と「個人の時間」をともに優先したい	⑧「家庭生活」と「地域活動」をともに優先したい	⑨「家庭生活」と「個人の時間」をともに優先したい	⑩「地域活動」と「個人の時間」をともに優先したい	⑪全て均等にしたい	⑫わからない
9.3	3.4	19.1	1.5	11.7	5.6
DK/NA	全体				
5.3	100.0				

5 あなたご自身への質問E「婚姻関係の有無」で、②既婚(配偶者あり)を選んだ方にお伺いします。配偶者との役割分担について、理想と現実をお答えください。

N=415

	①夫婦が共に担う	②夫婦が共に担い、夫が中心になる	③夫婦が共に担い、妻が中心になる	④夫のみが担う	⑤妻のみが担う	⑥わからない	DK/NA	全体
A 仕事/(1)現状	33.8	39.3	6.1	11.6	1.0	1.2	7.0	100.0
A 仕事/(2)理想	47.0	35.6	1.6	4.7	0.4	2.4	8.3	100.0
B 家事・育児・介護/(1)現状	21.1	4.8	47.4	0.2	17.8	1.4	7.2	100.0
B 家事・育児・介護/(2)理想	53.2	2.7	32.9	0.0	1.1	1.9	8.2	100.0
C 地域活動/(1)現状	29.2	20.7	7.9	11.0	10.7	12.1	7.7	100.0
C 地域活動/(2)理想	52.6	16.9	4.6	3.1	0.9	13.8	8.1	100.0

## 就業状況・職場環境について

6 あなたご自身への質問D「職業」で①～⑤(仕事をしている)を選んだ方にお伺いします。勤めている会社等で、①～⑧の各制度の状況はどのようになっていますか。また、各制度について、あなたの取得・利用状況をお答えください。(選択肢から1つに○)

ア 制度について

N=397

	1. 制度あり	2. 制度なし	3. わからない	DK/NA	全体
①育児休業	58.8	19.6	14.8	6.8	100.0
②介護休業	40.1	23.5	28.6	7.8	100.0
③子ども看護休暇	30.0	21.9	39.2	8.9	100.0
④介護休暇	39.5	20.5	31.4	8.5	100.0
⑤有給の時間休	65.2	19.1	8.4	7.3	100.0
⑥定時退勤日、ノー残業デーの設定など定時退勤の推進	38.7	37.3	16.2	7.8	100.0
⑦フレックスタイム	18.8	53.0	20.0	8.3	100.0
⑧在宅勤務制度、テレワーク	2.7	66.7	21.7	9.0	100.0



イ あなたの取得・利用状況

N=397

	1. 取得した	2. 取得する機会があったが、取得しなかった	3. 取得の機会はまだないが、あれば取得したい	4. 取得の機会はまだなく、あっても取得しない	5. 取得に該当しない	DK/NA	全体
①育児休業	10.1	11.3	10.1	4.7	51.6	12.3	100.0
②介護休業	0.2	3.5	23.7	5.7	49.9	16.9	100.0
③子ども看護休暇	3.5	4.9	14.4	2.2	53.7	21.3	100.0
④介護休暇	0.7	3.3	24.7	4.4	48.3	18.6	100.0
⑤有給の時間休	50.5	3.3	7.9	0.8	23.5	14.0	100.0
⑥定時退勤日、ノー残業デーの設定など定時退勤の推進	38.5	5.4	4.2	2.9	34.1	15.0	100.0
⑦フレックスタイム	7.4	2.9	10.9	2.4	54.0	22.3	100.0
⑧在宅勤務制度、テレワーク	0.5	0.3	7.9	0.9	66.0	24.4	100.0

7 質問6の①育児休業「イ あなたの取得・利用状況」で「2. 取得する機会があったが、取得しなかった」、  
「4. 取得の機会はまだなく、あっても取得しない」を選んだ方にお伺いします。

育児休業制度を利用しなかった(利用しない)理由は何ですか。(当てはまるものすべてに☑)

N=63

①育児休業生制度が整備されていないから	②職場が取得しづらい雰囲気だから	③取得について会社や上司、職場の理解がないから	④収入を減らしたくないから	⑤取得により仕事が無くなったり契約終了(解雇)の心配があった	⑥業務が繁忙であったから
15.4	28.5	4.8	23.5	7.4	24.6
⑦復職する際に仕事や職場の変化に対応できないと思ったから	⑧自分にしかできない仕事や担当している仕事があったから	⑨昇給や昇格など今後のキャリア形成に悪影響があると思ったから	⑩配偶者や家族から後押しがなかった、または反対があったから	⑪家族や保育所など、自分以外に育児の担い手がいたから	⑫取得しなくても育児参加しやすい働き方や職場環境だったから
10.0	29.2	15.6	10.5	31.4	2.9
⑬男性でなく女性が取得するものだと思っていたから	⑭その他	⑮わからない			
11.5	6.5	0.0			

8 男性が、育児休業や介護休業・休暇を取得することについてどう思いますか。(当てはまるもの1つに☑)

N=646

①とった方がよい	②どちらかといえばとった方がよい	③どちらかといえばとらない方がよい	④とらない方がよい	⑤わからない
30.9	34.8	5.2	1.8	10.2
DK/NA	全体			
17.1	100.0			

9 質問8で「③どちらかといえばとらない方がよい」、「④とらない方がよい」を選んだ方にお伺いします。

そう考えるのはどのような理由ですか。(当てはまるものすべてに☑)

N=45

①経済的に苦しくなる	②職場の理解が得られない	③仕事の評価や配属に影響する	④男性より女性がとるべきである	⑤地域において男性が育児・介護に参加しにくい
42.3	35.2	19.5	46.7	7.4
⑥男性の育児・介護のスキルが乏しい	⑦周囲に取得した男性がいない	⑧その他		
26.0	31.1	2.0		

10 仕事と、仕事以外の生活との調和がとれるようになるには、どのようなことが必要だと思いますか。

(当てはまるものすべてに☑)

(複数回答)

①職場の働き方の見直し	②職場での育児休暇(休業)等が取得しやすい雰囲気づくり	③多様な能力が発揮できる職場環境の整備	④一人ひとりの仕事と生活の調和のとれたライフスタイルの実践	⑤家庭生活への男性の積極的な参加の促進	⑥男女ともに家庭生活・仕事・地域に主体的に関わる意識の醸成
50.3	54.4	29.6	28.3	39.5	30.8
⑦多様な育児・保育・介護サービスの提供	⑧健康づくり・スポーツ・文化等を身近な地域で楽しめる仕組みづくり	⑨部下のWLB・キャリアと組織の業績等に貢献できる経営者・上司増加	⑩病気等になっても働き続けられる制度・職場環境の整備	⑪その他	⑫わからない
33.6	21.6	31.0	44.4	4.0	3.9

### 女性活躍推進について

11 女性の就労に対する企業や行政による支援としては、どのようなことが必要だと思いますか。

(当てはまるものすべてに☑)

(複数回答)

①保育・介護のための施設やサービス	②男女ともに取得しやすい育児・介護休業制度の啓発・促進	③パートタイム・派遣労働などの雇用の安定や労働条件の整備	④労働条件における男女平等の推進	⑤女性の職種・職域の拡大	⑥募集・採用の男女平等の確立
69.1	64.4	55.4	43.3	39.7	34.2
⑦就業のための技能習得への支援や就職情報の充実	⑧再就職講座やセミナーなどの充実	⑨女性就労についての啓発や広報	⑩労働問題や苦情処理窓口の充実	⑪女性の起業支援	⑫賃金の引き上げ
32.2	25.3	21.8	26.6	21.5	53.3
⑬その他					
2.0					

12 女性の活躍推進の取組のため、どのような情報が必要だと思いますか。

(当てはまるものすべてに☑)

(複数回答)

①保育所や幼稚園、放課後児童クラブに関する情報	②介護・家事の支援サービスに関する情報(内容、利用方法など)	③就職・再就職のための職業訓練に関する情報(内容、相談先など)	④起業・NPO活動のための情報(支援内容、相談先など)	⑤仕事と育児・介護との両立支援制度に関する情報	⑥出産・育児などを経ながら就業を継続している女性のモデル事例情報
61.4	59.6	39.1	16.9	57.8	32.7
⑦積極的に家事・育児に参画する男性のモデル事例に関する情報	⑧WLBの推進や、働き方の見直しの実践例に関する情報	⑨その他	⑩わからない		
26.0	34.0	1.2	6.4		

13 次の分野において、女性の意見や考え方が反映されていると思いますか。(それぞれ1つに○)

N=646

	ア 十分反映されている	イ ある程度反映されている	ウ あまり反映されていない	エ ほとんど反映されていない	オ どちらともいえない	DK/NA	全体
①町内会等の自治会	7.3	39.8	18.6	9.5	18.2	6.6	100.0
②職場	11.0	41.8	17.5	3.7	11.7	14.4	100.0
③PTA、保護者会	15.5	44.7	6.2	1.4	17.0	15.1	100.0
④政治	2.9	27.1	29.4	14.8	17.3	8.6	100.0
⑤県や市町村の施策	2.5	31.8	25.5	9.5	20.9	9.8	100.0

14 質問13で「ウ あまり反映されていない」または「エ ほとんど反映されていない」と答えた項目があった方にお伺いします。反映されていない理由は何だと思えますか。(当てはまるものすべてに☑)

N=376

①女性議員が少ない	②企業等の管理職に女性が少ない	③行政機関の管理職に女性が少ない	④県や市町村の審議会、委員会などに女性が少ない	⑤自治会長や組合団体、地域組織リーダーに女性が少ない
53.5	46.4	38.4	33.3	52.6
⑥女性自身の意欲や責任感が乏しい	⑦男性の意識、理解が足りない	⑧社会の仕組みが女性に不利である	⑨女性の能力に対する偏見がある	⑩その他
37.5	37.8	38.8	33.3	3.1

## 学校教育について

15 男女平等の視点で学校教育を進めるために、どのような取組が必要だと思えますか。

(当てはまるものすべてに☑)

(複数回答)

①性別にとらわれず、本人の個性や能力を生かす教育の充実	②名簿や座席など、学校生活において男女を分ける習慣を改める	③日常の学校生活のなかで男女平等意識を養うような教育の充実	④男女平等意識を育てるような授業内容の工夫をする	⑤男女平等教育のための教材や副読本を取り入れる
73.0	15.5	42.4	30.2	15.0
⑥教職員に対し、男女平等の意識啓発、研修などを行う	⑦男女ともに生活と仕事のバランスを考えられるような教育の充実	⑧性別による役割分担意識を改善する教育の充実	⑨男女の違いを認め、豊かな人間関係づくりに関する性の教育の充実	⑩その他
33.3	42.2	23.9	42.2	3.0

## DV(ドメスティック・バイオレンス)について

16 あなたはこれまでに、次のようなことを「パートナーからされた」または「パートナーにした」経験がありますか。(それぞれで当てはまるもの全てに○)

A したことも、されたこともまったくない

N=646

	したことも、されたこともまったくない	DK/NA	合計
①殴ったり、蹴ったり、物を投げつけたり、突飛ばしたりするなどの身体的暴力	76.6	23.4	100.0
②人格を否定するような暴言、脅迫、何を言っても無視するなどの精神的暴力	68.0	32.0	100.0
③生活費を渡さない、借金を強いるなどの経済的暴力	84.4	15.6	100.0
④見たくないのに、アダルトビデオ等を見せられたり、嫌がっているのに性的行為を強要したり、避妊に協力しないなどの性的暴力	85.0	15.0	100.0
⑤友人や親、兄弟姉妹に会わせない、外出させない、手紙やメールを勝手に見るなどの社会的暴力	86.9	13.1	100.0
⑥子どもの前で暴力をふるう、子どもに悪口を吹き込む、子どもを取り上げると脅すなど、子どもを巻き込んだ暴力	84.3	15.0	100.0
⑦その他	29.9	15.7	100.0

B された経験

	1、2回された	何回もされた	DK/NA	合計
①殴ったり、蹴ったり、物を投げつけたり、突飛ばしたりするなどの身体的暴力	8.0	2.5	89.5	100.0
②人格を否定するような暴言、脅迫、何を言っても無視するなどの精神的暴力	10.5	7.0	82.5	100.0
③生活費を渡さない、借金を強いるなどの経済的暴力	2.8	2.3	94.9	100.0
④見たくないのに、アダルトビデオ等を見せられたり、嫌がっているのに性的行為を強要したり、避妊に協力しないなどの性的暴力	3.3	1.4	95.3	100.0
⑤友人や親、兄弟姉妹に会わせない、外出させない、手紙やメールを勝手に見るなどの社会的暴力	2.3	1.2	96.5	100.0
⑥子どもの前で暴力をふるう、子どもに悪口を吹き込む、子どもを取り上げると脅すなど、子どもを巻き込んだ暴力	2.5	1.8	95.7	100.0
⑦その他	0.1	0.1	99.7	100.0

C した経験

	1、2回した	何回もした	DK/NA	合計
	6.1	0.9	93.0	100.0
	8.0	3.0	89.0	100.0
	0.3	0.1	99.6	100.0
	0.7	0.3	99.0	100.0
	0.3	0.0	99.7	100.0
	2.1	0.4	97.5	100.0
	0.0	0.0	100.0	100.0

17 質問16で「イ 1、2回された」または「ウ 何回もされた」と答えた項目があった方にお伺いします。そのことについて相談した相手はいますか。(当てはまるもの全てに☑)

N=180

①家族、親戚	②友人、知人	③行政等の相談機関	④警察署	⑤だれ(どこ)にも相談しなかった	⑥その他
34.7	19.4	5.3	1.9	34.6	2.0

18 質問17で「⑤だれ(どこ)にも相談しなかった」を選んだ方にお伺いします。

だれ(どこ)にも相談しなかったのは、なぜですか。(当てはまるもの全てに☑)

N=62

①だれ(どこ)に相談してよいかわからなかったから	②恥ずかしくて誰にも言えなかったから	③相談しても無駄だと思ったから	④自分さえがまんすればなんとかこのままやっていけると思ったから	⑤世間体が悪いから	⑥他人を巻き込みたくなかったから
6.1	18.0	31.9	36.0	5.7	17.1
⑦他人に知られると、これまでどおりの付き合いができないと思ったから	⑧そのことについて思い出さなかったから	⑨自分にも悪いところがあると思ったから	⑩相談するほどのことではないと思ったから	⑪行政機関等には相談しづらいと感じたから	⑫その他
5.5	7.7	37.7	54.3	3.1	4.6

19 デートDV(交際相手からの暴力)、DV(配偶者等からの暴力)、セクシュアルハラスメント、ストーカー、性暴力などの行為が社会問題になっています。このような行為を予防し、なくすためには、どうすればよいと思いますか。(当てはまるものすべてに☑)

(複数回答)

①学校における男女平等や性についての教育を充実させる	②学校で思いやりの気持ちや生命の大切さの教育を充実させる	③DV、セクシュアルハラスメント、ストーカーなどに関する啓発をする	④被害者のための窓口や相談所を充実させる	⑤保護施設(民間シェルターを含む)を充実させる	⑥加害者に対するカウンセリングや更生プログラムなどを実施する
34.5	53.0	37.9	49.8	35.7	36.4
⑦地域での見守り活動や防犯体制を強化する	⑧過激な内容の雑誌・ビデオ・ゲームソフト等の販売、貸し出しの制限	⑨その他			
30.2	24.2	4.9			

## LGBT等性的少数者について

20 次の①～⑤の言葉と意味について知っていますか。(それぞれに1つ○)

N=646

	ア よく知っている	イ ある程度知っている	ウ言葉は聞いたことがあるが内容はあまり知らない	エ 聞いたことがない	DK/NA	全体
①セクシュアル・マイノリティ(性的少数者、性的マイノリティ)	16.6	39.2	21.2	14.4	8.7	100.0
②LGBT (エルジーピーティー)	15.9	36.1	15.9	21.9	10.3	100.0
③カミングアウト	24.5	34.8	16.7	14.2	9.9	100.0
⑤アウティング	4.8	8.5	14.5	61.7	10.5	100.0
⑥SOGI(ソジ)	2.2	4.7	8.7	73.8	10.6	100.0

21 次の①～⑧の身近な方から、「セクシュアル・マイノリティである」などと打ち明けられたとき、それを受け入れられますか。あなたの考えに一番近いものをお答えください。(それぞれに1つ○)

N=646

	ア 受け入れられる	イ 受け入れられない	ウすぐには判断できない	DK/NA	全体
①両親	14.4	20.3	50.2	15.1	100.0
②兄弟姉妹	22.6	15.6	47.6	14.3	100.0
③配偶者	13.6	25.6	46.5	14.3	100.0
④子ども	19.6	14.6	52.2	13.6	100.0
⑤友人	38.5	9.0	38.6	13.9	100.0
⑥職場の同僚・同じ学校の人	41.0	6.7	38.3	14.0	100.0
⑦親戚(両親・兄弟姉妹・配偶者・子ども以外)	36.0	8.3	41.9	13.8	100.0
⑧隣近所の人	41.2	7.3	37.8	13.8	100.0

22 セクシュアル・マイノリティの方に対して、どのような支援や対策が必要だと思いますか。

(当てはまるものすべてに☑)

(複数回答)

①相談できる窓口の設置	②気持ちや情報を共有できる居場所づくり	③いじめや差別を禁止する法律や条例の制定	④行政職員や教職員に対する研修の実施	⑤企業等に対する啓発活動の実施	⑥地域住民に対する啓発活動の実施
58.7	53.0	38.1	30.6	24.7	22.5
⑦幼少期からの教育の充実	⑧更衣室やトイレ、制服など男女で区別されているものに対する配慮	⑨同性同士のパートナーであることを証明する行政の証明書等の発行	⑩同性同士のパートナーやその家族に対する法律上の権利や保護の規程等	⑪必要なものはない	⑫その他
37.0	36.8	24.9	28.7	1.1	1.8
⑬わからない					
12.0					

23 男女が平等な立場で協力し合っていくために、鶴岡市としてどのような取組を進めるとよいと思いますか。

(当てはまるものすべてに☑)

(複数回答)

①女性や男性の生き方や悩みに関する情報提供の充実	②あらゆる分野への女性の積極的な参加の促進	③行政の政策決定などへの女性の参画、登用の促進	④男女双方に対する意識啓発、学習機会の充実	⑤子どものときから、学校で平等意識を育てる教育の充実	⑥就労機会や労働条件の男女格差を解消するための働きかけ
36.3	36.9	38.9	37.4	52.1	39.3
⑦子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職の支援	⑧鶴岡市が男女共同参画のモデル事業所として行動	⑨育児・保育・介護サービスの充実	⑩子どもを産み育てやすい環境づくり(助成制度、産科医の充実等)の促進	⑪配偶者等からの暴力被害者への支援、セクハラ防止対策の働きかけ	⑫その他
59.4	29.4	64.1	62.5	29.1	3.5

【参考資料3】 集計表(性別・年齢別) 「鶴岡市男女共同参画に関する市民意識調査」

あなたご自身のことについて伺います。

A 性別：単数回答

N=646

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	男性	47.2	100.0	0.0	52.1	49.0	43.1
2	女性	52.8	0.0	100.0	47.9	51.0	56.9
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

B 年齢：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性
		%	%	%
1	18歳、19歳	2.1	1.1	0.9
2	20～29歳	8.7	4.5	4.2
3	30～39歳	11.4	5.9	5.6
4	40～49歳	14.4	7.4	7.1
5	50～59歳	14.7	7.3	7.4
6	60～64歳	8.4	3.7	4.7
7	65～69歳	10.2	5.4	4.7
8	70歳以上	30.0	11.8	18.3
	全体	100.0	100.0	100.0

C 現在居住している地区：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	第一学区	8.1	5.9	10.0	7.0	7.9	9.2
2	第二学区	6.7	6.9	6.7	12.6	5.4	5.0
3	第三学区	10.7	9.5	11.7	7.7	12.8	10.3
4	第四学区	7.6	8.2	6.7	3.5	8.3	9.2
5	第五学区	5.7	5.2	5.9	7.0	5.4	5.4
6	第六学区	10.9	13.7	8.2	12.6	11.2	9.6
7	斎	1.7	2.3	1.5	3.5	1.7	1.1
8	黄金	2.0	1.6	2.3	4.2	0.4	2.3
9	湯田川	0.3	0.3	0.3	0.7	0.0	0.4
10	大泉	2.1	2.3	1.8	0.7	2.9	1.9
11	京田	1.5	1.0	2.1	2.1	1.2	1.5
12	栄	1.0	1.6	0.6	0.7	1.7	0.4
13	田川	0.7	1.0	0.3	0.7	0.4	0.8
14	上郷	1.8	1.6	1.8	0.0	2.5	1.9
15	三瀬	1.6	1.0	2.3	3.5	0.4	1.5
16	小堅	0.5	1.0	0.0	0.7	0.0	0.8
17	由良	1.2	1.6	0.9	1.4	1.7	0.4
18	加茂	0.6	1.0	0.3	0.0	0.8	0.8
19	湯野浜	2.0	1.6	2.3	0.7	0.8	3.4
20	大山	3.7	3.3	4.1	3.5	2.5	5.0
21	西郷	3.0	3.6	2.3	7.7	0.8	2.7
22	藤島地区	6.7	6.5	6.7	4.9	8.3	6.1
23	羽黒地区	5.0	4.2	5.9	2.8	5.8	5.7
24	櫛引地区	5.1	4.9	5.3	6.3	6.6	3.1
25	朝日地区	2.6	3.3	2.1	2.1	4.1	1.5
26	温海地区	6.9	6.5	7.3	2.8	5.8	10.0
	無回答	0.4	0.3	0.6	0.7	0.8	0.0
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

D 職業：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	自営業	9.4	10.8	8.2	3.5	7.0	15.0
2	会社経営者、役員	2.5	3.6	1.5	0.0	4.1	2.7
3	正規雇用者	29.2	38.9	20.6	50.3	44.3	3.1
4	非正規雇用者（パート、アルバイト、派遣等）	14.1	10.1	17.6	16.8	17.2	10.0
5	公務員	6.0	7.2	5.0	7.0	11.5	0.4
6	専業主婦/主夫	8.7	0.3	16.5	3.5	6.1	14.2
7	無職	23.0	21.9	23.8	4.2	6.6	48.5
8	高校生・学生	3.0	2.6	3.2	13.3	0.0	0.0
9	その他	3.2	3.6	2.9	1.4	2.0	5.4
	無回答	0.8	1.0	3.3	0.0	1.2	0.8
	全体	100.0	100.0	0.8	100.0	100.0	100.0

D-1 職業の分野はなんですか(Dで1～4を選んだ方)：単数回答

N=360

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	農林水産業	8.6	11.8	4.8	3.8	4.6	22.9
2	建築・土木業	9.9	15.4	3.0	4.8	9.8	16.9
3	製造業	17.7	24.1	10.3	31.7	15.5	4.8
4	商業・サービス業	33.6	26.2	42.4	31.7	36.2	30.1
5	その他	18.9	13.3	25.5	18.3	21.3	14.5
	無回答	11.3	9.2	13.9	9.6	12.6	10.8
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

E 婚姻関係の有無：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	未婚	20.3	26.5	15.0	58.0	16.1	3.5
2	既婚（配偶者あり）	64.2	66.3	62.2	42.0	73.6	67.7
3	既婚（離別、死別）	14.5	6.9	21.4	0.0	10.3	26.5
	無回答	0.9	0.3	1.5	0.0	0.0	2.3
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

E-1 共働き(内職を含む)ですか(Eで2を選んだ方)：単数回答

N=415

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	共働きである	54.8	55.2	54.2	83.6	74.9	24.4
2	共働きでない	34.2	35.5	33.0	14.8	18.4	56.8
	無回答	11.0	9.4	12.7	1.6	6.7	18.8
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

F お子さんの有無：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	いる	71.0	63.9	77.4	36.4	72.8	88.1
2	いない	28.2	35.1	22.0	62.9	26.3	11.2
	無回答	0.8	1.0	0.6	0.7	0.8	0.8
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0



F-1 お子さんの就学段階とその人数(Fで1を選んだ方) N=459

①小学校入学前：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	1人	7.8	8.7	7.2	50.0	4.5	0.9
2	2人	3.9	4.6	3.4	23.1	1.7	0.9
3	3人	0.2	0.0	0.4	0.0	0.6	0.0
	無回答	88.1	86.7	89.1	26.9	93.2	98.3
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

②小学生：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	1人	10.0	12.4	8.0	25.0	17.5	0.9
2	2人	4.1	4.1	3.8	13.5	5.1	1.3
3	3人	0.3	0.5	0.0	1.9	0.0	0.0
	無回答	85.7	82.9	88.2	59.6	77.4	97.8
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

③中学生：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	1人	6.3	7.7	5.3	7.7	13.0	0.9
2	2人	1.0	1.0	0.8	0.0	1.1	0.9
	無回答	92.7	91.3	93.9	92.3	85.9	98.3
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

④高校生：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	1人	8.1	11.3	5.7	3.8	19.1	0.9
2	2人	2.2	1.5	2.7	0.0	2.2	2.6
3	3人	0.2	0.0	0.4	0.0	0.6	0.0
	無回答	89.5	87.2	91.3	96.2	78.1	96.5
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

⑤大学生、大学院生、短大生、専門学校生：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	1人	5.2	7.2	3.8	0.0	13.0	0.4
2	2人	0.3	0.0	0.8	0.0	0.6	0.4
	無回答	94.5	92.8	95.5	100.0	86.4	99.1
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

⑥社会人：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	1人	13.8	17.5	11.0	0.0	18.1	13.5
2	2人	33.0	30.4	35.2	0.0	21.5	49.6
3	3人	17.7	17.5	17.8	0.0	18.1	21.3
4	4人以上	0.7	0.0	0.0	0.0	1.1	0.4
	無回答	34.8	34.5	34.8	100.0	41.2	15.2
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

⑦その他：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	1人	1.9	1.5	2.3	0.0	1.7	2.6
2	2人	1.7	1.0	2.3	3.8	1.1	1.7
3	3人	0.1	0.0	0.4	0.0	0.6	0.0
	無回答	96.3	97.4	95.1	96.2	96.6	95.7
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

G 介護を必要とする方との同居の有無：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	同居している	16.4	13.8	18.8	14.0	18.5	15.8
2	同居していない	80.9	83.0	79.2	86.0	79.4	79.2
3	無回答	2.7	3.3	2.1	0.0	2.1	5.0
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

H 世帯の構成：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	ひとり暮らし	10.1	7.2	12.6	4.9	7.4	15.4
2	1世代（夫婦・パートナーのみ、兄弟姉妹のみ）	21.8	24.0	19.9	7.6	17.8	33.5
3	2世代（親と子）	38.9	41.4	36.7	44.4	47.5	27.7
4	3世代（親と子と孫）	24.7	22.7	26.4	36.1	23.6	19.6
5	その他	3.6	3.9	3.2	6.9	2.9	2.7
	無回答	0.9	0.7	1.2	0.0	0.8	1.2
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

I 出身地：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	鶴岡市内	76.0	81.0	71.3	85.9	76.2	70.0
2	庄内地域（鶴岡市除く）	13.2	10.8	15.2	4.2	13.1	18.1
3	山形県内（庄内地域除く）	4.2	2.9	5.3	3.5	4.1	4.6
4	山形県外	6.6	5.2	7.9	6.3	6.6	6.9
	無回答	0.1	0.0	0.3	0.0	0.0	0.4
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

J 市外での居住経験：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	鶴岡市以外に住んだことはない	40.2	41.6	39.0	43.4	27.6	50.8
2	鶴岡市以外の山形県内に住んだ経験がある	11.6	6.9	15.8	14.7	13.6	8.1
3	山形県外に住んだことがある	36.3	38.0	34.6	34.3	45.3	29.2
4	鶴岡市以外の山形県内、山形県外の両方に住んだ経験がある	10.6	12.1	9.4	7.0	13.2	10.0
	無回答	1.2	1.3	1.2	0.7	0.4	1.9
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

男女共同参画社会について

質問1 次にあげる言葉や法律を知っていますか。

①男女共同参画社会：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	言葉も意味も知っている	52.0	53.1	51.0	54.5	47.1	55.4
2	言葉は知っているが意味は知らない	25.4	25.9	24.9	19.6	31.0	23.1
3	言葉も意味も知らない	20.3	20.0	20.5	25.2	21.1	17.3
	無回答	2.3	1.0	3.5	0.7	0.8	4.2
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

②雇用機会均等法：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	言葉も意味も知っている	65.9	71.6	60.7	61.5	71.6	62.7
2	言葉は知っているが意味は知らない	23.6	20.6	26.4	25.9	22.6	23.5
3	言葉も意味も知らない	8.5	6.5	10.3	12.6	5.3	9.2
	無回答	2.0	1.3	2.6	0.0	0.4	4.6
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

③育児・介護休業法：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	言葉も意味も知っている	71.0	69.2	72.7	69.9	74.0	68.8
2	言葉は知っているが意味は知らない	19.9	21.0	18.8	18.9	21.1	19.2
3	言葉も意味も知らない	7.1	8.5	5.9	9.8	4.1	8.5
	無回答	2.0	1.3	2.6	1.4	0.8	3.5
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

④DV（ドメスティック・バイオレンス）：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	言葉も意味も知っている	81.7	83.0	80.6	95.1	90.5	66.5
2	言葉は知っているが意味は知らない	8.9	7.2	10.3	3.5	6.6	13.8
3	言葉も意味も知らない	6.7	7.9	5.9	0.7	2.5	13.8
	無回答	2.6	2.0	3.2	0.7	0.4	5.8
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

⑤DV防止法：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	言葉も意味も知っている	59.0	59.8	57.9	53.5	64.2	56.9
2	言葉は知っているが意味は知らない	26.7	25.5	27.8	28.5	30.0	22.7
3	言葉も意味も知らない	11.8	12.1	11.7	17.4	4.9	15.0
	無回答	2.5	2.6	2.6	0.7	0.8	5.4
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

⑥ワーク・ライフ・バランス：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	言葉も意味も知っている	36.8	37.0	36.5	52.1	39.9	25.5
2	言葉は知っているが意味は知らない	27.9	29.2	26.8	23.6	30.0	28.2
3	言葉も意味も知らない	32.6	31.8	33.5	23.6	29.2	40.5
	無回答	2.8	2.0	3.2	0.7	0.8	5.8
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

⑦イクボス：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	言葉も意味も知っている	25.4	27.5	23.5	16.8	33.5	22.4
2	言葉は知っているが意味は知らない	19.0	16.0	21.7	11.9	19.8	22.0
3	言葉も意味も知らない	52.3	53.6	51.0	70.6	45.5	49.0
	無回答	3.3	2.9	3.8	0.7	1.2	6.6
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

質問2 次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたのお気持ちに一番近いものを選んでください。  
 い。①家庭生活：単数回答

No.	選択肢	合計 %	男性 %	女性 %	18-39歳 %	40-64歳 %	65歳以上 %
1	女性が優遇されている	3.6	3.6	3.5	2.8	4.1	3.1
2	どちらかといえば女性が優遇されている	8.2	10.1	6.5	12.6	7.0	7.0
3	平等	30.6	37.3	24.4	43.4	26.3	27.5
4	どちらかといえば男性が優遇されている	37.6	35.0	40.0	19.6	40.3	45.0
5	男性が優遇されている	11.9	4.9	18.2	8.4	16.0	10.1
6	わからない	6.2	8.2	4.4	12.6	5.8	3.1
	無回答	2.0	1.0	2.9	0.7	0.4	4.3
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

②職場(家業・農業等を含む)：単数回答

No.	選択肢	合計 %	男性 %	女性 %	18-39歳 %	40-64歳 %	65歳以上 %
1	女性が優遇されている	1.8	2.9	0.6	4.2	1.2	0.8
2	どちらかといえば女性が優遇されている	7.7	8.2	7.3	10.6	8.6	5.4
3	平等	26.1	32.7	20.2	31.7	25.4	23.6
4	どちらかといえば男性が優遇されている	39.8	41.2	38.7	33.8	44.7	38.8
5	男性が優遇されている	13.9	8.8	18.5	9.9	13.9	16.3
6	わからない	7.0	5.2	8.8	9.9	4.9	7.4
	無回答	3.6	1.0	5.9	0.0	1.2	7.8
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

③就職活動の場：単数回答

No.	選択肢	合計 %	男性 %	女性 %	18-39歳 %	40-64歳 %	65歳以上 %
1	女性が優遇されている	0.8	1.3	0.6	2.1	0.8	0.4
2	どちらかといえば女性が優遇されている	2.3	2.6	1.8	2.8	2.1	2.3
3	平等	30.2	33.4	27.2	41.7	30.6	23.4
4	どちらかといえば男性が優遇されている	36.1	39.3	33.0	25.7	38.4	39.5
5	男性が優遇されている	7.3	4.3	10.2	2.8	8.7	8.4
6	わからない	19.6	17.0	21.9	25.0	17.4	18.4
	無回答	3.8	2.0	5.3	0.0	2.1	7.7
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

④学校教育の場：単数回答

No.	選択肢	合計 %	男性 %	女性 %	18-39歳 %	40-64歳 %	65歳以上 %
1	女性が優遇されている	1.1	2.0	0.6	2.1	0.8	0.8
2	どちらかといえば女性が優遇されている	2.6	3.3	1.8	4.9	2.1	1.5
3	平等	64.3	71.5	57.9	72.9	63.6	60.6
4	どちらかといえば男性が優遇されている	7.8	6.9	8.8	0.7	10.3	9.7
5	男性が優遇されている	2.4	0.7	3.8	0.7	2.9	2.7
6	わからない	18.1	14.1	21.5	18.8	19.4	16.6
	無回答	3.7	1.6	5.6	0.0	0.8	8.1
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

⑤政治の場：単数回答

No.	選択肢	合計 %	男性 %	女性 %	18-39歳 %	40-64歳 %	65歳以上 %
1	女性が優遇されている	0.3	0.3	0.3	0.0	0.4	0.4
2	どちらかといえば女性が優遇されている	1.2	1.6	0.9	2.8	0.4	1.2
3	平等	14.4	18.7	10.5	15.3	12.8	15.4
4	どちらかといえば男性が優遇されている	36.1	38.0	34.2	33.3	35.1	38.5
5	男性が優遇されている	34.1	29.2	38.6	31.9	42.1	28.1
6	わからない	11.4	11.1	11.4	16.7	8.3	11.2
	無回答	2.6	1.0	4.1	0.0	0.8	5.4
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

⑥社会活動の場(PTAや地域活動など)：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	女性が優遇されている	1.7	2.6	0.9	0.7	2.1	1.9
2	どちらかといえば女性が優遇されている	8.4	11.1	5.9	11.1	9.9	5.8
3	平等	35.1	38.2	32.4	38.9	33.7	34.2
4	どちらかといえば男性が優遇されている	24.2	23.5	24.7	13.9	25.9	28.1
5	男性が優遇されている	7.9	5.6	10.3	4.2	10.3	8.1
6	わからない	20.1	18.3	21.8	30.6	17.7	16.5
	無回答	2.5	0.7	4.1	0.7	0.4	5.4
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

⑦法律や制度の上：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	女性が優遇されている	2.0	4.3	0.3	5.6	1.6	0.8
2	どちらかといえば女性が優遇されている	4.5	7.2	2.1	9.1	4.5	1.9
3	平等	37.0	44.3	30.5	41.3	38.7	33.0
4	どちらかといえば男性が優遇されている	27.4	26.6	27.9	19.6	31.3	28.0
5	男性が優遇されている	9.5	4.9	13.5	3.5	8.6	13.4
6	わからない	16.7	11.8	21.1	19.6	14.0	17.6
	無回答	2.8	1.0	4.7	1.4	1.2	5.4
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

⑧社会通念、慣習、しきたりなど：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	女性が優遇されている	1.5	2.9	0.3	5.6	0.4	0.4
2	どちらかといえば女性が優遇されている	2.5	2.9	2.0	0.7	2.1	3.4
3	平等	12.7	15.7	9.9	19.6	12.4	9.2
4	どちらかといえば男性が優遇されている	41.6	43.1	40.4	28.0	39.7	51.3
5	男性が優遇されている	27.8	24.2	31.0	25.2	34.7	23.0
6	わからない	11.9	10.5	13.2	21.0	9.9	8.8
	無回答	1.9	0.7	3.2	0.0	0.8	3.8
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

質問3 次のような意見に対してどう思いますか。あなたのお気持ちに一番近いものを選んでください。

①男性は外で働き、女性は家庭を守るべき：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	あてはまる	3.8	4.3	3.5	2.8	1.2	6.6
2	どちらかといえばあてはまる	25.3	27.9	23.2	16.1	25.2	30.9
3	どちらかといえばあてはまらない	28.0	26.2	29.6	29.4	25.6	29.7
4	あてはまらない	41.5	41.6	41.3	51.7	47.9	29.7
	無回答	1.3	0.0	2.3	0.0	0.0	3.1
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

②子どもが3歳くらいまで母親は育児に専念すべき：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	あてはまる	12.7	13.1	12.3	7.0	9.1	19.2
2	どちらかといえばあてはまる	31.0	33.7	28.4	21.7	30.0	36.5
3	どちらかといえばあてはまらない	25.0	23.5	26.4	27.3	24.7	24.2
4	あてはまらない	30.1	29.7	30.5	44.1	35.8	17.3
	無回答	1.2	0.0	2.3	0.0	0.4	2.7
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

③家族を(経済的に)養うのは男性の役割だ：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	8歳~39歳	40歳~64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	あてはまる	16.2	18.7	13.8	11.9	14.0	20.8
2	どちらかといえばあてはまる	36.4	38.0	35.0	33.6	36.2	38.1
3	どちらかといえばあてはまらない	19.2	18.0	20.3	18.2	20.6	18.5
4	あてはまらない	26.6	24.6	28.5	35.7	28.4	20.0
	無回答	1.5	0.7	2.4	0.7	0.8	2.7
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

④公的に(国や地域や社会など)重要な決定をする仕事は、女性より男性に適している：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	あてはまる	8.7	6.9	10.3	4.9	3.7	15.4
2	どちらかといえばあてはまる	24.9	26.6	23.2	16.1	27.7	27.3
3	どちらかといえばあてはまらない	30.5	32.8	28.4	29.4	32.2	29.6
4	あてはまらない	34.0	33.4	34.6	49.7	36.0	23.5
	無回答	1.9	0.3	3.5	0.0	0.4	4.2
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

⑤家事や育児には男性より女性が適している：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	あてはまる	17.8	19.0	16.7	11.8	11.6	27.0
2	どちらかといえばあてはまる	48.6	51.0	46.6	51.4	52.9	43.2
3	どちらかといえばあてはまらない	17.6	17.0	17.9	16.7	22.3	13.5
4	あてはまらない	13.5	12.4	14.7	19.4	11.2	12.4
	無回答	2.5	0.7	4.1	0.7	2.1	3.9
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

⑥男性も家事・育児を行うことは当然である：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	あてはまる	49.1	44.6	53.1	66.0	56.2	33.2
2	どちらかといえばあてはまる	37.8	43.3	32.8	27.1	35.5	46.3
3	どちらかといえばあてはまらない	9.0	9.5	8.8	5.6	5.8	13.5
4	あてはまらない	2.8	2.0	3.2	1.4	2.5	3.9
	無回答	1.3	0.7	2.1	0.0	0.0	3.1
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

⑦できれば、女性も一生働き続けた方がよい：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	あてはまる	25.4	21.0	29.3	18.1	28.1	26.8
2	どちらかといえばあてはまる	45.6	46.9	44.6	50.7	46.7	41.8
3	どちらかといえばあてはまらない	18.6	23.3	14.4	21.5	17.8	17.6
4	あてはまらない	8.1	7.2	8.8	9.7	6.6	8.8
	無回答	2.3	1.6	2.9	0.0	0.8	5.0
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

⑧妻が勤めていれば夫(パートナー)も家事を分担すべきだ：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	あてはまる	54.8	44.6	64.1	60.4	59.1	47.7
2	どちらかといえばあてはまる	36.5	47.2	26.8	34.0	35.5	38.8
3	どちらかといえばあてはまらない	6.4	6.9	5.9	5.6	4.1	8.8
4	あてはまらない	1.1	1.0	1.2	0.0	1.2	1.5
	無回答	1.2	0.3	2.1	0.0	0.0	3.1
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

⑨女性は結婚したら家事・育児に専念すべきである：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	あてはまる	2.7	2.6	2.9	0.7	0.4	5.8
2	どちらかといえばあてはまる	10.8	11.8	9.7	5.6	9.5	15.1
3	どちらかといえばあてはまらない	37.0	40.3	33.8	46.5	36.6	32.0
4	あてはまらない	48.0	44.6	51.2	47.2	53.1	43.6
	無回答	1.6	0.7	2.4	0.0	0.4	3.5
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

⑩経済的に自立していればあえて結婚する必要はない：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	あてはまる	11.5	8.2	14.4	25.0	7.8	7.3
2	どちらかといえばあてはまる	18.0	16.1	19.9	22.9	22.6	11.2
3	どちらかといえばあてはまらない	29.5	33.1	26.1	28.5	32.1	27.7
4	あてはまらない	38.8	42.0	36.1	23.6	36.6	49.2
	無回答	2.2	0.7	3.5	0.0	0.8	4.6
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

⑪この地域は、子育てしやすい社会環境が整っている：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	あてはまる	7.2	6.2	7.9	4.2	5.4	10.8
2	どちらかといえばあてはまる	41.8	41.3	42.2	40.3	43.2	41.5
3	どちらかといえばあてはまらない	32.2	32.1	32.3	40.3	32.4	27.7
4	あてはまらない	15.5	17.7	13.8	15.3	15.8	15.4
	無回答	3.2	2.6	3.8	0.0	3.3	4.6
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

⑫男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしくしつけたほうがよい：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	あてはまる	15.5	17.3	13.8	7.7	9.9	25.4
2	どちらかといえばあてはまる	34.1	42.8	26.5	27.3	37.0	35.0
3	どちらかといえばあてはまらない	28.5	24.5	32.1	36.4	30.0	22.7
4	あてはまらない	20.6	15.0	25.6	28.7	23.0	13.8
	無回答	1.2	0.3	2.1	0.0	0.0	3.1
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

⑬この地域は古くからの考え方やしきたりに縛られることが多い：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	あてはまる	23.5	19.0	27.6	28.7	23.5	20.5
2	どちらかといえばあてはまる	43.4	43.6	43.2	42.0	45.7	42.2
3	どちらかといえばあてはまらない	20.0	23.6	16.8	18.9	21.4	19.4
4	あてはまらない	11.1	12.8	9.4	10.5	9.1	13.2
	無回答	2.0	1.0	2.9	0.0	0.4	4.7
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

⑭地域活動には積極的に参加していきたい：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	あてはまる	18.2	15.7	20.5	13.2	13.6	25.4
2	どちらかといえばあてはまる	43.5	45.4	41.6	41.7	46.1	42.3
3	どちらかといえばあてはまらない	25.5	25.8	25.2	28.5	27.6	21.9
4	あてはまらない	11.4	12.7	10.3	16.7	12.3	7.3
	無回答	1.3	0.3	2.3	0.0	0.4	3.1
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

生活のバランス等について

質問4 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域活動」、「個人の時間」の優先度について、あなたの希望に一番近いものを選んでください。：単数回答

No.	選択肢	合計 %	男性 %	女性 %	18-39歳 %	40-64歳 %	65歳以上 %
1	「仕事」を優先したい	3.2	6.6	0.3	5.7	1.2	3.5
2	「家庭生活」を優先したい	9.8	8.9	9.7	11.3	11.2	6.2
3	「地域活動」を優先したい	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.4
4	「個人の時間」を優先したい	8.1	8.6	6.8	16.3	5.4	5.0
5	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	23.1	24.0	21.8	15.6	30.2	20.5
6	「仕事」と「地域活動」をともに優先したい	1.1	1.3	0.9	1.4	0.4	1.5
7	「仕事」と「個人の時間」をともに優先したい	9.3	10.5	8.2	9.2	11.6	7.3
8	「家庭生活」と「地域活動」をともに優先したい	3.4	3.3	2.9	0.7	0.4	6.9
9	「家庭生活」と「個人の時間」をともに優先したい	19.1	14.5	23.2	24.1	20.2	15.4
10	「地域活動」と「個人の時間」をともに優先したい	1.5	2.3	0.9	0.7	1.7	1.5
11	全て均等にしたい	11.7	10.9	12.6	12.1	10.3	13.1
12	わからない	5.6	3.9	7.1	1.4	5.0	8.5
	無回答	5.3	4.9	5.6	1.4	2.5	10.0
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

質問5 あなたご自身への質問E「婚姻関係の有無」で、②既婚(配偶者あり)を選んだ方にお伺いします。配偶者との役割分担について、理想と現実をお答えください。 N=415

A 仕事／(1)現状：単数回答

No.	選択肢	合計 %	男性 %	女性 %	18-39歳 %	40-64歳 %	65歳以上 %
1	夫婦が共に担う	33.8	36.5	31.1	33.3	37.6	30.3
2	夫婦が共に担い、夫が中心になる	39.3	37.9	40.6	51.7	39.9	34.9
3	夫婦が共に担い、妻が中心になる	6.1	4.4	7.5	5.0	6.2	5.7
4	夫のみが担う	11.6	12.3	10.8	10.0	13.5	10.3
5	妻のみが担う	1.0	1.5	0.9	0.0	1.1	1.1
6	わからない	1.2	2.0	0.5	0.0	0.6	2.3
	無回答	7.0	5.4	8.5	0.0	1.1	15.4
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

A 仕事／(2)理想：単数回答

No.	選択肢	合計 %	男性 %	女性 %	18-39歳 %	40-64歳 %	65歳以上 %
1	夫婦が共に担う	47.0	47.8	46.2	48.3	52.8	40.2
2	夫婦が共に担い、夫が中心になる	35.6	33.0	37.7	45.0	36.1	32.2
3	夫婦が共に担い、妻が中心になる	1.6	2.5	0.9	0.0	2.2	1.7
4	夫のみが担う	4.7	6.4	3.3	6.7	3.3	5.2
5	妻のみが担う	0.4	0.0	0.9	0.0	1.1	0.0
6	わからない	2.4	2.5	2.4	0.0	2.8	2.9
	無回答	8.3	7.9	8.5	0.0	1.7	17.8
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

B 家事・育児・介護／(1)現状：単数回答

No.	選択肢	合計 %	男性 %	女性 %	18-39歳 %	40-64歳 %	65歳以上 %
1	夫婦が共に担う	21.1	19.6	22.2	30.0	20.8	18.1
2	夫婦が共に担い、夫が中心になる	4.8	4.4	5.7	3.3	3.4	6.8
3	夫婦が共に担い、妻が中心になる	47.4	52.9	42.0	56.7	53.9	37.9
4	夫のみが担う	0.2	0.5	0.0	0.0	0.0	0.6
5	妻のみが担う	17.8	14.2	21.2	10.0	19.7	18.6
6	わからない	1.4	2.5	0.5	0.0	1.1	2.3
	無回答	7.2	5.9	8.5	0.0	1.1	15.8
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0



**B 家事・育児・介護／(2)理想：単数回答**

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	夫婦が共に担う	53.2	48.5	57.5	55.7	57.5	48.0
2	夫婦が共に担い、夫が中心になる	2.7	2.9	2.4	1.6	2.2	3.4
3	夫婦が共に担い、妻が中心になる	32.9	37.7	28.3	42.6	34.6	28.0
4	夫のみが担う	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5	妻のみが担う	1.1	1.0	1.4	0.0	1.1	1.1
6	わからない	1.9	2.5	1.4	0.0	2.2	2.3
	無回答	8.2	7.4	9.0	0.0	2.2	17.1
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

**C 地域活動／(1)現状：単数回答**

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	夫婦が共に担う	29.2	31.0	28.9	45.8	31.5	23.4
2	夫婦が共に担い、夫が中心になる	20.7	23.6	18.0	11.9	24.2	20.0
3	夫婦が共に担い、妻が中心になる	7.9	7.9	8.1	5.1	11.8	5.1
4	夫のみが担う	11.0	14.3	8.1	1.7	14.0	10.9
5	妻のみが担う	10.7	6.4	14.7	1.7	9.6	14.9
6	わからない	12.1	10.8	13.3	33.9	5.1	11.4
	無回答	7.7	5.9	9.0	0.0	3.9	14.3
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

**C 地域活動／(2)理想：単数回答**

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	夫婦が共に担う	52.6	53.2	51.9	46.7	52.5	54.9
2	夫婦が共に担い、夫が中心になる	16.9	15.3	18.4	13.3	22.9	12.0
3	夫婦が共に担い、妻が中心になる	4.6	5.9	3.3	6.7	5.0	3.4
4	夫のみが担う	3.1	3.0	3.3	1.7	4.5	2.3
5	妻のみが担う	0.9	0.5	1.4	0.0	1.1	1.1
6	わからない	13.8	14.8	12.7	31.7	11.7	9.7
	無回答	8.1	7.4	9.0	0.0	2.2	16.6
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

**就業状況・職場環境について**

6 あなたご自身への質問D「職業」で①～⑤(仕事をしている)を選んだ方にお伺いします。勤めている会社等で、①～⑧の各制度の状況はどのようになっていますか。また各制度について、あなたの取得・利用状況をお答えください。

ア 制度について／①育児休業：単数回答 N=397

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	制度あり	58.8	52.6	65.9	76.6	62.9	24.4
2	制度なし	19.6	22.3	16.5	5.4	22.9	30.5
3	わからない	14.8	18.1	11.0	18.0	12.2	17.1
4	無回答	6.8	7.0	6.6	0.0	2.0	28.0
5	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

ア 制度について／②介護休業：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	制度あり	40.1	39.4	40.9	39.6	50.5	14.6
2	制度なし	23.5	25.0	21.5	17.1	23.5	31.7
3	わからない	28.6	28.2	29.3	42.3	24.0	22.0
4	無回答	7.8	7.4	8.3	0.9	2.0	31.7
5	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

ア 制度について／③子ども看護休暇：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	制度あり	30.0	30.7	29.3	35.7	35.1	9.9
2	制度なし	21.9	21.9	22.1	9.8	26.3	27.2
3	わからない	39.2	38.6	39.8	53.6	35.6	28.4
4	無回答	8.9	8.8	8.8	0.9	2.9	34.6
5	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

ア 制度について／④介護休暇：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	制度あり	39.5	40.7	39.4	42.3	49.3	12.2
2	制度なし	20.5	19.2	20.6	9.9	22.2	30.5
3	わからない	31.4	30.8	31.4	46.8	27.1	20.7
4	無回答	8.5	9.3	8.5	0.9	1.5	36.6
5	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

ア 制度について／⑤有給の時間休：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	制度あり	65.2	62.0	69.1	69.6	75.6	32.9
2	制度なし	19.1	24.5	12.7	16.1	18.0	25.6
3	わからない	8.4	6.5	10.5	14.3	5.4	8.5
4	無回答	7.3	6.9	7.7	0.0	1.0	32.9
5	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

ア 制度について／⑥定時退勤日、ノー残業デーの設定など定時退勤の推進：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	制度あり	38.7	39.5	37.4	47.7	42.2	17.3
2	制度なし	37.3	41.4	32.4	32.4	42.2	32.1
3	わからない	16.2	12.1	21.4	19.8	14.7	14.8
4	無回答	7.8	7.0	8.8	0.0	1.0	35.8
5	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

ア 制度について／⑦フレックスタイム：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	制度あり	18.8	21.3	16.0	18.0	25.4	3.7
2	制度なし	53.0	57.9	47.0	54.1	57.6	39.5
3	わからない	20.0	13.4	27.6	27.0	16.1	19.8
4	無回答	8.3	7.4	9.4	0.9	1.0	37.0
5	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

ア 制度について／⑧在宅勤務制度、テレワーク：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	制度あり	2.7	1.9	3.8	1.8	3.9	1.2
2	制度なし	66.7	70.7	61.5	70.5	74.5	41.5
3	わからない	21.7	19.5	24.2	25.9	19.6	20.7
4	無回答	9.0	7.9	10.4	1.8	2.0	36.6
5	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

イ あなたの取得・利用状況／①育児休業：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	取得した	10.1	0.9	20.9	18.0	8.8	2.5
2	取得する機会があったが、取得しなかった	11.3	15.3	6.0	9.0	16.1	2.5
3	取得の機会はまだないが、あれば取得したい	10.1	7.0	13.7	25.2	5.4	1.2
4	取得の機会はまだなく、あっても取得しない	4.7	6.5	2.7	2.7	4.4	7.4
5	取得に該当しない	51.6	56.7	45.6	38.7	57.6	54.3
	無回答	12.3	13.5	11.0	6.3	7.8	32.1
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

イ あなたの取得・利用状況／②介護休業：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	取得した	0.2	0.5	0.0	0.0	0.5	0.0
2	取得する機会があったが、取得しなかった	3.5	2.8	4.4	0.9	4.9	2.4
3	取得の機会はまだないが、あれば取得したい	23.7	19.1	29.1	30.4	27.5	4.9
4	取得の機会はまだなく、あっても取得しない	5.7	7.4	3.8	1.8	8.3	4.9
5	取得に該当しない	49.9	54.0	45.1	54.5	45.6	54.9
	無回答	16.9	16.3	17.6	12.5	13.2	32.9
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

イ あなたの取得・利用状況／③子ども看護休暇：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	取得した	3.5	1.9	6.1	5.4	4.4	0.0
2	取得する機会があったが、取得しなかった	4.9	5.1	4.4	2.7	7.4	1.2
3	取得の機会はまだないが、あれば取得したい	14.4	11.6	17.7	23.4	13.7	2.4
4	取得の機会はまだなく、あっても取得しない	2.2	3.7	0.6	0.0	3.4	2.4
5	取得に該当しない	53.7	57.4	49.2	53.2	52.9	57.3
	無回答	21.3	20.4	22.1	15.3	18.1	36.6
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

イ あなたの取得・利用状況／④介護休暇：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	取得した	0.7	0.5	1.1	0.0	1.5	0.0
2	取得する機会があったが、取得しなかった	3.3	1.9	4.9	0.9	4.9	2.5
3	取得の機会はまだないが、あれば取得したい	24.7	20.0	30.2	28.8	30.7	3.7
4	取得の機会はまだなく、あっても取得しない	4.4	6.0	2.2	3.6	5.4	3.7
5	取得に該当しない	48.3	53.0	42.9	54.1	43.4	53.1
	無回答	18.6	18.6	18.7	12.6	14.1	37.0
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

イ あなたの取得・利用状況／⑤有給の時間休：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	取得した	50.5	46.3	54.6	56.8	59.8	19.5
2	取得する機会があったが、取得しなかった	3.3	4.2	2.7	4.5	2.5	3.7
3	取得の機会はまだないが、あれば取得したい	7.9	6.9	9.3	9.9	8.3	2.4
4	取得の機会はまだなく、あっても取得しない	0.8	1.4	0.0	0.0	1.0	1.2
5	取得に該当しない	23.5	28.2	18.0	23.4	18.1	37.8
	無回答	14.0	13.0	15.3	5.4	10.3	35.4
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

イ あなたの取得・利用状況／⑥定時退勤日、ノー残業デーの設定など定時退勤の推進：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	取得した	38.5	37.5	39.3	47.3	43.6	14.6
2	取得する機会があったが、取得しなかった	5.4	4.6	6.6	3.6	6.9	3.7
3	取得の機会はまだないが、あれば取得したい	4.2	4.6	3.8	4.5	4.9	1.2
4	取得の機会はまだまだなく、あっても取得しない	2.9	3.2	2.7	4.5	2.9	0.0
5	取得に該当しない	34.1	38.4	29.0	31.8	31.4	43.9
	無回答	15.0	11.6	18.6	8.2	10.3	36.6
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

イ あなたの取得・利用状況／⑦フレックスタイム：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	取得した	7.4	7.4	7.7	8.8	9.3	1.2
2	取得する機会があったが、取得しなかった	209.0	3.7	1.6	2.7	3.9	1.2
3	取得の機会はまだないが、あれば取得したい	10.9	10.6	11.0	13.3	13.7	1.2
4	取得の機会はまだまだなく、あっても取得しない	2.4	2.8	2.2	3.5	2.5	1.2
5	取得に該当しない	54.0	57.4	50.0	49.6	55.4	55.4
	無回答	22.3	18.1	27.5	22.1	15.2	39.8
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

イ あなたの取得・利用状況／⑧在宅勤務制度、テレワーク：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	取得した	0.5	0.0	1.1	0.0	1.0	0.0
2	取得する機会があったが、取得しなかった	0.3	0.5	0.0	0.0	0.5	0.0
3	取得の機会はまだないが、あれば取得したい	7.9	9.3	6.0	9.0	10.3	0.0
4	取得の機会はまだまだなく、あっても取得しない	0.9	0.9	1.1	0.0	1.5	1.2
5	取得に該当しない	66.0	67.9	63.7	70.3	67.2	58.0
	無回答	24.4	21.4	28.0	20.7	19.6	40.7
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

質問7 質問6の育児休業「イ あなたの取得・利用状況」で「2 取得する機会があったが、取得しなかった」、「4 取得の機会はまだまだなく、あっても取得しない」を選んだ方にお伺いします。

育児休業を利用しなかった(利用しない)理由は何ですか。：複数回答 N=63

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	育児休業制度が整備されていないから	15.4	12.8	23.5	0.0	14.6	37.5
2	職場が取得しづらい雰囲気だから	28.5	29.8	25.0	53.8	23.8	11.1
3	取得について会社や上司、職場の理解がないから	4.8	6.4	0.0	0.0	2.4	22.2
4	収入を減らしたくないから	23.5	25.0	18.8	23.1	24.4	22.2
5	取得により仕事なくなったり契約終了(解雇)の心配があった	7.4	10.6	0.0	7.7	4.9	11.1
6	業務が繁忙であったから	24.6	27.7	18.8	23.1	26.2	22.2
7	復職する際に仕事や職場の変化に対応できないと思ったから	10.0	10.6	6.3	7.7	9.5	12.5
8	自分にしかできない仕事や担当している仕事があったから	29.2	25.5	37.5	7.7	35.7	25.0
9	昇給や昇格など今後のキャリア形成に悪影響があると思ったから	15.6	19.1	5.9	23.1	14.6	0.0
10	配偶者や家族から後押しがなかった、または反対があったから	10.5	10.6	12.5	23.1	4.8	22.2
11	家族や保育所など、自分以外に育児の担い手がいたから	31.4	25.5	50.0	7.7	41.5	22.2
12	取得しなくても育児参加しやすい働き方や職場環境だったから	2.9	2.1	5.9	0.0	4.8	0.0
13	男性でなく女性が取得するもの方思っていたから	11.5	14.9	0.0	15.4	4.9	33.3
14	その他	6.5	6.3	11.8	15.4	4.8	0.0
15	わからない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

質問8 男性が、育児休業や介護休業・休暇を取得することについてどう思いますか。：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	とった方がよい	30.9	33.3	28.8	35.4	38.9	21.1
2	どちらかといえばとった方がよい	34.8	37.9	32.1	45.1	37.3	26.4
3	どちらかといえばとらない方がよい	5.2	4.2	6.2	6.3	4.1	5.7
4	とらない方がよい	1.8	2.0	1.5	0.7	1.6	2.7
5	わからない	10.2	11.1	9.4	9.0	11.5	9.6
	無回答	17.1	11.4	22.1	3.5	6.6	34.5
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

質問9 質問8で「3 どちらかといえばとらない方がよい」、「4 とらない方がよい」を選んだ方にお伺いします。

そう考えるのはどのような理由ですか。：複数回答 N=45

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	経済的に苦しくなる	42.3	38.9	44.4	40.0	57.1	33.3
2	職場の理解が得られない	35.2	36.8	33.3	40.0	42.9	28.6
3	仕事の評価や配属に影響する	19.5	15.8	22.2	0.0	50.0	9.1
4	男性より女性にとるべきである	46.7	31.6	55.6	60.0	35.7	47.6
5	地域において男性が育児・介護に参加しにくい	7.4	10.5	3.8	0.0	14.3	9.1
6	男性の育児・介護のスキルが乏しい	26.0	26.3	26.9	40.0	42.9	9.5
7	周囲に取得した男性がいない	31.1	26.3	34.6	60.0	28.6	19.0
	その他	2.0	5.3	0.0	0.0	0.0	4.5

質問10 仕事と、仕事以外の生活との調和がとれるようになるには、どのようなことが必要だと思いますか。：複数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	職場での働き方の見直し	50.3	56.7	44.6	73.4	56.0	32.3
2	職場での育児休暇（休業）等が取得しやすい雰囲気づくり	54.4	55.4	53.5	67.8	62.1	40.0
3	多様な能力が発揮できる職場環境の整備	29.6	31.8	27.6	42.0	26.9	25.4
4	一人ひとりの仕事と生活の調和のとれたライフスタイルの実践	28.3	31.8	25.0	45.5	31.0	16.2
5	家庭生活への男性の積極的な参画の促進	39.5	33.1	45.2	51.0	40.3	32.3
6	子どもの頃から家庭生活・仕事・地域に主体的にかかわる意識の醸成	30.8	30.8	30.9	36.4	33.7	25.0
7	多様な育児・保育・介護サービスの提供	33.6	32.5	34.6	49.3	35.4	23.1
8	健康づくり・スポーツ・文化等を身近な地域で楽しめる仕組みづくり	21.6	23.6	19.6	22.4	19.8	22.3
9	部下のWLB・キャリアと組織の業績等に貢献できる経営者・上司増加	31.0	31.8	30.2	49.0	34.3	18.1
10	病気等になっても働き続けられる制度・職場環境の整備	44.4	40.3	48.1	54.5	48.8	35.0
11	その他	4.0	2.6	5.0	6.3	6.2	0.4
12	わからない	3.9	4.2	3.8	1.4	1.2	7.7

女性活躍推進について

質問11 女性の就労に対する企業や行政による支援としては、どのようなことが必要だと思いますか。：複数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	保育・介護のための施設やサービス	69.1	65.6	72.1	66.4	73.6	66.5
2	男女ともに取得しやすい育児・介護休業制度の啓発・促進	64.4	61.4	67.1	75.5	65.3	57.7
3	パートタイム・派遣労働などの雇用の安定や労働条件整備	55.4	51.5	58.9	64.3	53.5	52.3
4	労働条件における男女平等の推進	43.3	46.2	40.5	49.0	37.0	46.2
5	女性の職種・職域の拡大	39.7	43.9	35.8	51.4	35.4	36.9
6	募集・採用の男女平等の確立	34.2	34.4	34.0	39.6	27.6	37.3
7	就業のための技能習得支援、就職情報の充実	32.2	31.5	32.8	29.9	27.2	38.5
8	再就職講座やセミナーなどの充実	25.3	21.3	28.7	25.9	19.3	30.4
9	女性就労についての啓発や広報	21.8	21.3	22.3	24.3	15.6	26.2
10	労働問題や苦情処理窓口の充実	26.6	24.9	27.9	18.2	21.8	35.4
11	女性の起業支援	21.5	20.6	22.6	24.5	18.1	23.1
12	賃金の引き上げ	53.3	49.2	57.1	56.6	55.6	49.6
13	その他	2.0	3.0	1.2	1.4	2.9	1.2

質問12 女性の活躍推進の取組のため、どのような情報が特に必要だと思いますか。：複数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	保育所や幼稚園、放課後児童クラブに関する情報	61.4	62.1	60.7	70.1	65.7	52.3
2	介護・家事の支援サービスに関する情報	59.6	58.8	60.4	57.3	62.6	58.1
3	就職・再就職のための職業訓練に関する情報	39.1	33.7	44.0	45.5	33.9	40.4
4	企業・NPO活動のための情報	16.9	17.4	16.5	18.2	13.2	19.6
5	仕事と育児・介護との両立支援制度に関する情報	57.8	55.7	59.5	65.7	55.6	55.4
6	出産・育児などを経ながら就業を継続している女性のモデル事例情報	32.7	36.7	29.0	47.2	28.8	28.5
7	積極的に家事・育児に参加する男性のモデル事例に関する情報	26.0	28.2	24.0	28.0	24.3	26.5
8	ワーク・ライフ・バランスの推進や働き方の見直しの実践例に関する情報	34.0	32.8	35.2	45.5	32.9	28.5
9	その他	1.2	1.3	1.2	0.0	1.2	1.9
10	わからない	6.4	6.9	6.2	4.2	4.1	9.6

質問13 次の分野において、女性の意見や考え方が反映されていると思いますか。 N=646

①町内会等の自治会：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	十分反映されている	7.3	8.9	6.2	7.0	6.6	8.5
2	ある程度反映されている	39.8	45.2	35.0	32.2	38.3	45.4
3	あまり反映されていない	18.6	17.0	20.0	14.7	23.5	16.2
4	ほとんど反映されていない	9.5	6.6	12.1	8.4	11.1	8.8
5	どちらともいえない	18.2	14.8	21.2	35.0	15.2	11.5
	無回答	6.6	7.5	5.6	2.8	5.3	9.6
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

②職場：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	十分反映されている	11.0	9.5	12.4	17.6	14.0	4.2
2	ある程度反映されている	41.8	47.1	36.8	46.5	50.4	31.5
3	あまり反映されていない	17.5	19.0	16.2	14.1	18.2	18.8
4	ほとんど反映されていない	3.7	2.0	5.3	2.8	4.1	3.8
5	どちらともいえない	11.7	10.8	12.6	16.2	7.9	12.7
	無回答	14.4	11.8	16.8	2.8	5.4	28.8
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

③PTA、保護者会：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	十分反映されている	15.5	17.6	13.8	16.0	14.0	16.5
2	ある程度反映されている	44.7	49.7	40.2	51.4	50.8	35.2
3	あまり反映されていない	6.2	5.9	6.5	0.7	9.1	6.5
4	ほとんど反映されていない	1.4	1.3	1.5	0.0	2.5	1.1
5	どちらともいえない	17.0	14.4	19.4	26.4	16.9	12.3
	無回答	15.1	11.1	18.8	5.6	6.6	28.4
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

④政治：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	十分反映されている	2.9	3.6	2.1	4.2	2.9	2.3
2	ある程度反映されている	27.1	33.4	21.5	35.7	28.9	20.8
3	あまり反映されていない	29.4	28.2	30.6	24.5	30.6	30.8
4	ほとんど反映されていない	14.8	12.5	16.8	9.8	19.0	13.8
5	どちらともいえない	17.3	14.4	19.7	23.1	13.6	17.3
	無回答	8.6	7.9	9.4	2.8	5.0	15.0
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

⑤県や市町村の施策：単数回答

		合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
No.	選択肢	%	%	%	%	%	%
1	十分反映されている	2.5	2.9	2.1	4.2	2.5	1.5
2	ある程度反映されている	31.8	38.1	26.1	37.1	33.2	27.3
3	あまり反映されていない	25.5	23.8	27.0	16.8	29.1	26.9
4	ほとんど反映されていない	9.5	10.1	9.1	7.7	11.5	8.5
5	どちらともいえない	20.9	16.6	24.6	29.4	18.4	18.8
	無回答	9.8	8.5	11.1	4.9	5.3	16.9
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

質問14 質問13で「ウ あまり反映されていない」または「エ ほとんど反映されていない」と答えた項目があった方にお伺いします。反映されていない理由は何だと思えますか。：複数回答

		合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
No.	選択肢	%	%	%	%	%	%
1	女性議員が少ない	53.6	54.3	53.1	54.4	52.5	54.4
2	企業等の管理職に女性が少ない	46.4	43.3	48.8	42.0	45.2	49.3
3	行政機関の管理職に女性が少ない	38.4	36.0	40.3	36.2	33.1	45.0
4	県や市町村の審議会、委員会などに女性が少ない	33.3	30.9	35.4	33.3	29.7	37.6
5	自治会長や組合団体、地域組織リーダーに女性が少ない	52.6	57.3	49.1	44.9	51.9	57.3
6	女性自身の意欲や責任感が乏しい	37.5	33.5	40.8	24.6	35.4	46.0
7	男性の意識、理解が足りない	37.8	32.3	42.2	36.2	39.2	37.3
8	社会の仕組みが女性に不利である	38.8	35.2	41.7	36.8	43.7	34.2
9	女性の能力に対する偏見がある	33.3	30.9	35.4	29.4	36.1	32.2
10	その他	3.1	2.4	3.3	5.8	2.5	2.7

学校教育について

質問15 男女平等の視点で学校教育を進めるために、どのような取組が必要だと思えますか。：複数回答

		合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
No.	選択肢	%	%	%	%	%	%
1	性別にとらわれず、本人の個性や能力を生かす教育の充実	73.0	73.4	72.4	83.2	71.2	68.8
2	名簿や座席など、学生生活において男女を分ける習慣を改める	15.5	16.7	14.4	25.0	13.2	12.3
3	日常の学校生活の中で男女平等意識を養うような教育の充実	42.4	42.6	42.1	38.5	42.0	45.0
4	男女平等意識を育てるような授業内容の工夫をする	30.2	34.8	26.2	35.4	27.2	30.0
5	男女平等教育の為に教材や訓練本を取り入れる	15.0	15.1	15.0	17.4	10.7	18.1
6	教職員に対し、男女平等の意識啓発、研修などを行う	33.3	34.1	32.6	42.0	30.5	30.8
7	男女ともに生活と仕事のバランスを考えられるような教育の充実	42.2	40.7	43.5	49.7	42.1	38.1
8	性別による役割分担意識を改善する教育の充実	23.9	22.3	25.2	35.4	21.0	20.4
9	男女の違いを認め、豊かな人間関係づくりに関する性の教育の充実	42.2	41.6	42.8	44.8	39.1	43.8
10	その他	3.1	3.0	3.2	4.2	2.1	3.5

DV(ドメスティック・バイオレンス)について

質問16 あなたはこれまでに、次のようなことを「パートナーからされた」または「パートナーにした」経験がありますか。①殴ったり蹴ったりなどの身体的暴力：

		合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
	選択肢	%	%	%	%	%	%
ア	したこともされたこともまったくない	76.6	77.7	75.7	85.4	80.7	67.7
イ	1、2回された	8.0	5.2	10.3	7.0	9.1	7.7
ウ	何回もされた	2.5	1.3	3.5	0.0	2.9	3.8
エ	1、2回した	6.1	8.9	3.5	4.2	7.4	5.8
オ	何回もした	0.9	1.0	0.9	0.0	0.0	2.3

②暴言、脅迫、無視などの精神的暴力

	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
選択肢	%	%	%	%	%	%
ア したこともされたこともまったくない	68.0	70.5	65.7	77.1	70.2	60.8
イ 1、2回された	10.5	8.9	12.0	11.1	12.3	8.5
ウ 何回もされた	7.0	3.3	10.6	4.2	8.2	7.7
エ 1、2回した	8.0	11.5	5.0	9.0	7.0	8.5
オ 何回もした	3.0	2.0	4.1	0.7	5.4	1.9

③生活費を渡さないなどの経済的暴力

	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
選択肢	%	%	%	%	%	%
ア したこともされたこともまったくない	84.4	87.5	81.5	91.0	88.1	76.9
イ 1、2回された	2.8	1.0	4.7	2.1	2.9	3.5
ウ 何回もされた	2.3	0.7	3.8	0.7	3.7	1.9
エ 1、2回した	0.3	0.3	0.3	0.0	0.8	0.0
オ 何回もした	0.1	0.3	0.0	0.0	0.0	0.4

⑤性的行為の強要などの性的暴力

	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
選択肢	%	%	%	%	%	%
ア したこともされたこともまったくない	85.0	86.3	83.9	88.9	89.7	78.5
イ 1、2回された	3.3	1.3	5.0	4.2	4.1	1.9
ウ 何回もされた	1.4	0.7	2.1	0.7	2.1	1.5
エ 1、2回した	0.7	1.6	0.0	0.0	0.0	1.9
オ 何回もした	0.3	0.7	0.0	0.0	0.4	0.4

⑤友人や親、兄弟姉妹に会わせないなどの社会的暴力

	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
選択肢	%	%	%	%	%	%
ア したこともされたこともまったくない	86.9	87.3	86.5	88.1	92.6	81.2
イ 1、2回された	2.3	1.6	2.9	2.8	2.5	1.9
ウ 何回もされた	1.2	1.0	1.2	2.8	1.2	0.4
エ 1、2回した	0.3	0.7	0.0	0.0	0.0	0.8
オ 何回もした	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

⑥子どもの前で暴力をふるうなど、子どもを巻き込んだ暴力

	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
選択肢	%	%	%	%	%	%
ア したこともされたこともまったくない	84.3	84.9	83.8	90.3	88.0	77.7
イ 1、2回された	2.5	2.0	2.9	2.1	2.5	2.7
ウ 何回もされた	1.8	0.7	2.6	0.7	2.5	1.5
エ 1、2回した	2.1	3.3	1.2	1.4	3.3	1.5
オ 何回もした	0.4	0.3	0.6	0.0	0.8	0.4

⑦その他

	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
選択肢	%	%	%	%	%	%
ア したこともされたこともまったくない	29.9	32.0	27.9	47.2	35.0	15.4
イ 1、2回された	0.1	0.0	0.3	0.0	0.0	0.4
ウ 何回もされた	0.1	0.0	0.3	0.0	0.4	0.0
エ 1、2回した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
オ 何回もした	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0



質問17 質問16で「イ 1、2回された」または「ウ 何回もされた」と答えた項目があった方にお伺いします。N=180

そのことについて相談した相手はいますか。：複数回答

No.	選択肢	合計 %	男性 %	女性 %	18-39歳 %	40-64歳 %	65歳以上 %
1	家族、親戚	34.7	23.6	41.7	50.0	31.5	31.6
2	友人、知人	19.4	15.3	22.2	34.5	21.9	11.5
3	行政等の相談機関	5.3	2.7	7.4	0.0	2.8	8.9
4	警察署	1.9	0.0	3.7	3.4	1.4	1.3
5	だれ（どこ）にも相談しなかった	34.6	28.8	38.3	27.6	36.1	35.4
6	その他	2.0	4.2	0.9	0.0	4.1	1.3

質問18 質問17で「5 だれ（どこ）にも相談しなかった」を選んだ方にお伺いします。

だれにも相談しなかったのはなぜですか。：複数回答

No.	選択肢	合計 %	男性 %	女性 %	18-39歳 %	40-64歳 %	65歳以上 %
1	だれ（どこ）にも相談してよいのかわからなかったから	6.1	4.8	7.1	0.0	7.7	3.6
2	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	18.0	9.5	22.0	0.0	23.1	17.9
3	相談しても無駄だと思ったから	31.9	28.6	33.3	37.5	26.9	35.7
4	自分さえがまんすればなんとかこのままやっていけると思ったから	36.0	25.0	41.5	50.0	34.6	34.5
5	世間体が悪いから	5.7	4.8	7.1	0.0	0.0	13.8
6	他人を巻き込みたくなかったから	17.1	4.8	23.8	25.0	7.7	25.0
7	他人に知られるとこれまでどおりの付き合いができないと思ったから	5.5	4.8	7.1	0.0	3.8	7.1
8	そのことについて思い出したくなかったから	7.7	4.8	9.5	25.0	7.7	3.6
9	自分にも悪いところがあると思ったから	37.7	47.6	31.7	25.0	34.6	44.8
10	相談するほどのことではないと思ったから	54.3	57.1	52.4	62.5	55.6	50.0
11	行政機関等には相談しづらいと感じたから	3.1	0.0	4.8	0.0	3.7	3.6
12	その他	4.6	0.0	7.1	25.0	3.7	3.4

質問19 デートDV(交際相手からの暴力)、DV(配偶者からの暴力)、セクシュアルハラスメント、ストーカー、性暴力などの行為が社会問題になっています。このような行為を予防しなくすためには、どうすればよいと思いますか：複数回答

No.	選択肢	合計 %	男性 %	女性 %	18-39歳 %	40-64歳 %	65歳以上 %
1	学校における男女平等や性についての教育を充実させる	34.5	34.8	34.3	38.5	37.0	30.0
2	学校で思いやりの気持ちや生命の大切さの教育を充実させる	53.0	56.2	50.1	55.2	58.7	46.5
3	DV、セクシュアルハラスメント、ストーカーなどに関する啓発をする	37.9	39.3	36.7	57.3	37.4	27.7
4	被害者のための窓口や相談所を充実させる	49.8	49.2	50.4	65.7	55.4	36.2
5	保護施設（民間シェルターを含む）を充実させる	35.7	32.1	39.0	46.9	40.7	25.0
6	加害者に対するカウンセリングや更生プログラムなどを充実させる	36.4	33.8	38.5	42.0	37.2	32.3
7	地域での見守り活動や防犯体制を強化する	30.2	31.5	29.0	37.1	30.2	26.5
8	過激な内容の雑誌・ビデオ・ゲームソフト等の販売、貸し出しの制限	24.2	19.3	28.4	18.8	22.2	29.2
9	その他	4.9	6.9	3.2	4.9	7.8	2.3

## LGBT等性的少数者について

質問20 次の言葉と意味について知っていますか。：単数回答 N=646

①セクシュアル・マイノリティ（性的少数者、性的マイノリティ）

No.	選択肢	合計 %	男性 %	女性 %	18-39歳 %	40-64歳 %	65歳以上 %
1	よく知っている	16.6	16.0	17.1	27.1	18.5	8.8
2	ある程度知っている	39.2	39.5	38.8	41.0	47.7	29.9
3	言葉は聞いたことがあるが内容はあまり知らない	21.2	21.2	21.2	20.1	18.9	23.8
4	聞いたことがない	14.4	16.0	12.9	11.1	11.1	19.5
	無回答	8.7	7.2	10.0	0.7	3.7	18.0
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

②LGBT（エルジービーティ）：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	よく知っている	15.9	14.1	17.4	29.4	16.5	8.1
2	ある程度知っている	36.1	36.1	36.2	44.1	45.3	22.8
3	言葉は聞いたことがあるが内容はあまり知らない	15.9	16.1	15.9	11.9	16.0	18.1
4	聞いたことがない	21.9	23.9	20.0	14.0	17.3	30.5
	無回答	10.3	9.8	10.6	0.7	4.9	20.5
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

③カミングアウト：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	よく知っている	24.5	21.6	27.0	34.5	31.0	13.0
2	ある程度知っている	34.8	34.6	34.9	40.8	45.0	21.8
3	言葉は聞いたことがあるが内容はあまり知らない	16.7	17.0	16.4	14.1	11.6	22.6
4	聞いたことがない	14.2	17.6	11.1	9.2	7.4	23.4
	無回答	9.9	9.2	10.6	1.4	5.0	19.2
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

④アウトティング：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	よく知っている	4.8	4.6	5.0	9.0	4.5	3.1
2	ある程度知っている	8.5	8.5	8.5	6.3	13.2	5.4
3	言葉は聞いたことがあるが内容はあまり知らない	14.5	13.8	15.0	18.1	14.0	13.0
4	聞いたことがない	61.7	63.9	59.8	66.0	64.0	57.1
	無回答	10.5	9.2	11.7	0.7	4.1	21.5
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

⑤SOGI（ソジ）：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	よく知っている	2.2	2.6	1.8	3.5	2.1	1.5
2	ある程度知っている	4.7	4.3	5.0	4.2	5.8	4.2
3	言葉は聞いたことがあるが内容はあまり知らない	8.7	8.9	8.5	10.4	8.2	8.4
4	聞いたことがない	73.8	74.3	73.6	79.9	79.4	65.1
	無回答	10.6	9.9	11.1	2.1	4.5	20.7
	全体	100.0	100.0	100.0	1.0	1.0	1.0

質問21 次の①～⑧の身近な方から、「セクシュアル・マイノリティである」などと打ち明けられたとき、それを受け入れられますか。あなたの考えに一番近いものをお答えください。：単数回答

①両親

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	受け入れられる	14.4	15.4	13.5	37.1	14.0	2.7
2	受け入れられない	20.3	22.3	18.7	20.3	18.5	22.2
3	すぐには判断できない	50.2	46.6	53.2	42.0	60.9	44.4
	無回答	15.1	15.7	14.6	0.7	6.6	30.7
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

②兄弟姉妹：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	受け入れられる	22.6	19.6	25.2	51.7	21.4	7.3
2	受け入れられない	15.6	17.0	14.4	9.8	15.2	19.3
3	すぐには判断できない	47.6	48.7	46.6	37.8	57.2	44.0
	無回答	14.3	14.7	13.8	0.7	6.2	29.3
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

③配偶者：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	受け入れられる	13.6	14.4	12.9	32.6	11.5	5.4
2	受け入れられない	25.6	26.2	24.9	21.5	27.9	25.8
3	すぐには判断できない	46.5	44.9	47.8	45.1	53.7	40.4
	無回答	14.3	14.4	14.4	0.7	7.0	28.5
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

④子ども：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	受け入れられる	19.6	17.4	21.7	49.0	17.7	5.4
2	受け入れられない	14.6	14.8	14.4	11.2	11.5	19.6
3	すぐには判断できない	52.2	53.1	51.3	39.2	64.2	47.7
	無回答	13.6	14.8	12.6	0.7	6.6	27.3
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

⑤友人：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	受け入れられる	38.5	34.8	42.1	74.8	42.4	15.0
2	受け入れられない	9.0	10.2	7.9	6.3	5.8	13.5
3	すぐには判断できない	38.6	40.7	36.8	18.2	45.3	43.8
	無回答	13.9	14.4	13.2	0.7	6.6	27.7
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

⑥職場の同僚・同じ学校の人：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	受け入れられる	41.0	38.4	43.2	76.4	46.9	16.1
2	受け入れられない	6.7	7.5	6.2	3.5	3.7	11.5
3	すぐには判断できない	38.3	39.7	37.1	19.4	43.2	43.7
	無回答	14.0	14.4	13.5	0.7	6.2	28.7
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

⑦親戚(両親・兄弟姉妹・配偶者・子ども以外)：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	受け入れられる	36.0	33.8	38.0	67.1	41.2	13.8
2	受け入れられない	8.3	9.2	7.6	4.2	5.8	13.1
3	すぐには判断できない	41.9	43.0	40.9	28.0	46.5	45.4
	無回答	13.8	14.1	13.5	0.7	6.6	27.7
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

⑧隣近所の人：単数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	受け入れられる	41.2	40.0	42.2	73.9	49.4	15.8
2	受け入れられない	7.3	8.5	6.2	4.9	4.9	10.8
3	すぐには判断できない	37.8	36.7	38.7	20.4	39.9	45.0
	無回答	13.8	14.8	12.9	0.7	5.8	28.5
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

質問22 セクシュアル・マイノリティの方に対して、どのような支援や対策が必要だと思いますか。：複数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	相談できる窓口の設置	58.7	60.1	57.5	59.7	59.3	57.7
2	気持ちや情報を共有できる居場所づくり	53.0	46.6	58.7	65.0	60.7	39.2
3	いじめや差別を禁止する法律や条例の制定	38.1	36.1	40.0	45.5	40.7	31.5
4	行政職員や教職員に対する研修の実施	30.6	27.5	33.2	30.1	35.0	26.5
5	企業等に対する啓発活動の実施	24.7	25.6	23.8	24.5	30.0	19.6
6	地域住民に対する啓発活動の実施	22.5	24.6	20.5	21.7	30.9	15.0
7	幼少期からの教育の充実	37.0	36.1	37.8	46.2	43.2	26.2
8	更衣室やトイレ、制服など男女で区別されているものに対する配慮	36.8	30.2	42.6	54.5	39.1	25.0
9	同性同士のパートナーであることを証明する行政の証明書等の発行	24.9	21.9	27.6	42.7	25.5	14.6
10	同性同士のパートナーやその家族に対する法律上の権利や保護の規程等	28.7	24.3	32.6	44.1	29.6	19.2
11	必要な物はない	1.1	1.3	0.9	0.7	1.2	1.2
12	その他	1.8	0.7	2.6	2.8	1.2	1.5
13	わからない	12.0	11.1	12.6	4.2	9.5	18.5

行政による取組について

質問23 男女が平等な立場で協力し合っていくために鶴岡市としてどのような取組を進めるとよいと思いますか：複数回答

No.	選択肢	合計	男性	女性	18-39歳	40-64歳	65歳以上
		%	%	%	%	%	%
1	女性や男性の生き方や悩みに関する情報提供の充実	36.3	36.4	36.4	41.7	32.2	36.9
2	あらゆる分野への女性の積極的な参加の促進	36.9	40.3	33.7	35.0	36.4	38.5
3	行政の政策決定などへの女性の参画、登用の促進	38.9	40.0	37.8	35.7	33.5	45.8
4	男女双方に対しての意識啓発、学習機会の充実	37.4	37.0	37.5	38.5	32.5	41.3
5	子どものときから、学校で平等意識を育てる教育の充実	52.1	47.2	56.3	50.7	49.0	55.8
6	就労機会や労働条件の男女格差を解消するための働きかけ	39.3	39.3	39.3	49.0	35.5	37.3
7	子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職の支援	59.4	53.4	64.5	58.0	57.2	61.9
8	鶴岡市が男女共同参画のモデル事業所として行動	29.4	29.8	29.0	27.8	23.9	35.4
9	育児・保育・介護サービスの充実	64.1	57.4	70.1	72.0	60.7	63.1
10	子どもを産み育てやすい環境づくり(助成制度、産科医の充実等)の促進	62.5	55.7	68.3	70.6	57.2	63.1
11	配偶者等からの暴力被害者への支援、セクハラ防止対策の働きかけ	29.1	25.9	32.0	37.1	24.7	28.8
12	その他	3.5	3.3	3.8	1.4	4.1	3.8

## 【参考資料4】 自由記述一覧

- D⑨その他
- ・シルバー人材
  - ・農業 ※女性
  - ・専従者
  - ・医療
  - ・左官
- D-2⑤その他 (「運輸・運送」はサービス業に含めた)
- ・専門職
  - ・金融業
  - ・保育士
  - ・営業
  - ・事務
  - ・介護
  - ・保育
  - ・介護員
  - ・教育
  - ・福祉
  - ・福祉
  - ・運転業務
  - ・福祉
  - ・医療
  - ・事務
  - ・ケアマネ
  - ・団体職員
  - ・運送
  - ・介護職
  - ・介護職
  - ・介護職
  - ・医療
  - ・生保外交員
  - ・栄養士
  - ・医療
  - ・保育
  - ・電気設備
  - ・金融
  - ・介護施設と学童
  - ・医療事務
  - ・介護
  - ・介護職
  - ・配達員
  - ・介護
  - ・医療関係
  - ・福祉
  - ・カウンセラー
  - ・医療業
  - ・看護師
  - ・A作業所
  - ・求職中
  - ・シルバー人材
  - ・医療
  - ・金融業
  - ・医療
  - ・介護
  - ・福祉
  - ・介護職
  - ・介護員
  - ・医療・福祉
- F-2⑦その他
- ・作業所通所

- H⑤その他
- ・ 4世代
  - ・ 4世代
  - ・ 4世代
  - ・ 4世代
  - ・ 4世代
  - ・ 4世代
  - ・ 4世代
  - ・ 2人
  - ・ 祖母も
  - ・ 4世代
  - ・ 4世代
- 4-⑪欄外
- ・ (※全て均等にしたい) 均等ではないが優先順番がある
  - ・ 無職者は？
- 6欄外
- ・ 自営業で自宅で仕事をしていたので、仕事しながら育児も介護もして来れた。休み
- 7-⑭その他
- ・ 小規模事業所だから、積極的には考えなかった
  - ・ 配偶者が取得したから
  - ・ (※非該当) 農業だったのであてはまるのがない
  - ・ 子、孫、育児の時期を過ぎている
  - ・ 転職した後にあったのでもう遅かった (前職にはなかった)
- 9-⑧その他
- ・ (※非該当) 休暇を取った時の影響を懸念します。
- 10-⑪その他
- ・ 収入が保障され安定していること
  - ・ 経営者の考え方によると思う
  - ・ やりたいことへの学習や資格取得の促進
  - ・ 男女共同参画の国際比較データの教育、広報
  - ・ 家庭の話し合い、家族の理解
  - ・ 仕事に見合った収入を得られる事
  - ・ 安定した経済
  - ・ 人手不足の解消、効率化、上層部の意識改革、感覚が全くちがう
  - ・ 景気回復に向けての努力
  - ・ 職場の業務量に見合った適正な人員配置がなされ、定時勤務ができること
  - ・ 時間とお金のゆとりが保障される職場づくり
  - ・ 世代間の考えの相違があろうが、様々な意味で幸福を求めること
  - ・ 理解、お互い様、人間性
  - ・ 本人の調和をとろうとする意志
  - ・ 気軽に相談できる環境・システム作り
  - ・ 趣味や学習などのサークルに参加する
  - ・ 収入の安定
  - ・ 制度がどんなにかわったとしても男性が介護が出来るとは思わない。こまごまなことが出来ないと思う。
  - ・ チームの協調性 ある程度の情報共有
  - ・ 上の世代の常識を押しつけない 若い世代への理解
  - ・ 日本人の意識改革
  - ・ 休暇を取る本人が仕事に意欲がないと休暇が別の意味でとられる (※ママ) ので注意が必要
  - ・ 転勤への配慮
- 11-⑬その他
- ・ 家庭を守るため、一時的にキャリアダウンしたタイミングがあるが、離職以外の選択肢がない
  - ・ 育児、産休が不利にならない様な仕組み
  - ・ 女性の意識を変えることも促していく
  - ・ 年齢制限の見直し又は削除
  - ・ 女性自身の就労に対する考え方を変える
  - ・ 必要とされる情報が画一的にならないよう
  - ・ 妊娠～子育てで差別不利益取り扱いされないこと

- 12-⑨その他
- ・男性や高齢者が理解を広げる機会
  - ・女性が社会について学ぶ機会に関する情報
  - ・産後うつ・マタニティブルーに関する男親（または祖母）への情報
  - ・女性自身の意識の持ち方、自己の責任で。
  - ・中学以上の教育
  - ・女性消防団
- 14-⑩その他
- ・女性参画を良しとしない団塊世代が多すぎる（経験あり）
  - ・男性中心の業界だから
  - ・上司が社員の意見を聞かない
  - ・トップに立つ女性と家庭を支える女性の間乖離。大きい社会を作りたい人たちと自分のまわりが良ければ良い人たちの差
  - ・女性をもっと意見を言ってもよいと感じるようにすること
  - ・結婚、出産への理解不足
  - ・収入
  - ・わからない
  - ・何事につけても女性の意識、積極性がない
- 15-⑩その他
- ・出産は女性しかできないので、男性にその大変さを教育する
  - ・親への教育も同時にすすめないと子供の考えにウラオモテが生じると思う
  - ・質問がナンセンス???
  - ・専門家を呼び、生徒、先生、親が同じ場所で考えられるようなワークショップ
  - ・男女の枠におさまりたい人と個人を尊重したい人がいるので、教職員がどのような思想をもっているか把握し、その特性ごとに学校を作る。保護者が学校をえらべるしくみを作る。
  - ・男女とセクシャリティマイノリティについて学ぶ機会の充実、人権教育
  - ・座席は高学年では分ける
  - ・学校でせっかく男女平等を学んでも、家庭内でギャップがあるので、孫親学級の時に取り上げてもらうとか。
  - ・長年叫ばれて来たが実現しないのは何故か 政治か？社会か？個人か？その掘り下げがない
  - ・何故スポーツでは男女混同のものがないのか。男子は男子別、女子は女子
  - ・現状で問題無いと思う
  - ・家事を男性もできるような教育、家庭科重実（※充実？）
- 16-⑦その他
- ・借金をされたその返済に苦労
- 17-⑥その他
- ・ナンセンス
  - ・学校
- 18-⑫その他
- ・「自分にも悪いところがあった」と相手に思わされていたから
  - ・（※⑩を選択）何十年後に本を読んでそういう事を言う人の心理状態はこうなのだということを知り全てが腑に落ちた
  - ・ナンセンス
  - ・2人の問題である
  - ・心配をかけたくなかったから
- 19-⑨その他
- ・子どもを（ママ）育て方、自己肯定感がない
  - ・学校がすべてを担うのか？
  - ・幼少期からの子育てでのしかた
  - ・職場内での情報の共有
  - ・学校での教育も大切だが、家庭（親）の教育が一番大切である
  - ・貧困をなくしていく
  - ・家庭におけるしつけや学習
  - ・自分で解けつできるていどの事
  - ・家庭教育、家庭生活の充実
  - ・働く環境を整える。不安や不満なく過ごすことができるようにする
  - ・家庭においても②と同様なことを話す
  - ・夫婦が仲良くあれば、子供は良く見ているので、家族が仲良くすることが一番だと思います。
  - ・被害に合いそうな場所を探し、マップ化して誰でも情報を手に入れられるようにす

- ・小さい時から自然の中で育てること。ケガをしたり、虫を殺したりするけいけんをすること
- ・上記内容ではなくならないと思う。
- ・そもそも子どもの時の家庭教育がきちんとされていない。なくならないと思う。
- ・加害者がなぜそのような行為に及んでしまったのかについて、加害者の精神・気分（メンタル）から分析する。
- ・家庭でも小さい頃からおしえる。学校だけには押しつけず
- ・道徳教育 家庭環境への理解・補助
- ・家庭教育の中で人間1人1人に対する思いを育てる。
- ・道徳教育の充実
- ・大人が模範になる
- ・家庭においても、思いやりの気持ち、生命の大切さの教育が大充実させる！
- ・情報時代の中で日常的に暴力的映像が多過ぎます。心身の成長がないのに目からの情報だけが山のように入り、痛みを理解しないまま、やっつけてしまっているのだと思
- ・事業の公開と厳罰化

#### 21欄外

- ・回答者が当事者である可能性を忘れた質問内容ではないですか？
- ・かなりとまどうが、どういうものかなど勉強して受け入れたいです

#### 22-⑫その他

- ・21のような質問が不要になる位、社会へなじむために必要な活動や干渉をしない
- ・個人の勝手
- ・出会いの場、コン活パーティー。よそからの参加者も見込めるので行政としてwin
- ・家族性を考慮し、配偶者ともよく話し合う
- ・同性愛は認められません
- ・行政や病院等の窓口の対応
- ・あると思うが当人が何を必要とするか、である。
- ・同性同士の結婚

#### 23-⑫その他

- ・DV等加害者へのカウンセリング、更生プログラムなど
- ・保育園の充実は大切な事ですが、それ以前に働く女性が子どもが3才くらいまでは自分で育てられる社会のしくみを考える方がお金がかからずできるのでは。公務員は育休制度があるが。幼少期に親の愛情充分に育った人が大人になり性的事件をおこしてやるような気がする。我が子は自分の手で育てることが大切です。子どもが3才くらいまで子育てをして社会に復帰できる制度が必要だと思う
- ・男性の人がオドして早く仕事をさせようとする。好意をあらためさせる（パワハラ）（ショウガイのある人に対して）
- ・この世で本当に平等なのは命位であり平等を意識しすぎるとかえって不平等な気がします。平等より個々のちがいを受け入れ認め合う社会「おたがい様」が自然にできる日々を目指したいと私は思う。
- ・わかりません
- ・学校で子どもに教育することも大切だけれども、まずは道徳的な躰はそれぞれの家庭の親が教えるべき（なんでもかんでも学校の先生に・・・？これは余りにも家庭を持つ親は無責任である。「本末転倒」 国も地方も教育の大切は申しておりますが、総て学校に押し付けている様では永遠に改善できるものではないと思います。各市町村の各自治体で家庭向けの指導の義務づけが良いと思う（定期的に繰り返す）。子供は親を見て成長するもの。道徳は政治家から学べ（追伸）
- ・男女それぞれの特性を互いに理解するための機会の充実
- ・家庭での通常の生活
- ・法律などで、感じ方など守らなければならない事など明記する
- ・非正規雇用の職員（特に女性）からの意見を市職員と同じようにあつかう
- ・こうしてアンケートを取った以上、行政は特にだが、地域含めて皆の心の安定がゆとりあるものでなければならぬと思う。アンケートがアンケートだけにならない様願います。
- ・まず性差による能力の差（身体的、精神的）があることを学校、企業で教育すること。特性を理解し、女性をどのように利用、活用することが、女性本人、社会のためになるのかを理解できる人が登用を検討すべき。「平等にする」という考え方こそが男女を分断し、マイノリティの生きづらさにも通じるように思います。平等ではなく特性を生かすにシフトしてほしい。
- ・鶴岡市職員の中にも一市民にかえっての社会貢献、ボランティア精神が足りない面が見られる。自ら率先して改めることが必要（一事が万事）
- ・市役所、議員の皆さんの意識改革。鶴岡の行政は考えが古く思います。AIやNETのシステムも進んでいない。無駄な作業が多く、この様な問題に取り組んでいますか？



- ・根本的に男性から女性の過少評価、女性の男性（特にパートナー）への優位性の要求（例えば高い収入を期待するなど）を改めていく活動
  - ・行きやすい、温かな味方、行政になって下さい
  - 期待しない
  - ・上記項目達成の為、鶴岡市（職員を含め）全体の意識向上につとめてほしい。
  - ・わかりません
- いつもやってる家事、仕事、男女交換してやってみる取組。平等でなくてもお互いを尊重できる気持ち大切です。
- ・成人男性への家庭科再教育、家事の基礎学習（大さじ小さじとか洗たく表示とか）

欄外自由記述

- ・若い方向けのアンケートに思われます。
- ・私は70才代後半です。昭和40年代に夫と結婚の為、この地に来ました。娘2人を生み育て、夫と一緒に孫3人を育て、昨年夫を見送り、今は1人暮らし、これからは健康である事を望んでいる今です。少女時代は母親から男性を立てるように、母親から育てられ、サラリーマンの妻として家庭を守り子育てをしてきた者です。今回のアンケートを見て時代の流れが良くわかります。だからもっと若い人にアンケートをお願いしてもらいたかったです。
- ・4ページしか答え出来ません。申し訳ありません。頭痛がひどくなって来ました。
- ・（※23について）女性、女性（？）です？質問自体が片寄っていませんか？
- ・質問が多過ぎる！！字を大きく！！
- ・仕事もできない障害者になった者にアンケート記入とはバカにしている 気分が良くない（※ママ）。選別にもっと気をつけてほしいものです。以上
- ・女には制約があったり不自由なこともあり、男に生まれたかったと思ったこともありました。平等ってむずかしい
- ・私は78才です。私が働いていた時代と現代では制度も意識も相違があり、現代の理解が不足していると思います。アンケートの集計ご苦労様です。より良き社会になるよう願っています。
- ・（※1ページに）85才、ずーと昔退職、地域活動から引退した人間には答え出来ないこと多し、若い人をお願いすべき。学者やヒマ人が考えた質問文章でハイハイと二つ返事で書く人が居るだろうか？